

令和 4 年 度
(2 0 2 2)

病 院 年 報

市 立 敦 賀 病 院

病 院 理 念

市立敦賀病院は、地域の医療をささえ、
信頼され、温もりのある病院をめざします。

基 本 方 針

- ・ 嶺南の中核病院として、地域の医療介護福祉施設との連携を深め、地域の医療の発展に努めます。
- ・ 患者さん中心の安全、安心な医療を行います。
- ・ 患者さんにやさしい、開かれた病院をつくります。
- ・ 質の高い効率的な医療をわかりやすく提供します。
- ・ やりがいと誇りをもった職員を育成し、チーム医療を推進します。

市立敦賀病院 院長 新井良和

令和4年度(2022年度)の年報を刊行するにあたり、ご挨拶を申し上げます。

令和4年度はコロナ禍が始まって3年目となりましたが、前年度同様、新型コロナウイルス感染症への対応に忙殺される1年となりました。当院は、感染症指定医療機関(第二種)として、また新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、通常診療と並行しながら、多くの感染患者の診療にあたったほか、発熱外来の設置や検査の拡充・ワクチン接種を行うなど、職員一丸となって取り組んできました。一時はウイルス変異により、収束と感染拡大を繰り返すコロナ感染症に翻弄され、職員にも感染が拡大し欠勤者が増え、一部病棟閉鎖や、救急受け入れ、新規入院の制限など診療の維持が困難となる局面もありました。しかし、地域の医療機関の皆様との役割分担・連携強化のおかげでごく短期間を除いて診療を継続することができました。心から感謝申し上げます。

このような影響で令和4年度の医業収支は令和3年度より悪化しています。新型コロナウイルス感染拡大に伴って減少していた入院患者数・外来患者数は、以前の水準にはまだまだ回復してきておりません。病床確保料があり最終的に令和4年度は黒字決算となりましたが、確保料がなければ大きなマイナス決算でありました。これを機に各診療科の診療内容・診療体制の再検証と改善にも取り組んでいきたいと考えています。今後人口減少、少子超高齢化が進む中、この二州地域で必要とされる医療は何なのか、再度原点に立ち返って考え、病院一同一致団結してこの苦境を乗り越えて参りたいと思います。

当院としてはコロナ禍での経験を無駄にせず、改めて「地域の医療をささえ、信頼され、温もりのある病院」を目指し、救急、がん、周産期、小児、災害等に関わる医療を提供する重要な役割を引き続き担ってまいります。

今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

令和6年2月

目 次

I 病院の沿革及び現況

1	病院の沿革	1
2	病院の概要	3
3	施設の概要	4
4	設備の概要	4
5	設備基準等届出一覧	5
6	組織図	6
7	職員の現況	7
8	入院部屋数	8
9	経営の概要	9
10	経営分析	10
11	委員会一覧	12
12	対外活動	13

II 決算概要

1	収益的収入及び支出	17
2	資本的収入及び支出	19
3	貸借対照表	19
4	診療行為別診療収入の状況	20

III 企業債・減価償却の状況

1	企業債・減価償却の状況	23
(1)	企業債の年度別状況	23
(2)	減価償却額の年度別状況	23

IV 各部署の活動状況

1	診療部	25
2	医療安全管理室	25
3	感染制御センター	27
4	医療支援部	29
(1)	人材確保育成室	29
(2)	地域医療連携室	30
(3)	患者相談室・がん相談支援センター	31
(4)	入退院支援室	33

5	医療技術部	34
(1)	検査室	35
(2)	放射線室	37
(3)	リハビリテーション室	38
(4)	臨床工学技術室	40
(5)	栄養管理室	41
(6)	歯科衛生室	42
6	薬剤部	44
7	看護部	45
8	事務局	47
(1)	総務企画課	47
(2)	医療サービス課	48
9	訪問看護ステーションつなぐ	49
10	各委員会の活動状況	50

V 業務の概要

1	患者の状況	67
(1)	入院・外来別患者数	67
(2)	患者数の推移	67
(3)	診療科別患者数	68
(4)	市町村別患者数	69
(5)	月別患者数	70
(6)	救急患者の取扱状況	72
(7)	患者搬送の状況	75
2	人間ドックの状況	76
3	中央手術室業務の状況	77
4	種類別麻酔件数	77
5	内視鏡検査件数	77
6	周産期医療の状況	78
7	薬剤室業務の状況	79
(1)	調剤業務の状況	79
(2)	服薬指導の状況	79
(3)	注射剤調製の状況	79
(4)	後発医薬品採用率	79
8	人工透析の状況	79
9	放射線科（室）の状況	80
(1)	撮影の状況	80
(2)	紹介患者の取り組み	80

(3) 血管撮影検査の状況	80
(4) MR I 検査の状況	80
(5) CT 検査の状況	80
(6) 核医学検査の状況	81
(7) 放射線治療の状況	81
(8) マンモグラフィーの状況	82
(9) 骨密度検査の状況	82
(10) エコー検査の状況	82
(11) 透視検査の状況	82
10 臨床検査の状況	83
(1) 各種検査件数	84
(2) 生理機能検査件数	84
(3) 血液製剤使用量	85
11 リハビリテーションの状況	85
12 患者給食及び栄養指導の状況	86
13 死亡患者数及び病理解剖件数	86
14 医療福祉相談の状況	87
(1) 相談受付状況	87
(2) ご意見及び要望の状況	87
(3) 患者相談内容別件数	87
(4) 入院説明・案内の状況	87
(5) ボランティア活動状況	87
15 地域医療連携の状況	87
(1) 紹介及び逆紹介の状況	87
(2) 開放型病床の状況	88
(3) 地域包括ケア病棟の状況	88
(4) 退院支援の状況	88
(5) 地域連携パスの状況	88
(6) ふくいメディカルネット運用件数	88
16 医療安全の状況	88
(1) インシデント・アクシデントレポートの提出状況	88
17 院内がん登録の状況	89
(1) 部位別院内がん登録の状況	89
(2) 経緯別院内がん登録の状況	90
18 COVID 対応	91

VI DPCの概要

1 DPC係数の状況	93
------------	----

Ⅶ 研究業績

1 診療部	95
2 医療支援部	103
3 医療技術部	104
4 看護部	107

Ⅷ 臨床研修プログラム概要

令和4年度年度市立敦賀病院臨床研修プログラム概要と実績	111
-----------------------------------	-----

参考資料

○ 市立敦賀病院の患者権利章典	119
○ 市立敦賀病院職業倫理規程	121
○ 医療事故防止のための8カ条	122

I 病院の沿革及び現況

1 病院の沿革

明治15年 2月	県立敦賀病院開設
明治24年 4月	郡制施行に伴い郡立敦賀病院に改称
大正12年 4月	郡制廃止により敦賀郡町村組合立病院に改称
昭和18年 4月	日本医療団へ現物出資
昭和24年 2月	病院開設許可（昭和24年2月1日 福井県指令医第462号）
昭和24年 4月	日本医療団より全施設組合に返還
昭和30年 1月	町村合併により市立敦賀病院に改称
昭和38年 3月	2ヵ年度継続事業で病院本館、鉄筋コンクリート造・4階建 全面改築（4,487㎡）完成（一般172床、伝病20床、結核40床）
昭和44年10月	2ヵ年度継続事業で救急診療棟、鉄筋コンクリート造・4階建 増設（2,190㎡）完成（一般232床、伝病25床、結核40床）
昭和48年 4月	医師住宅1号棟、鉄筋コンクリート造・2階建（7戸）完成
昭和49年 4月	医師住宅2号棟、鉄筋コンクリート造・2階建（8戸）完成
昭和54年 5月	木造病棟を取り壊し、中央診療棟（放射線部門・手術部門病棟） 鉄筋コンクリート造・4階建増改築（3,223㎡①）完成 （一般276床、伝病25床、結核28床）
昭和62年10月	3ヵ年度継続事業で本館診療棟、鉄筋コンクリート造・7階建 増改築（12,068㎡②）完成（合計床面積 18,454㎡） （一般276床、伝病25床）
平成元年10月	神経科精神科（外来）開設
平成 5年 4月	循環器科・消化器科・麻酔科開設
平成 6年10月	3ヵ年度継続事業で東診療棟、救急診療棟、鉄筋コンクリート造 5階建増改築（6,486㎡③）完成 （東病棟…完成・同年4月、運用開始・同年6月） （合計床面積①②③ 21,777㎡）（一般348床、伝病10床）
平成 7年 1月	土曜閉院完全実施
平成 7年12月	3ヵ年度継続事業で電算情報トータルシステム整備完了
平成 9年 3月	医師住宅及び駐車場敷地購入（3,906.06㎡）
平成10年11月	医師住宅新築工事竣工 鉄筋コンクリート造・5階建（2,520.96㎡） 妻帯用12戸、単身用8戸
平成11年 1月	旧医師住宅解体
平成11年 4月	第二種感染症指定医療機関に指定（一般348床、感染症2床）
平成12年 3月	立体駐車場完成 鉄骨造2階建（4,273.18㎡）（253台収容）
平成14年 9月	神経内科開設
平成15年 9月	第3次整備建設着工（平成15年度～平成18年度継続事業）
平成15年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43号取得
平成15年11月	厚生労働省管理型臨床研修病院指定 第030944号
平成17年 3月	第3次整備建設工事のうち北診療棟（7,815㎡）完成
平成18年 7月	リハビリテーション科開設
平成18年10月	病床数変更（一般373床、感染症2床）
平成18年12月	第3次整備建設工事完成
平成20年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-2号取得（更新）

平成20年12月	中期経営計画策定（第1次）
平成21年 1月	電子カルテ導入
平成21年 5月	病床数変更（一般330床、感染症2床）
平成22年 4月	給食業務全面委託開始
平成23年 2月	DMA T 隊編成
平成23年 4月	D P C 請求病院開始
平成23年 6月	DMA T 指定医療機関
平成23年 7月	DMA T 隊第2班編成
平成23年10月	救急科開設
平成24年 7月	リハビリ棟耐震補強工事完成（全棟耐震化完了）
平成24年 8月	院内保育所開設
平成25年10月	公益財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-3号取得（更新）
平成26年 2月	第2次中期経営計画策定
平成26年 3月	医薬品S P D 導入
平成26年10月	地域包括ケア病棟開設
平成27年10月	原子力災害対策施設整備工事完成
平成27年10月	地域包括ケア病棟増設（2病棟71床体制）
平成28年 4月	地方公営企業法の全部適用へ移行
平成28年 6月	自治体立優良病院表彰受賞
平成29年 3月	第2次中期経営計画改訂
平成29年 4月	形成外科、心臓血管外科を開設 消化器内科（元消化器科）、循環器内科（元循環器科・心臓血管外科）へ 名称変更
平成30年 4月	訪問診療開始
平成30年 4月	特定行為指定研修機関に認定
平成30年10月	市立敦賀病院訪問看護ステーション「つなぐ」開設
平成30年10月	公益財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-4号取得（更新）
平成31年 4月	人材確保育成室・在宅医療推進室・入退院支援室の設置
令和 2年11月	発熱外来を設置
令和 3年 1月	乳腺外科を開設
令和 3年 1月	がん相談支援センターを設置
令和 5年 2月	電子カルテ更新
令和 5年 4月	地域がん診療連携拠点病院指定
令和 5年 4月	医療情報センターの設置
令和 5年 8月	病理診断科を開設

2 病院の概要（令和5年4月1日現在）

- 名 称 市立敦賀病院（昭和24年2月1日 福井県指令医第462号）
- 所在地 福井県敦賀市三島町1丁目6番60号
- 開設者 敦賀市 敦賀市長 瀧上隆信
- 管理者 敦賀市病院事業管理者 太田 肇
- 院長 太田 肇
- 敷地面積 17,965.18 m²
- 建物延面積 30,091.96 m²
- 診療科目 内科／神経内科／消化器内科／循環器内科／小児科／外科
心臓血管外科／乳腺外科／整形外科／脳神経外科／皮膚科
形成外科／泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻いんこう科／放射線科
神経科精神科／歯科口腔外科／麻酔科／リハビリテーション科
救急科（22診療科）
- 特殊診療部門 救急医療、人工透析、生活習慣病健診、人間ドック
- 許可病床数 一般病床 330床・感染症病床 2床 計332床
- 診療指定 保険医療機関、労災保険指定医療機関、国保療養取扱機関
指定自立支援医療機関（更生医療・育成医療・精神通院医療）
身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関
生活保護法指定医療機関、児童福祉法指定療育育成機関
結核指定医療機関、指定養育医療機関、災害拠点病院
原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関、公害医療機関
第二種感染症指定医療機関、原子力災害医療協力機関
母体保護法指定医の配置されている医療機関
救急告示病院、第二次救急病院群輪番制病院
エイズ治療拠点病院、特定疾患治療研究事業委託医療機関
指定療育機関、小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関
地域周産期母子医療センター、洋上救急協力機関
労働者災害補償保険法に基づくアフターケア指定医療機関
DPC指定病院、日本赤十字常備救護班
地域がん診療連携拠点病院
- 研修等施設指定 日本内科学会教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会指導施設
日本肝臓学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本呼吸器学会認定施設
日本整形外科学会研修施設、日本医学放射線学会修練機関
日本脳神経外科学会専門医制度関連施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本臨床細胞学会施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設、マンモグラフィ検診施設
 日本眼科学会専門医制度研修施設、日本麻酔科学会麻酔科認定病院
 日本産科婦人科学会専門研修連携施設
 日本周産期・新生児医学会暫定研修施設（補完研修施設）
 日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設
 日本医療機能評価機構認定病院、基幹型臨床研修病院
 日本透析医学会教育関連施設、腹部ステントグラフト実施施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設
 日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本救急医学会専門指導医施設
 日本脳卒中学会認定研修教育施設、DMA T 指定医療機関
 日本口腔外科学会認定准研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設
 日本腎臓学会認定施設

3 施設の概要

敷地面積	17,965.18 m ²
建物延面積	30,091.96 m ²
	本館診療棟 12,067.92 m ²
	中央診療棟 3,223.29 m ²
	東診療棟 6,486.02 m ²
	北診療棟 8,314.73 m ²
	計 30,091.96 m ²

4 設備の概要

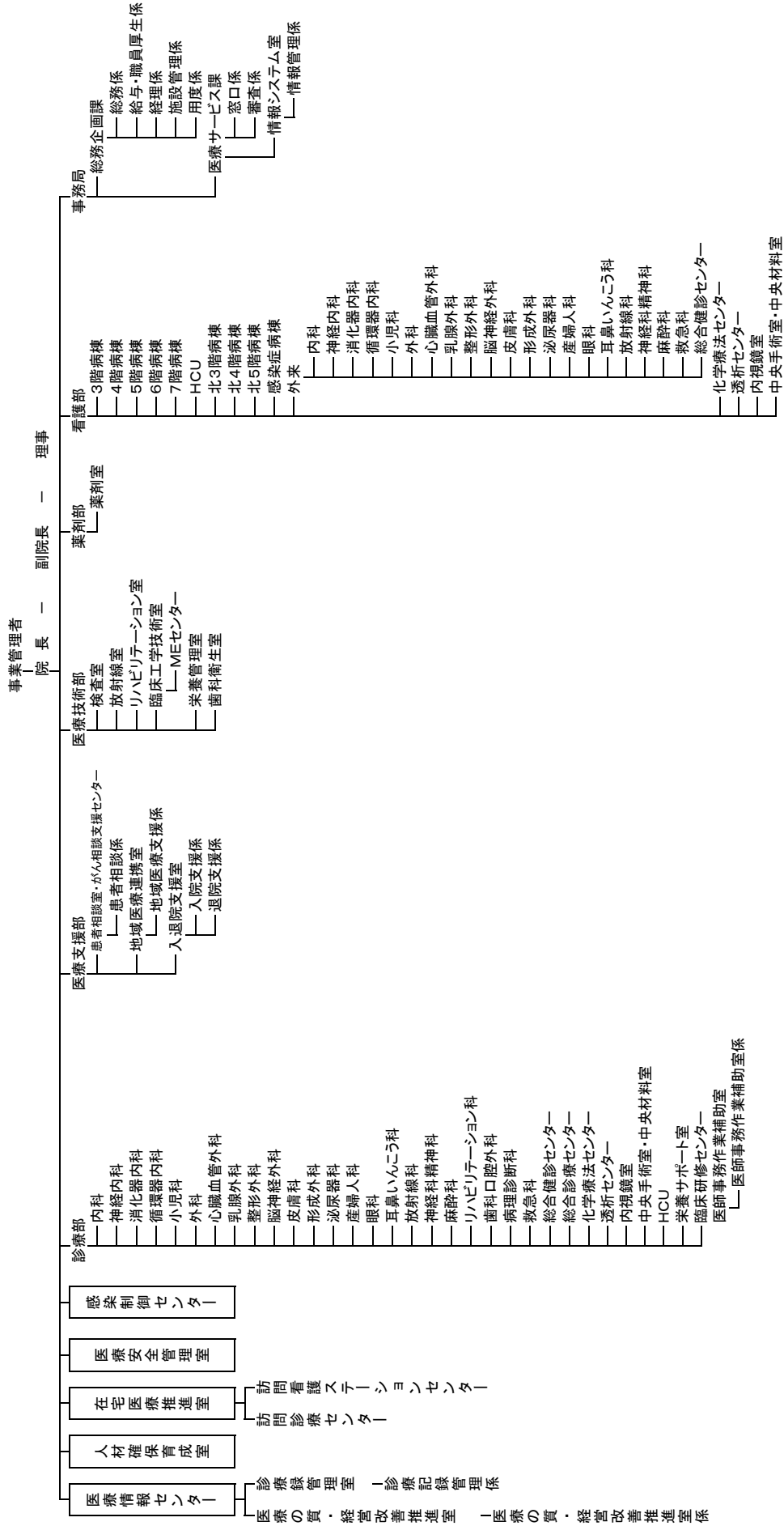
受変電	設備容量：6,500KVA 契約電力：1,150KW 受電電圧：6,600V（2系統受電）
非常用電源設備 無停電電源装置	発電機容量：625KVA×2・200KVA×2・105KVA×1 50KVA×4
太陽光発電設備	太陽電池アレイ×90 最大出力10KW
弱電設備	構内電話・コードレス電話設備 インターホン設備 ナースコール設備 電気時計設備 TV共聴設備
消防設備	自動火災報知設備 排煙設備 誘導灯 スプリンクラー設備 非常放送設備 非常通報設備 屋内消火栓設備
熱源設備	炉筒煙管蒸気ボイラー：1.5t/h 2基 貫流蒸気ボイラー：0.75t/h 2基 スチームアキュムレーター：30 m ² 1基
空調設備	吸収式冷温水機：5基（330RT×2・240RT×1・50RT×2） 水冷チラーユニット：1基 エアーハンドリング空調機 ガスエンジンヒートポンプマルチエアコン 電気式ヒートポンプマルチエアコン ファンコイルユニット
給水設備	受水槽：SUSパネル55t×2 SUSパネル25t×2 高架水槽：SUSパネル16t×2 SUSパネル7t×1 雑水高架水槽：SUSパネル13t×2 SUSパネル7t×1
排水設備 給湯設備 浄化槽設備	一般排水系統 RI排水系統 特殊排水系統 貯湯槽：SUS4.5t×2 SUS3.0t×2 RI処理槽
医療ガス設備	液体酸素設備 圧縮空気供給設備 亜酸化窒素供給設備 窒素供給設備 吸引設備
昇降機設備	寝台用エレベーター：10基 一般エレベーター：2基 ダムウォーター：2基
搬送設備	気送管設備：85φ14ST1系統・15φ4ST1系統

5 施設基準等届出一覧

(令和5年12月現在)

No.	施設基準名称	No.	施設基準名称
1	一般病棟入院基本料 急性期一般入院基本料 入院料 4	51	BRCA1/2 遺伝子検査
2	救急医療管理加算	52	HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)
3	超急性期脳卒中加算	53	検体検査管理加算 (Ⅳ)
4	診療録管理体制加算1	54	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
5	医師事務作業補助体制加算1 (15対1)	55	ヘッドアップティルト試験
6	急性期看護補助体制加算 (25対1) (看護補助者5割以上)	56	神経学的検査
7	看護職員夜間 1 6 対 1 配置加算 1	57	コンタクトレンズ検査料1
8	療養環境加算	58	小児食物アレルギー負荷検査
9	重傷者等療養環境特別加算	59	CT透視下気管支鏡検査加算
10	緩和ケア診療加算	60	画像診断管理加算2
11	栄養サポートチーム加算	61	CT撮影及びMRI撮影
12	医療安全対策加算1 (医療安全対策地域連携加算有)	62	冠動脈CT撮影加算
13	感染対策向上加算 1 (指導強化加算有)	63	心臓MRI撮影加算
14	患者サポート体制充実加算	64	小児鎮静下MRI撮影加算
15	ハイリスク妊娠管理加算	65	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
16	ハイリスク分娩管理加算	66	外来腫瘍化学療法診療料 1 (連携充実加算有)
17	後発医薬品使用体制加算 2	67	外来化学療法加算 1 (連携充実加算有)
18	データ提出加算 2	68	無菌製剤処理料
19	入退院支援加算 1 (入院時支援加算、地域連携診療計画加算有)	69	心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算有
20	認知症ケア加算 2	70	脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算有
21	せん妄ハイリスク患者ケア加算	71	運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算有
22	地域医療体制確保加算	72	呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算有
23	ハイケアユニット入院医療管理料 1	73	がん患者リハビリテーション料
24	小児入院医療管理料4 (北3階、北5階)	74	人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
25	地域包括ケア病棟入院料 2 (看護職員配置加算、看護補助者配置加算有)	75	導入期加算1
26	看護職員処遇改善評価料	76	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
27	糖尿病合併症管理料	77	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
28	心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	78	緊急整備固定加算及び緊急挿入加算
29	がん性疼痛緩和指導管理料	79	乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検(単独)
30	がん患者指導管理料イ	80	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
31	がん患者指導管理料ロ	81	大動脈バルーンパンピング法 (IABP法)
32	がん患者指導管理料ハ	82	体外衝撃波胆石破砕術
33	外来緩和ケア管理料	83	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
34	糖尿病透析予防指導管理料	84	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
35	乳腺炎重症化予防・ケア指導料	85	内視鏡的小腸ポリープ切除術
36	二次性骨折予防継続管理料 1 及び 3	86	腹腔鏡下リンパ節群郭清術 (側方)
37	一般不妊治療管理料	87	輸血管理料Ⅱ
38	救急搬送看護体制加算 1	88	輸血適正使用加算
39	ニコチン依存症管理料 (減算中)	89	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
40	開放型病院共同指導料	90	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
41	ハイリスク妊産婦共同管理料 (Ⅰ)	91	麻酔管理料 (Ⅰ)
42	肝炎インターフェロン治療計画料	92	地域歯科診療支援病院歯科初診料
43	ハイリスク妊産婦連携指導料 1	93	歯科外来診療環境体制加算 2
44	薬剤管理指導料	94	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
45	検査画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	95	病理診断管理加算1
46	医療機器安全管理料1	96	悪性腫瘍病理組織標本加算
47	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	97	クラウン・ブリッジ維持管理料
48	在宅療養後方支援病院	98	入院時食事療養 (Ⅰ)
49	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算	99	
50	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	100	

組織図(令和5年4月1日現在)



7 職員の現況

年度末現在 単位：人

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	合計	パートタイム 会計年度職員 (再掲)	合計	パートタイム 会計年度職員 (再掲)	合計	パートタイム 会計年度職員 (再掲)
医師	65		66		66	
薬剤師	12		13		13	1
診療放射線技師	16	1	16	1	16	1
臨床検査技師	20	6	20	6	20	6
臨床工学技士	8		7		7	
理学療法士	15		16		17	
作業療法士	10		10		9	
言語聴覚士	6		4		6	
歯科衛生士	5	1	6	1	6	1
管理栄養士	6		8		7	
栄養士	1	1				
臨床心理士	1	1	1	1	1	1
保健師	3	1	3	1	3	1
助産師	17	1	14		15	
看護師	286	24	296	29	296	23
准看護師	10	1	10	2	7	2
事務職員	30	3	33	5	32	5
電気技師	3		2		2	
施設管理員	2		2		2	
事務員	34	11	32	14	46	16
看護補助者	25	11	23	11	24	10
医師事務作業補助者	36	21	36	21	34	16
その他	12	7	20	7	14	8
合計	623	90	638	99	643	91

8 入院部屋数（令和5年4月1日現在）

	本館3階		本館4階	本館5階	本館6階	本館7階		北館2階 HCU	北館3階			北館4階	北館5階	合計
		ドック					無菌室			小児入院	感染症			
特室	(1) 1		(1) 1		(1) 1				(1) 1			(1) 1		(5) 5
1人部屋	(6) 6	(6) 6	(5) 5	(9) 9	(5) 5	(4) 4	(1) 1		(2) 2	(6) 6	(2) 2	(8) 8	(6) 6	(60) 60
重症1人部屋								(4) 4	(2) 2					(6) 6
2人部屋	(2) 1		(4) 2	(4) 2	(4) 2	(6) 3		(2) 1						(18) 9
重症2人部屋	(2) 1		(2) 1	(2) 1	(2) 1							(2) 1		(10) 5
4人部屋	(32) 8		(32) 8	(20) 5	(24) 6	(24) 6			(32) 8	(4) 1		(36) 9	(24) 6	(228) 57
5人部屋													(5) 1	(5) 1
合計	(43) 17	(6) 6	(40) 15	(35) 17	(36) 15	(34) 13	(1) 1	(6) 5	(37) 13	(10) 7	(2) 2	(47) 19	(35) 13	(332) 143

上段：病床数（ ）

下段：病室数

9 経営の概要

年度	収益的収支 (単位：千円)			資本的収支 (単位：千円)			一般会計繰入金 (単位：千円)			医業収支 比率 医業収入 医業費用 (単位：%)	職員給与 比率 職員給与 医業収入 (単位：%)	年度末職員数 (臨時雇託再掲) ※令和2年度～ (ハートタイム会計 年度任用職員再掲) (単位：人)	病床 利用率 (単位：%)	病床数 (単位：床)
	収入	支出	純損益	収入	支出	差引	収益勘定	資本勘定	合計					
26	7,572,989	7,493,034	79,955	406,186	1,235,195	△ 829,009	615,612	269,489	885,101	89.9	58.4	(61) 447	78.1	332
27	7,707,144	7,455,378	251,766	639,612	1,122,653	△ 483,041	609,739	281,245	890,984	91.9	56.1	(61) 458	78.0	332
28	7,582,663	7,288,098	294,565	510,322	1,002,325	△ 492,003	627,195	326,072	953,267	93.3	56.8	(70) 472	79.0	332
29	7,787,414	7,667,091	120,323	376,123	770,376	△ 394,253	703,398	234,503	937,901	92.9	58.3	(67) 483	80.6	332
30	7,778,882	7,752,705	26,177	427,990	685,315	△ 257,325	765,210	251,554	1,016,764	89.2	61.1	(64) 497	77.1	332
元	8,194,326	7,903,170	291,156	437,975	700,629	△ 262,654	777,571	268,775	1,046,346	92.9	60.0	(71) 507	75.0	332
2	8,660,970	8,147,433	513,537	763,808	1,020,085	△ 256,277	826,638	256,516	1,083,154	87.3	62.2	(90) 623	69.7	332
3	9,329,840	8,371,255	958,585	631,535	876,829	△ 245,294	805,713	261,542	1,067,255	89.1	60.8	(99) 638	69.5	332
4	8,247,041	8,210,466	36,575	838,872	1,428,033	△ 589,161	784,296	286,726	1,071,022	83.1	67.4	(91) 643	63.6	332

10 経営分析

分析項目	算出	単位	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
1日当り患者数	入院	人	365日 268	365日 256	366日 249	365日 232	365日 231	365日 211
	外来	人	244日 699	244日 700	240日 699	243日 628	242日 686	243日 649
	合計	人	967	956	948	860	917	860
医師1人1日当り患者数	入院	人	5.25	5.02	4.22	3.57	3.50	3.20
	外来	人	13.71	13.73	11.85	9.66	10.39	9.83
	合計	人	18.96	18.75	16.07	13.23	13.89	13.03
医療収支対前年度比率	医療収益の対前年度比	%	103.31	100.42	105.71	95.05	106.77	92.03
	医療費用の対前年度比	%	103.70	107.38	101.54	101.13	104.67	98.63
患者1人1日当り診療収入	入院	円	41,785	43,111	48,032	49,174	50,549	50,887
	外来	円	12,174	12,710	12,994	13,858	14,416	14,197

分析項目	算出	単位	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
給与費	給与費 医業収益	%	58.30	61.14	59.97	62.20	60.77	67.36
	薬品費	%	15.01	16.06	14.24	14.75	15.38	15.42
材料費	診療材料費 医業収益	%	8.42	8.11	8.20	8.69	8.25	7.27
	給食材料費 医業収益	%	0.11	0.10	0.10	0.11	0.11	0.13
小計	医療消耗備品費 医業収益	%	0.08	0.13	0.13	0.21	0.17	0.24
	経費	%	23.62	24.41	22.68	23.76	23.91	23.05
減価却費	経費 医業収益	%	16.53	17.48	16.46	20.52	19.33	21.81
	減価償却費 医業収益	%	8.54	8.40	7.80	7.45	7.80	7.20
研究研修費	資産減耗費 医業収益	%	0.01	0.06	0.12	0.28	0.12	0.42
	研究研修費 医業収益	%	0.63	0.59	0.62	0.34	0.36	0.51
合計	医業費用 医業収益	%	107.64	112.08	107.66	114.54	112.29	120.34
医業収益に対する医業費用の割合								

1 1 委員会等一覧

(令和5年4月現在)

No.	名称	No.	名称
1	部長会	39	糖尿病診療委員会
2	管理運営・診療委員会	40	透析センター運営委員会
3	防災対策委員会	41	化学療法委員会
4	救急蘇生災害医療部会	42	医療器械・システム購入機種選定委員会
5	DMAT	43	地域包括ケア病棟運営委員会
6	赤十字救護班	44	CS・ES委員会
7	医療安全対策委員会	45	CS部会
8	リスクマネジメント部会	46	ES部会
9	DVT部会	47	聴き上手広め隊
10	アレルギー部会	48	倫理委員会
11	医療安全推進会議	49	臨床研究部会
12	患者サポート相談会議	50	臨床倫理部会
13	医療機器管理委員会	51	臓器移植チーム
14	病棟管理委員会	52	倫理コンサルテーションチーム
15	感染対策委員会	53	治験審査委員会
16	ICT	54	薬事委員会
17	AST	55	教育研修委員会
18	感染リンクスタッフ会	56	病院年報編集委員会
19	放射線安全委員会	57	TQM委員会
20	検体検査適性化委員会	58	DPC委員会
21	血液製剤管理委員会	59	広報委員会
22	医療ガス安全委員会	60	医療従事者修学資金貸与審査委員会
23	勤務環境改善委員会	61	院内スペース効率利用部会
24	電子カルテ委員会	62	医療の質・経営改善推進委員会
25	クリティカルパス委員会	63	認知症サポート委員会
26	診療材料検討委員会	64	臨床研修管理委員会
27	栄養管理委員会	65	臨床研修部会
28	褥瘡サポート委員会	66	心臓リハビリテーション運営委員会
29	栄養サポート委員会	67	診療材料管理業務委託検討委員会
30	地域医療連携委員会	68	医薬品管理業務委託検討委員会
31	在宅医療推進委員会	69	特定行為研修管理委員会
32	訪問診療部会	70	機能評価推進委員会
33	救急室・外来運営委員会	71	がん診療連携拠点病院推進委員会
34	HCU運営委員会	72	研修部会
35	手術部会委員会	73	サロン連携部会
36	労働安全衛生委員会	74	広報部会
37	緩和ケア委員会	75	働き方改革委員会
38	緩和ケアチーム	76	医師事務作業補助室運営委員会

12 対外活動

令和4年度 地域開放学習会実績

	開催日	テーマ	講師・担当者	人数
1	7月29日	内容:オーラルフレイル "いつまでもおいしく食べるために" ～飲んだり、食べたりも運動です～	言語聴覚士 中澤 久夫	17
2	9月27日- 10月21日	内容:緩和ケア "がんと診断された・・・その辛さを支える" ～患者のこころのうつりかわりと、支え方	精神科医師 松本 日和	11
3	10月3日- 10月21日	内容:認知症看護 "認知症患者さんの持つ不安に向き合う" ～不安を知って寄り添うために～	認知症看護認定看護師 大石 郁奈	44
4	10月28日	内容:救急看護 "急変兆候、異常兆候の捉え方" ～ちょっとした異変を見逃さない～	救急看護認定看護師 橋詰 貞美子	9
5	12月23日- 1月13日	内容:摂食・嚥下障害 "食べることを最後まで支える" ～安全な食事摂取に繋げる方法～	摂食・嚥下障害認定看護師 下町 智子	17
6	1月20日	内容:心臓のお話 "心臓病でも運動したほうがいいって本当?"	理学療法士 高木 隆幸	11
7	1月27日	内容:呼吸器疾患看護 "在宅における呼吸器疾患看護" ～NHF(ネーザルハイフロー)が使える!～	慢性呼吸器疾患看護認定看護師 若山 しのぶ	10
8	3月17日	内容:ACP "患者にとっての最善を導く人生会議" ～ゲームを通して自分の価値観を知ろう～	訪問看護認定看護師 近江谷 未幸 医療ソーシャルワーカー 田辺 靖晶	10
			参加人数合計	129

令和4年度 出前講座 実績

	開催日	時間	依頼元/開催場所	テーマ	講師	対象者	参加人数
1	6月10日	19:00-19:45	アイホーム	もし、あなたの、目の前で誰かが心肺停止状態になったら！	救急看護認定看護師 副看護師長 橋詰貞美子	介護職員	14
2	7月13日	10:00-11:00	敦賀市児童家庭課	急病とけがの応急処置(小児編)	救急看護認定看護師 副看護師長 橋詰貞美子	児童クラブ 指導員	74
3	7月14日	10:00-11:00	敦賀市児童家庭課	急病とけがの応急処置(小児編)	救急看護認定看護師 副看護師長 橋詰貞美子		
4	9月22日	13:30-15:00	敦賀気比高校	生活動作を助ける	作業療法士 松葉 紗妃	生徒	23
5	9月29日	10:00-11:00	粟野子育て支援センター	急病とけがの応急処置	救急看護認定看護師 副看護師長 橋詰貞美子	親子	7
6	11月1日	13:30-14:30	どりいむはうす	上手に食べて元気に長生き～高齢者の食事について～	管理栄養士 杉野 加奈	施設職員	8
7	11月15日	18:00-19:00	美浜町社会福祉協議会	感染症について学ぶ	感染管理認定看護師 副看護師長 田中恵実	職員	30
8	11月24日	15:20-16:10	敦賀高校	誕生学	助産師 師長 上田紀子	生徒	221
9	12月9日	8:35-12:05	粟野小学校	命の大切さについて	助産師 師長 上田紀子	児童	120
10	12月16日	14:15-15:00	美方高校	誕生学	助産師 師長 上田紀子	生徒	130
11	1月13日	19:00-19:40	アイホーム	転棟予防教室	理学療法士 高城 理子	介護職員	4
12	2月10日	19:00-19:40	アイホーム	褥瘡症例検討会	皮膚・排泄ケア認定看護師 師長 稲垣香緒里	介護職員	15
					参加人数合計		646

令和4年度市民公開講座

令和5年3月5日（日）13時30分～16時00分

敦賀市桜町1番1号 きらめきみなと館 小ホール

来場者数 130人

演者	演題
腎臓内科部長 清水 和朗	コロナの今後のつきあい方
消化器外科部長 藤田 邦博 外科医師 眞柄 里衣	患者さんに優しい外科手術 ～当科で行っている鏡視下・腹腔鏡下手術～

健康応援フェスタは新型コロナウイルス流行につき開催中止。

Ⅱ 決算概要

1 収益的収入及び支出

収入

単位：千円

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業収益	8,194,327	105.3	8,660,970	105.7	9,329,840	107.7	8,247,041	88.4
医業収益	6,906,860	105.7	6,565,216	95.1	7,009,603	106.8	6,450,880	92.0
入院収益	4,374,575	108.6	4,154,507	95.0	4,258,844	102.5	3,919,176	92.0
外来収益	2,178,431	100.4	2,115,158	97.1	2,392,776	113.1	2,240,075	93.6
その他医業収益	353,854	105.2	295,551	83.5	357,983	121.1	291,629	81.5
医業外収益	1,286,677	103.8	1,940,900	150.8	2,319,351	119.5	1,795,861	77.4
受取利息	865	106.4	480	55.5	780	162.5	1,227	157.3
他会計負担金	777,571	101.6	826,638	106.3	805,713	97.5	784,296	97.3
補助金	22,841	129.1	651,128	2850.7	1,063,989	163.4	577,192	54.2
寄附金	5,000	皆増	0	-	1,000	皆増	0	皆減
財産収益	8,830	108.4	8,241	93.3	7,286	88.4	8,087	111.0
病院事業引当金戻入	23,278	113.6	11,904	51.1	12,959	108.9	15,266	117.8
患者外給食収益	0	-	0	-	0	-	16	皆増
院内保育収益	4,112	72.8	2,924	71.1	4,353	148.9	3,041	69.9
訪問看護ステーション収益	7,822	294.5	9,704	124.1	8,136	83.8	7,371	90.6
長期前受金戻入	328,025	98.8	333,366	101.6	327,694	98.3	302,519	92.3
その他医業外収益	108,333	125.4	96,515	89.1	87,441	90.6	96,846	110.8
特別利益	790	13.9	154,854	19601.8	886	0.6	300	33.9
その他特別利益	790	13.9	154,854	19601.8	886	0.6	300	33.9

支出

単位：千円

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業費用	7,903,170	101.9	8,147,433	103.1	8,371,255	102.7	8,210,466	98.1
医業費用	7,435,588	101.5	7,519,957	101.1	7,870,805	104.7	7,763,113	98.6
給与費	4,141,980	103.7	4,083,419	98.6	4,259,996	104.3	4,345,080	102.0
給料	1,435,831	102.0	1,763,500	122.8	1,824,121	103.4	1,879,709	103.0
手当等	1,141,319	103.7	1,267,812	111.1	1,385,920	109.3	1,386,233	100.0
賞与引当金繰入額	208,064	102.9	235,145	113.0	197,251	83.9	198,813	100.8
退職給付費	252,823	109.4	228,057	90.2	246,327	108.0	242,230	98.3
賃金	543,389	107.4	0	皆減	0	-	0	-
法定福利費	521,620	102.5	546,232	104.7	571,027	104.5	600,838	105.2
法定福利費引当金繰入額	38,934	101.8	42,673	109.6	35,350	82.8	37,257	105.4
材料費	1,566,417	98.2	1,559,670	99.6	1,675,960	107.5	1,487,181	88.7
薬品費	983,771	93.7	968,653	98.5	1,077,792	111.3	994,872	92.3
診療材料費	566,192	106.8	570,424	100.7	578,003	101.3	468,669	81.1
給食材料費	7,172	108.9	7,084	98.8	7,969	112.5	8,262	103.7
医療消耗備品費	9,282	105.9	13,509	145.5	12,196	90.3	15,378	126.1
経費	1,136,939	99.5	1,347,471	118.5	1,354,707	100.5	1,406,911	103.9
厚生福利費	429	123.3	94	21.9	68	72.3	106	155.9
報償費	137	39.8	204,787	149479.6	211,402	103.2	213,288	100.9
旅費	12,526	99.2	11,952	95.4	11,236	94.0	11,776	104.8
職員被服費	1,460	122.6	2,246	153.8	1,864	83.0	2,451	131.5
消耗品費	31,317	94.6	33,632	107.4	32,566	96.8	33,041	101.5
消耗備品費	6,802	88.7	10,548	155.1	5,941	56.3	7,956	133.9
光熱水費	106,727	98.2	102,836	96.4	107,339	104.4	134,971	125.7
燃料費	55,434	106.1	51,430	92.8	64,735	125.9	70,249	108.5
食糧費	20	133.3	7	35.0	0	0.0	16	皆増
印刷製本費	3,864	112.5	2,469	63.9	2,951	119.5	3,531	119.7
修繕費	60,242	111.6	67,411	111.9	56,433	83.7	84,880	150.4

保険料	16,170	101.3	15,050	93.1	15,220	101.1	13,768	90.5
賃借料	100,923	105.4	109,502	108.5	107,326	98.0	108,638	101.2
通信運搬費	8,363	105.3	9,356	111.9	10,721	114.6	11,279	105.2
委託料	716,643	97.7	713,462	99.6	707,017	99.1	695,563	98.4
交際費	52	67.5	0	0.0	0	-	18	皆増
公課費	40	37.0	92	230.0	32	34.8	1,167	3646.9
諸会費	2,959	97.6	2,909	98.3	2,939	101.0	3,043	103.5
雑費	12,831	102.6	9,688	75.5	16,917	174.6	11,170	66.0
減価償却費	538,808	98.2	488,949	90.7	546,885	111.8	464,410	84.9
建物減価償却費	320,184	99.9	318,635	99.5	338,270	106.2	224,757	66.4
構築物減価償却費	1,442	2288.9	1,442	100.0	1,442	100.0	1,386	96.1
器械備品減価償却費	130,214	96.3	116,151	89.2	164,734	141.8	198,007	120.2
車両減価償却費	577	皆増	1,432	248.2	1,432	100.0	1,714	119.7
リース資産減価償却費	34,137	79.4	33,319	97.6	24,385	73.2	19,204	78.8
無形固定資産減価償却費	52,254	105.3	17,970	34.4	16,622	92.5	19,342	116.4
資産減耗費	8,283	214.3	18,379	221.9	8,243	44.9	26,808	325.2
固定資産除却費	8,283	214.3	18,379	221.9	8,243	44.9	26,808	325.2
研究研修費	43,161	112.8	22,069	51.1	25,014	113.3	32,723	130.8
謝金	233	209.9	25	10.7	0	皆減	0	-
図書費	6,556	101.8	7,320	111.7	6,424	87.8	7,424	115.6
旅費	18,117	114.8	1,415	7.8	1,885	133.2	6,384	338.7
消耗品費	8,691	104.3	8,596	98.9	8,611	100.2	8,588	99.7
印刷製本費	152	80.0	164	107.9	180	109.8	180	100.0
委託料	125	112.6	185	148.0	309	167.0	630	203.9
負担金	8,843	135.0	4,168	47.1	6,637	159.2	8,545	128.7
雑費	444	103.3	196	44.1	968	493.9	972	100.4
医業外費用	424,043	112.5	432,987	102.1	437,282	101.0	414,036	94.7
支払利息	73,020	90.2	65,098	89.2	57,075	87.7	48,616	85.2
企業債利息	72,669	90.2	64,525	88.8	56,512	87.6	48,198	85.3
リース利息	351	98.0	573	163.2	563	98.3	418	74.2
長期前払消費税償却	18,070	123.9	14,422	79.8	18,506	128.3	22,154	119.7
院内保育費	26,269	82.4	25,342	96.5	26,366	104.0	24,329	92.3
消耗品費	212	65.4	172	81.1	324	188.4	166	51.2
保険料	6	100.0	7	116.7	7	100.0	7	100.0
委託料	26,051	82.6	25,163	96.6	26,035	103.5	24,156	92.8
訪問看護ステーション費	32,049	311.3	28,582	89.2	28,012	98.0	24,876	88.8
給料	10,079	614.2	14,178	140.7	12,772	90.1	11,460	89.7
手当等	8,555	291.4	5,287	61.8	5,077	96.0	4,593	90.5
賞与引当金繰入額	1,060	100.3	1,514	142.8	1,325	87.5	1,014	76.5
退職給付費	2,014	671.3	1,626	80.7	3,503	215.4	2,828	80.7
賃金	4,436	321.4	0	0.0	0	-	0	-
法定福利費	4,222	447.2	3,984	94.4	3,813	95.7	3,405	89.3
法定福利費引当金繰入額	176	132.3	83	47.2	73	88.0	204	279.5
診療材料費	90	1800.0	563	625.6	109	19.4	26	23.9
医療消耗備品費	24	29.3	18	75.0	0	皆減	0	-
厚生福利費	3	300.0	3	100.0	0	皆減	0	-
図書費	12	37.5	35	291.7	52	148.6	10	19.2
旅費	182	293.5	0	0.0	0	皆減	0	-
職員被服費	112	151.4	142	126.8	0	皆減	0	-
消耗品費	153	83.2	101	66.0	121	119.8	106	87.6
光熱水費	251	194.6	244	97.2	255	104.5	320	125.5
燃料費	135	43.8	153	113.3	175	114.4	180	102.9
印刷製本費	20	48.8	0	0.0	0	-	45	皆増
保険料	38	172.7	45	118.4	45	100.0	45	100.0
賃借料			90	皆増	90	皆増	90	100.0
通信運搬費	10	333.3	28	280.0	95	339.3	95	100.0
委託料	358	994.4	430	120.1	430	100.0	395	91.9
負担金	63	170.3	23	36.5	41	178.3	25	61.0
諸会費	31	45.6	30	96.8	30	100.0	29	96.7
雑費	25	25.0	5	20.0	6	120.0	6	100.0
病院事業引当金繰入	6,017	541.1	684	11.4	306	44.7	305	99.7
雑支出	268,119	112.6	293,019	109.3	306,771	104.7	293,406	95.6
賠償金	499	皆増	5,840	皆増	246	4.2	350	142.3
特別損失	43,539	82.9	194,489	446.7	63,168	32.5	33,317	52.7
過年度損益修正損	3,114	241.0	708	22.7	23,548	3326.0	673	2.9
その他特別損失	40,425	79.0	193,781	479.4	39,620	20.4	32,644	82.4

2 資本的収入及び支出

単位：千円

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
資本的収入	763,808	174.4	631,535	82.7	838,872	132.8
一般会計繰入金	256,516	95.4	261,542	102.0	286,726	109.6
国・県補助金	193,842	皆増	151,393	78.1	118,546	78.3
投資返戻金	3,850	56.6	7,400	192.2	10,700	144.6
企業債	309,600	190.6	206,200	66.6	422,900	205.1
寄附金	0	-	5,000	皆増	0	皆減
資本的支出	1,020,085	145.6	876,829	86.0	1,428,033	162.9
企業債償還金	405,596	91.3	426,468	105.1	475,624	111.5
建物整備費	62,598	皆増	8,448	13.5	0	皆減
駐車場整備費	0	-	0	-	7,046	皆増
資産購入費	460,118	265.6	354,705	77.1	877,836	247.5
リース資産購入費	42,923	105.2	28,858	67.2	23,277	80.7
基金組入金	2,450	36.0	9,500	387.8	1,450	15.3
返還金	0	皆減	0	-	0	-
投資	46,400	130.7	48,850	105.3	42,800	87.6

3 貸借対照表

(資産の部)

単位：千円

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	6,978,340	100.6	6,777,806	97.1	7,159,665	105.6
有形固定資産	6,745,598	100.0	6,526,851	96.8	6,532,310	100.1
土地	683,829	100.0	683,829	100.0	688,753	100.7
建物	13,490,353	100.4	13,498,033	100.1	13,498,033	100.0
建物減価償却累計額	△ 8,511,296	103.9	△ 8,849,566	104.0	△ 9,074,324	102.5
構築物	156,943	100.0	156,943	100.0	158,872	101.2
構築物減価償却累計額	△ 137,233	101.1	△ 138,675	101.1	△ 140,061	101.0
器械備品	5,580,599	104.3	5,762,172	103.3	5,699,612	98.9
器械備品減価償却累計額	△ 4,613,225	98.9	△ 4,655,162	100.9	△ 4,358,703	93.6
車両	9,183	100.0	10,366	112.9	10,366	100.0
車両減価償却累計額	△ 3,177	182.1	△ 4,610	145.1	△ 6,323	137.2
リース資産	142,409	43.4	108,145	75.9	106,593	98.6
リース資産減価償却累計額	△ 52,787	24.0	△ 44,624	84.5	△ 50,508	113.2
無形固定資産	52,412	103.7	49,390	94.2	370,248	749.6
ソフトウェア	52,412	103.7	49,390	94.2	370,248	749.6
投資その他の資産	180,330	131.7	201,565	111.8	257,107	127.6
長期貸付金	138,150	114.0	149,700	108.4	152,000	101.5
貸倒引当金	△ 27,250	121.1	△ 30,550	112.1	△ 31,650	103.6
長期前払消費税	69,430	181.3	82,415	118.7	136,757	165.9
流動資産	4,561,455	112.8	5,708,816	125.2	5,459,153	95.6
現金預金	2,728,530	99.0	4,145,567	151.9	3,839,397	92.6
未収金	1,809,941	142.9	1,538,671	85.0	1,597,499	103.8
貯蔵品	22,984	107.8	24,578	106.9	22,257	90.6
資産合計	11,539,795	105.1	12,486,622	108.2	12,618,818	101.1

(負債の部)

固定負債	4,259,031	100.6	4,092,029	96.1	4,134,981	101.0
企業債	2,725,439	95.9	2,456,016	90.1	2,408,763	98.1
リース債務	63,337	106.7	43,663	68.9	33,765	77.3
引当金	1,470,255	110.4	1,592,350	108.3	1,692,453	106.3
流動負債	1,164,741	92.5	1,231,375	105.7	1,182,805	96.1
企業債	426,468	105.1	475,624	111.5	470,152	98.8
リース債務	28,453	69.3	22,820	80.2	23,377	102.4
未払金	410,851	75.6	456,541	111.1	427,430	93.6
引当金	279,415	112.6	233,999	83.7	237,288	101.4
その他流動負債	19,554	98.1	42,391	216.8	24,558	57.9
繰延収益	3,299,829	103.3	3,376,848	102.3	3,466,232	102.6
長期前受金	10,572,423	101.6	10,933,879	103.4	11,271,606	103.1
長期前受金収益化累計額	△ 7,272,594	100.8	△ 7,557,031	103.9	△ 7,805,374	103.3
負債合計	8,723,601	100.4	8,700,252	99.7	8,784,018	101.0

(資本の部)

資本金	2,433,060	100.0	2,433,060	100.0	2,433,060	100.0
剰余金	383,134	-270.3	1,353,310	353.2	1,401,740	103.6
資本剰余金	120,780	-110.4	132,371	109.6	144,226	109.0
利益剰余金	262,354	-104.4	1,220,939	465.4	1,257,514	103.0
資本合計	2,816,194	122.9	3,786,370	134.4	3,834,800	101.3

負債・資本合計	11,539,795	105.1	12,486,622	108.2	12,618,818	101.1
---------	------------	-------	------------	-------	------------	-------

4 診療科別診療収入の状況

(1) 入院・外来合計

単位：千円

区分	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科 (*1)	1,861,456	29.8	93.5	2,022,669	32.7	108.7	2,018,873	32.7	99.8
神経内科 (*2)	28,487	0.5	123.6	32,012	0.5	112.4	26,242	0.4	82.0
消化器内科 (*3)	507,249	8.1	123.2	548,448	8.9	108.1	540,514	8.8	98.6
循環器内科 (*3)	461,961	7.4	72.1	484,745	7.9	104.9	401,534	6.5	82.8
小児科	126,187	2.0	73.7	209,562	3.4	166.1	171,299	2.8	81.7
外科	978,087	15.6	88.4	855,948	13.9	87.5	734,532	11.9	85.8
乳腺外科	12,757	0.2	皆増	130,178	2.1	1020.4	139,161	2.3	106.9
整形外科	860,548	13.7	108.3	887,555	14.4	103.1	695,897	11.3	78.4
脳神経外科	450,238	7.2	104.8	511,011	8.3	113.5	505,465	8.2	98.9
皮膚科	99,769	1.6	93.0	86,583	1.4	86.8	108,949	1.8	125.8
形成外科	3,985	7.3	94.3	3,229	0.1	81.0	3,677	0.1	113.9
泌尿器科	458,169	7.3	121.9	441,458	7.2	96.4	371,231	6.0	84.1
産婦人科	241,390	3.9	76.0	241,739	3.9	100.1	233,688	3.8	96.7
眼科	32,507	0.5	79.9	36,127	0.6	111.1	36,699	0.6	101.6
耳鼻いんこう科	41,682	0.7	278.4	41,875	0.7	100.5	56,689	0.9	135.4
放射線科	25,184	0.4	88.4	28,280	0.5	112.3	29,360	0.5	103.8
神経科	3,750	0.1	90.5	3,569	0.1	95.2	3,290	0.1	92.2
麻酔科	1,845	0.1	81.1	1,747	0.1	94.7	1,458	0.1	83.4
リハビリテーション科	14,277	0.2	63.1	11,129	0.2	78.0	11,235	0.2	101.0
歯科	60,137	1.0	89.8	73,754	1.2	122.6	69,457	1.1	94.2
合計	6,269,665	100.0	95.7	6,651,620	100.0	106.1	6,159,251	100.0	92.6

(*1)は、血液浄化を含む

(*2)は、非常勤医師

(*3)は、一般内科（呼吸器内科、血液内科、糖尿病）を含む

救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定

単位：千円

(2) 入院

区分	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科 (*1)	1,031,097	24.5	91.2	1,090,910	25.6	105.8	1,104,138	28.2	101.2
神経内科 (*2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
消化器内科 (*3)	385,791	9.3	125.9	404,795	9.5	104.9	393,365	10.0	97.2
循環器内科 (*3)	330,807	8.0	68.4	343,471	8.1	103.8	273,931	7.0	79.8
小児科	67,542	1.6	71.1	98,470	2.3	145.8	72,358	1.8	73.5
外科	692,063	16.7	84.4	580,242	13.6	83.8	519,921	13.3	89.6
乳腺外科	7209.5	0.2	皆増	71,029	1.7	985.2	71,414	1.7	100.5
整形外科	707,558	17.0	111.8	727,043	17.1	102.8	578,986	14.8	79.6
脳神経外科	388,603	9.4	107.6	443,767	10.4	114.2	435,273	11.1	98.1
皮膚科	44,338	1.1	95.1	32,265	0.8	72.8	38,180	1.0	118.3
形成外科	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-
泌尿器科	253,438	6.1	131.5	213,792	5.0	84.4	171,523	4.4	80.2
産婦人科	205,203	4.9	73.5	204,996	4.8	99.9	198,195	5.1	96.7
眼科	10,793	0.3	70.6	13,961	0.3	129.3	14,814	0.4	106.1
耳鼻いんこう科	19,086	0.6	8211.6	15,598	0.4	81.7	29,270	0.7	187.6
放射線科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神経科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科	10,980	0.3	94.9	18,504	0.4	168.5	17,808	0.5	96.2
口腔外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	4,154,507	100.0	95.0	4,258,844	100.0	102.5	3,919,176	100.0	92.0

(*1)は、血液浄化を含む

(*2)は、非常勤医師

(*3)は、一般内科 (呼吸器内科、血液内科、糖尿科) を含む

救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定

(3) 外来

単位：千円

区分	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科 (*1)	830,360	39.3	96.5	931,759	38.9	112.2	914,736	40.8	98.2
神経内科 (*2)	28,487	1.3	123.6	32,012	1.3	112.4	26,242	1.2	82.0
消化器内科 (*3)	121,458	5.7	115.4	143,653	6.0	118.3	147,150	6.6	102.4
循環器内科 (*3)	131,154	6.2	83.4	141,273	5.9	107.7	127,603	5.7	90.3
小児科	58,645	2.8	77.1	111,093	4.6	189.4	98,941	4.4	89.1
外科	286,024	13.5	99.7	275,706	11.5	96.4	214,611	9.6	77.8
乳腺外科	5547.8	0.3	皆増	59,148	2.5	1066.2	67,747	3.0	114.5
整形外科	152,990	7.2	94.8	160,512	6.7	104.9	116,911	5.2	72.8
脳神経外科	61,635	2.9	90.3	67,243	2.8	109.1	70,192	3.1	104.4
皮膚科	55,431	2.6	91.4	54,318	2.3	98.0	70,768	3.2	130.3
形成外科	3,985	0.2	94.3	3,229	0.1	81.0	3,677	0.2	113.9
泌尿器科	204,731	9.7	111.8	227,666	9.5	111.2	199,708	8.9	87.7
産婦人科	36,188	1.7	94.1	36,743	1.5	101.5	35,492	1.6	96.6
眼科	21,713	1.0	85.5	22,167	0.9	102.1	21,885	1.0	98.7
耳鼻いんこう科	22,596	1.1	153.3	26,277	1.1	116.3	27,419	1.2	104.3
放射線科	25,184	1.2	88.4	28,280	1.2	112.3	29,360	1.3	103.8
神経科	3,750	0.2	90.5	3,569	0.1	95.2	3,290	0.1	92.2
麻酔科	1,845	0.1	81.1	1,747	0.1	94.7	1,458	0.1	83.4
リハビリテーション科	14,277	0.7	63.1	11,129	0.5	78.0	11,235	0.5	101.0
歯科	49,157	2.3	88.7	55,250	2.3	112.4	51,649	2.3	93.5
合計	2,115,158	100.0	97.1	2,392,776	100.0	113.1	2,240,075	100.0	93.6

(*1)は、血液浄化を含む (*2)は、非常勤医師 (*3)は、一般内科（呼吸器内科、血液内科、糖尿病）を含む
救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定

Ⅲ 企業債・減価償却の状況

1 企業債・減価償却の状況

(1) 企業債の年度別状況

単位：千円

	発行総額	当年度償還高	償還高累計	未償還残高	企業債利息
平成25年度	9,210,400	458,245	4,367,926	4,842,474	144,392
平成26年度	9,370,300	401,705	4,616,730	4,753,570	129,915
平成27年度	9,482,100	415,858	5,032,588	4,449,512	116,345
平成28年度	9,575,200	510,799	5,543,387	4,031,813	101,708
平成29年度	7,087,200	380,493	3,309,779	3,777,421	88,178
平成30年度	7,052,400	404,935	3,522,615	3,529,785	80,556
令和元年度	7,214,800	444,282	3,966,896	3,247,904	72,669
令和2年度	7,202,600	405,596	4,050,692	3,151,908	64,525
令和3年度	7,297,000	426,468	4,365,360	2,931,640	56,512
令和4年度	7,550,800	475,624	4,671,884	2,878,916	48,198

(2) 減価償却額の年度別状況

単位：千円

	建物	構築物	器械・備品	車両	リース資産	無形固定資産	減価償却費合計
平成25年度	196,358	1,950	13,967	0			212,275
平成26年度	320,218	1,876	83,141	0	188,123		593,358
平成27年度	322,955	1,783	109,743	0	153,813	36,600	624,894
平成28年度	322,405	986	123,793	0	106,829	41,920	595,933
平成29年度	321,314	63	132,761	0	61,462	41,920	557,520
平成30年度	320,659	63	135,206	0	42,996	49,634	548,558
令和元年度	320,184	1,442	130,214	577	34,137	52,254	538,808
令和2年度	318,635	1,442	116,151	1,432	33,319	17,970	488,949
令和3年度	338,270	1,442	164,734	1,432	24,385	16,622	546,885
令和4年度	224,757	1,386	198,007	1,714	19,204	19,342	464,410

IV 各部署の活動状況

診療部

【活動】

- ①新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、地域医療を死守した。
- ②新型コロナウイルスの流行に伴い発熱外来を設置し、発熱患者の診療にあたった。
- ③新型コロナウイルスワクチンの接種業務に積極的にあたり、地域ニーズに応えた。
- ④入院、外来患者数は前年並みであったが、積極的にコスト削減に取り組んだ。
- ⑤平成26年度に開設した地域包括ケア病棟を積極的に利用した。
- ⑥当院は救急医療を担っており、二州地区の基幹病院としての役割を果たしている。

【評価】

- ①新型コロナウイルス関連業務に積極的に取り組み、地域医療に貢献した。
- ②積極的にコスト削減に取り組み、平成22年度から13年連続の黒字決算となった。
- ③地域包括ケア病棟は70%以上の稼働率で収益増に貢献した。
- ④救急医療において、地域の救急に貢献した。

【目標】

- ①がん診療を主として、専門医療を充実させる。(最新のガイドラインに準じ、全国水準の治療を行う。)
- ②各科全ての医師が、common diseaseに対しても、積極的に関与する。
- ③病状説明書・同意書等を充実させ、患者さんが安心できる環境を整備する。
- ④カンファランス・チーム活動等を通じて、他科及び他職種とコミュニケーションを図る。
- ⑤紹介患者、救急車の積極的受け入れを行う(原則100%受入)。
- ⑥紹介逆紹介を含め、適切な地域医療連携の推進を行う。
- ⑦働き方改革の推進。
- ⑧チーム主治医制等を検討し、労働時間の適正化に取り組む。
- ⑨新型コロナに類する新規感染症流行への対策を講じる。

医療安全管理室

【令和4年度医療安目標】

1. インシデント・アクシデント情報を集積し、インシデントレポートを分析する
2. 報告された事例に適切な分析・対策を立案する
3. 3a以上のアクシデント事例は2週間以内に要因分析・俯瞰表を提出する

【活動実績】

1. 会議
 - 1) 医療安全対策委員会 1回/月 (毎月第3月曜日)
 - 2) 医療安全推進会議 1回/週 (毎火曜日)
 - 3) リスクマネジメント部会 1回/月 (第2金曜日)

2. 各部署のリスクマネージャと毎月協議会を行い、各部署の医療安全に関わる問題の協議と医療安全目標の進捗状況の確認を行った

3. 研修

医療安全大会を開催した

1) 6月医療安全大会

参加率：100%

リスクマネージャが作成した医療安全動画
・検査時の患者間違い
・レントゲン撮影部位の間違い
・リハビリ技師との情報伝達不足
・エレベーター乗り降りの接遇
・コミュニケーションの基本は挨拶から

2) 2月医療安全

参加率：100%

リスクマネージャが作成した医療安全動画
・患者名の確認
・点滴確認
・患者さんへの説明

4. 院内ラウンド

月	内容
4月	胃管カテーテル管理について
5月	安全環境について
6月	向精神薬・麻薬管理について
7月	採血時の誤薬防止と指示確認
8月	安全環境について～開放制限用具～
9月	手術室の安全確保について
10月	衝突ミラー設置について
11月	設置型医療機器のプラグの取り扱いについて
12月	安全環境について～患者待合椅子～
1月	安全環境について～降雪時の転倒防止策～
2月	安全環境について～降雪時の転倒防止策②～
3月	患者誤認防止策の実施状況

報告数	枚数	件数
レポート総数	2640	2152
インシデントレポート数	1880	1539

感染制御センター

【活動】

(目的) 院内感染の発生を未然に防止するとともに、その拡大を最小限にする

(目標) ・院内感染対策を徹底し、職員・患者・家庭を感染から守る

- ・病院職員が感染対策の重要性を理解し、日常行動の中に感染制御の基本を身に付け、実践できる
- ・地域の医療機関や行政と共に、地域の感染制御を支援する

【活動実績】

1. ICT（感染制御チーム）活動

- 1) ICT カンファレンス 週 1 回（毎火曜日） 10:45～11:45
- 2) ICT ラウンド 週 1 回（毎火曜日） 14:00～15:30
- 3) ICT メンバーおよび感染リンクナース・スタッフによる環境ラウンド 週 1 回（部署で決定）
- 4) 適宜ラウンド（現場介入）
- 5) 感染防止対策加算 1 相互チェック（カンファレンスおよびラウンド等）
 - ・年 2 回実施：福井厚生病院
(令和 4 年 6 月 28 日、令和 4 年 7 月 7 日)
- 6) 感染防止対策地域連携加算（カンファレンスおよびラウンド等）
 - ・年 4 回実施：泉ヶ丘病院
(令和 4 年 8 月 12 日、令和 4 年 9 月 8 日、令和 4 年 10 月 14 日、
令和 4 年 11 月 8 日)

2. 研修・教育

【院内】

1) 全体研修（年 2 回以上）：全職員対象

「当院職員の行動指針について」・・・太田肇病院事業管理者

「診療報酬の改定について」・・・清水和朗腎臓内科部長

「院内感染からの学び」・・・田邊こずえ感染管理認定看護部

「末梢カテーテル感染の予防のために」・・・館山いづみ薬剤師

① 1 回目：3 回実施

令和 4 年 7 月 8 日～令和 4 年 7 月 12 日

	月日	開催時間
1	7月8日(金)	12:00～
2	7月11日(月)	12:00～
3	7月12日(火)	12:00～

- *参加者 586名/592名
- *不参加者 6名(再受講要請)
- *最終参加率 98.99%

② 2回目:3回実施

- 「院長から全職員への訓告」・・・太田肇病院事業管理者
- 「院内感染の考察～夏からの振り返り～」・・・田中恵実感染管理認定看護師
- 「AST活動報告について」・・・新谷智則薬剤部次長

令和4年12月6日～令和4年12月8日

	月日	開催時間
1	12月6日(火)	12:00～
2	12月7日(水)	12:00～
3	12月8日(木)	12:00～

- *参加者 605名/608名
- *不参加者 3名(再受講要請)
- *最終参加率 99.51%

【院外活動】

1) 地域での研修会・講習会・ラウンド・その他

- 6月 高齢者施設等感染対策訪問指導 常盤荘 講師
- 9月 看護協会出前講座 つるが生協診療所 講師
- 10月 泉ヶ丘病院 院内研修会 講師
- 10月 福井県看護協会感染管理リーダー育成フォローアップ研修 講師
(検体採取の基礎知識)
- 11月 美浜町社会福祉協議会はあとぴあ 研修会 講師
高齢者施設等感染対策訪問指導 湖岳の郷 講師
- 12月 ・FICNet 世話人会参加(5月、8月、9月、11月、1月、3月) 6回
・県内 ICN 交流会:10回参加 上記参加者:田中恵実
- 2月 二州健康福祉センター 新型コロナウイルス感染症対策研修会 講師

2) 施設ラウンド:3施設(二州健康福祉センター職員と合同で実施)

6/30 常盤 田中恵実

【評価】

今年度はMRSAやCD、耐性菌の検出率の低下がみられた。更に手指消毒剤の1患者あたり1日の使用回数は昨年同様15回前後で維持できている。

また、地域に向けて研修会や施設ラウンドも要望件数が徐々に増加している。地域の中核病院として、感染対策の中心病院となり、嶺南地域全体が関連対策のレベルアップに向けて、二州健康福祉センターと協働した活動の取り組みも継続していく。

【目標】

第2種感染症指定医療機関としてコロナだけではなく新興感染症に対応すべく、標準予防策および経路別予防策の強化。

- 1) 院内感染・アウトブレイクを起こさないため、平常時からの標準予防策が実践できるよう院内感染対策の教育・指導を徹底する。
- 2) 手指衛生の遵守率、手指消毒剤の使用回数UPにむけた取り組みを継続する。
- 3) 院内の感染対策に関する職員の意識・知識の向上のために、現場実践に即した指導・教育の継続を図る。
- 4) 標準予防策及び経路別予防策を理解し現場の実践モデルとなれるようスタッフを育成する。
- 5) 行政や嶺南地域の医療機関との連携を行い、地域の感染対策に関する知識・技術が向上できる活動を支援する。
- 6) 第2種指定医療機関として新興感染症対策に取り組む体制の更なる強化

人材確保育成室

【活動】

(人材確保)

医師・看護師・薬剤師等医療従事者の確保対策

- ・医師確保のため、県や関係大学への交渉を継続。
- ・看護師及び薬剤師等を確保するため、学校訪問等を実施。

(人材育成)

目標管理制度(人事考課)の推進。

- ・目標管理制度(人事考課)について、WEB会議での外部講師による研修を実施。

新規採用職員研修の企画

- ・新規採用職員研修を入職時と入職後半年時の年2回実施。

ミドルマネージャー級・トップマネージャー級職員研修の企画

- ・それぞれの役職向けに研修会を実施。

【評価】

目標管理制度（人事考課）については、人事考課システム導入により評価状況が容易に把握できるようになり、所属での人材育成及び業務改善につなげることができた。

また、各職員全体での新規採用職員研修の企画により、入職時から病院職員としての一体感の醸成を図ることができた。

新たに看護師長向けの問題解決研修会を実施し、論理的に考えることなど問題解決能力の向上に寄与できた。

【目標】

- ① 医療従事者の確保
 - ・看護師・薬剤師等の採用困難職種について学校訪問等により情報発信を継続する。
- ② 目標管理制度（人事考課）の推進
 - ・外部講師と連携しながら、円滑な制度運用を図る。
- ③ 医療職等の実習体制の整備
 - ・各部署及び職種における受入体制の整備を図る。
- ④ リーダー級職員研修の整備
 - ・部署間での人材育成にかかる情報交換や業務改善にかかる研修を実施。

地域医療連携室

【活動】

1.質の高い医療の提供

- ①感染対策に対する意識をもち、各自がスタンダードプリコーションを遵守する
- ②QC レポートの記載を行い、問題解決につなげる

2.人材の育成と活用

- ①業務分担をローテーションし、各自のスキルアップを行う
- ②年休取得を計画的に行う

3.地域医療の推進

- ①地域開放学習会のWEB開催を推進する
- ②外部医療機関への訪問

4.効率的運用

- ①各種統計数値の定義再確認と求められる資料の作成
- ②電子カルテ更新に伴う事務処理の手順の再確認

【評価】

1.質の高い医療の提供

- ・手指消毒・黙食を遵守し、感染予防への意識を継続できた。
- ・QC レポートによる問題に対解決率 8 割以上。

2.人材のさらなる育成及び活用

- ・業務をローテーションしていくという意識付けにとどまり、脱属人化に向け、次年度取り組み。
- ・年休取得 10 日以上達成。

3.地域医療の推進

- ・地域開放学習会 8 回実施（内 3 回オンデマンド）コロナ感染拡大を考慮し、オンデマンド配信を試みた。音質などに問題はあったが受講者からは自分のペースで聴講できるため、概ね好評であった。

4.効率的運用

- ・電子カルテ更新に伴い、流れはできたが、細かな運用については実務の中で調整が必要。

【目標】

1.質の高い医療の提供

- ①感染予防対策の継続
- ②QC レポートの記載により業務改善につなげる

2. 人材のさらなる育成及び活用

- ①年休取得とともに、昼食の休憩時間が十分に確保できる
- ②連携室の業務の棚卸と業務のローテーションの実施（業務負担の公平化）

3. 効率的運用

- ①業務のスリム化（物・情報端末のフォルダ整理・業務整理）

患者相談室・がん相談支援センター

【活動】

1. 相談、患者サポート業務

- ・患者や家族・院外関係者等に納得してもらえる相談/支援
- ・患者サポート体制充実に向けた院内体制見直し、報告体制の仕組みづくり
- ・CS 部会事務局、緩和ケア事務局業務、ボランティア活動支援

2. がん相談支援センターの運営

- ・がん相談等に対応する体制を整備する
- ・患者サロンの開催・運用

3. 人材育成及び活用

- ・学会発表、研修会参加、患者相談・がん相談に必要な資格取得者の確保・育成

4. 地域医療連携の推進

- ・多職種連絡票を活用した地域との連携、外来患者の相談に係る地域連携

5. 効率的運用

- ・患者相談室業務の可視化・標準化
- ・算定可能業務の見直し、業務整理、時間外業務の削減

【評価】

1. 相談業務について

- ・4/1～3/31 までの相談対応件数は 381 件。「苦情」という用語を「ご意見」「要望」と改め、部署への回答依頼方法を見直した。結果、事実確認実施率 84 件/84 件（100%）、1 か月後評価実施率は 84 件（100%）と部署からの回答がスムーズになり回答率が向上した。
- ・相談が多い内容については支援部メッセージボードでの情報発信、情報提供に繋がった。
- ・患者サポート相談会議を毎週開催し事例報告と対応におけるタイムリーな評価を実施。
- ・患者サポート担当者会 4 回/年開催し院内連携・報告体制の仕組みを構築した。

2. がん相談支援センター運営について

- ・がん相談 27 件
- ・緩和ケア外来 12 件（延べ）
- ・緩和ケアや接遇に関する研修会の企画開催
- ・ボランティア交流会開催、研修会開催

3. 人材育成及び活用

- ・医療対話推進者認定 3 名増員
- ・がん相談支援センター相談員 3 資格取得者 1 名増員

4. 地域医療連携の推進

- ・対応困難事例に関しては、地域ケア会議を開催し地域の関連機関と協働した。
- ・多職種連絡票対応件数 292 件

5. 効率的運用

- ・患者サポートマニュアルを修正し電子カルテに掲載
- ・患者サポート体制充実加算に係る体制整備

【目標】

1. 安心・納得に繋がる相談/支援の提供

- ・感染制御を推進しながら、相談業務、その他支援活動を継続する
- ・患者/家族および院内外の関係者に納得してもらえる相談、その他支援を提供する

2. 人材のさらなる育成及び活用

- ・患者満足度向上に繋がる CS 部会活動の継続

・がん専門相談員・医療対話推進者(施設基準)等資格取得/更進、学会発表・研修受講

3. 地域医療連携の推進

・地域の医療・介護・福祉施設・行政との連携、相談できる関係づくり

4. 効率的運用

・患者相談室業務の可視化・標準化、業務整理、時間外業務の削減

・病院機能評価受審に向けた準備

・算定可能業務の見直し

入退院支援室

【活動】

①**質の高い医療の提供**：QC レポートの活用、感染対策の継続、ICT の活用に向けた取り組み

①**人材の育成と活用**：有給休暇の自己管理、研修会・学会参加、院内スタッフへの勉強会の開催

②**地域医療の推進**：地域の病院および施設への訪問、入退院支援加算の算定数維持、介護支援連携指導料の算定数維持

④**効率的運用**：退院カンファレンスの効率化と質向上、業務内容の見直し（タスクシェア・タスクシフティングの推進）、業務マニュアル・手順書の作成・整理

【評価】

・退院支援介入人数は年間 1,341 名、入退院支援加算 1 算定数は年間 425 件であった。

・退院前カンファレンスの開催数は、一般病棟 148 件、地域包括ケア病棟で 210 件で、介護支援等連携指導料は 320 件（内、196 件は地域包括ケア病棟に伴い包括算定）、退院時共同指導料 2 は 12 件（内、8 件は地域包括ケア病棟に伴い包括算定）の算定を行った。

・MSWのミーティングを定期的で開催し、退院困難な患者について情報共有した。

・退院支援困難患者を確認・分析を行いやすくするために電子カルテ内の入退院支援システム上で、困難度合いを★印にて表示・可視化した上で、地域医療連携委員会・病棟管理委員会で報告、共有している。

・退院前カンファレンスの質向上に向けて、カンファレンスの際にリハビリ職・管理栄養士が各自作成した患者情報を資料配布し、患者家族・院外参加者に対してより詳しく情報提供できるよう取り組みを継続している。（来年度は、地域包括ケア病棟・看護部・リハビリスタッフに協力を頂き、看護サマリやリハ情報の事前配布の試みにも取り組む予定）

・入院案内・入院支援係では、入退院支援システムを活用した入院前支援の仕組みを作成した。

- ・業務を洗い出し、手順書を作成。事務業務と看護業務を整理し標準化した。
- ・患者サービスの一環としてのオンライン面会では面会者の窓口となり、年度末までに416件、月平均34.6件に対応した。

【目標】

1.安全・安心で質の高い医療の提供

- ①インシデントレポート・QCレポートを作成、検討、活用して再発防止に努める
- ②感染対策を継続する
- ③ ICT 活用に向けた取り組みを行う

2.人材の確保、育成及び活用

- ①研修会・学会等への参加の促進
- ②院内スタッフへの勉強会の開催（院内連携の強化）
- ③有給休暇の取得促進

3.地域医療の推進

- ①地域の主要施設及び病院を訪問する(アウトリーチ)
- ②入退院支援加算の算定数維持
- ③介護支援連携指導料の算定数(一般病棟)の維持
- ④入院前支援の仕組み作成・実践

4.効率的運用

- ①退院カンファレンスの効率化と質向上のための取り組み
- ②業務内容の見直し（標準化）を行い、タスクシェア・タスクシフティングを推進
- ③業務マニュアル・手順書などの整理・作成

医療技術部

【活動】

- ①『医療技術部各室との情報共有と協力』を推進するため、日々の状況を共有する。
- ②医療技術部で協力しつつ、発熱トリアージ、コロナワクチン接種統括等の共通した業務に取り組む。
- ③医療技術部各室で可能なタスクシフトを検討し、他部門とともに業務の効率化に取り組む。

【評価】

- ①医療技術部の情報共有と協力のため医療技術部責任者会議を定期的で開催した（10回／年）。各室責任者間で、日々の各室勤務状況等を共有した。
- ②業務の都合で発熱トリアージやワクチン接種統括業務が困難な部署があれば医療技術部内で補い合って実施できた。発熱トリアージ業務は終了したが、ワクチン接種統括業務は今後も協力して継続していきたい。

③他部門とともに検討し、新たなタスクシフトを実施した。例として、リハビリテーション室では口腔・鼻腔内吸引院内認定、ならびに気管内吸引院内認定者を育成でき、看護師業務の一部をタスクシフトできた。委員会事務局の役割を、事務から医療技術部にもタスクシフトできた。

【目標】

- ①がん診療の充実に向け、医療技術部各室が連携し、質の高い医療を提供する。
- ②医療技術部内での人材育成を推進し、働きやすく満足度の高い職場作りに取り組む。
- ③院内外へのつながりを広げ、さらなる医療の連携を目指す。
- ④タスクシフトを推進し、他部門とともに業務の効率化に取り組む。

検査室

【活動】

病院理念を基本とし、病院目標である「安全・安心で質の高い医療の提供」、「人材のさらなる育成及び活用」、「つながりのある地域医療の推進」、「効率的運用」を主眼とした検査室部門目標に基づき取り組みを行った。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う業務増加に対し、検査室内のタスク見直しを行い対応した。

1) 安心・安全で質の高い医療の提供

- ①感染制御を踏まえた業務の標準化、マニュアルや標準作業書の更新、気送管運用変更後評価、個人防護具や手指消毒、医療廃棄物の室内講習会など業務改善およびその評価を行った
- ②検査室だよりや電子カルテ更新に伴う運用変更など院内への情報提供に努め、併せてその記録の充実に取り組んだ
- ③パニック値運用変更に向けた準備、細胞検査士増員による細胞診検査すべて院内化など、質の高い医療の提供に努めた

2) 人材のさらなる育成及び活用

- ①検査室全体で目標管理制度を通じた人材育成に取り組み、個人目標達成に向けた支援を縦の繋がり横の繋がりで行った
- ②経験年数に応じたスキル表を基に、院内及び検査室内での立ち位置と役割を明確にした
- ③役職者の人材育成を目的に、それぞれが注力する業務分掌を行った

3) つながりのある地域医療の推進

- ①電子カルテ更新に向け関連業務を他職種及び他部署と連携し対応した
- ②透析室採血管準備や血糖自己測定器検査業務、委員会事務局など、他部署と連携を図りながら継続して取り組んだ

4) 効率的運用

- ①免疫項目について使用試薬の効率化を図り、コスト削減に寄与した
- ②複数部門担当者を増加し、より効率的な人員配置に努めた

【評価】

電子カルテ更新に伴う準備や新型コロナウイルス感染症流行などの影響を受けたものの、上記の活動を通じて、当初の目標は概ね達成するとともに、医療の質、検査室機能および患者サービスの向上につながったと考える。さらに新型コロナウイルス感染症対応として検査室の機能及び業務拡大を継続し、臨床検査技師に求められる業務の遂行に注力できた。

【目標】

継続性を重視し、病院理念、病院目標を基に「安心・安全で質の高い医療の提供」、「人材のさらなる育成及び活用」、「つながりのある地域医療の推進」、「効率的運用」を主眼とし、地域がん診療連携拠点病院としての役割を含め下記のとおり検査室部門目標の設定と取り組みを行う。

1) 安心・安全で質の高い医療の提供

- ①継続した感染制御と検査室業務の標準化推進 ～がん診療・救急診療への注力～
- ②情報共有の仕組みを活かした業務改善の推進とその記録の充実 ～報連相と記録の充実～
- ③質の高い医療提供に向けた他職種支援 ～タスクシフトを意識し相手目線で考える～

2) 人材のさらなる育成及び活用

- ①検査室全体で取り組む目標管理制度と、個人目標達成に向けた支援 ～上司から同僚から～
- ②教育プログラムの見直しと、経験年数に応じた教育プログラムの運用 ～立ち位置と役割～
- ③質の高い医療・業務改善に向けた人材育成 ～立ち位置と役割～

3) つながりのある地域医療の推進

- ①検査室の特性を活かした、他部門との連携 ～個人のスキル・部門のスキル・室のスキル～
- ②他職種、多部門間のつながりを広げ、院内外における業務の連携を進める ～どこの誰と何を～

4) 効率的運用

- ①既存検査項目および検査機器の有効活用 ～今あるヒト・モノでナニが出来る～
- ②検査の質に重点を置いた上での収入増、コスト削減の提案 ～検査技師ならではの視点を～
- ③業務改善の継続と検査室内業務連携 ～組織の進化とすき間業務～

放射線室

【令和4年度の目標】

- 1、安全・安心で質の高い医療の提供
 - 1-① アフターコロナも見据えた感染制御のさらなる推進
 - 1-② 機器の有効利用による急性期・回復期医療への貢献
 - 1-③ 医療安全への積極的な取り組み
 - 1-④ 被ばく低減施設認定に向けた取り組み
 - 1-⑤ 認定の保持・取得に関わる取り組み
 - 1-⑥ 画像診断技術の向上
- 2、人材のさらなる育成及び活用
 - 2-① 患者・職員満足度向上への取り組み
 - 2-② チーム医療を意識した取り組み
 - 2-③ 各種学会への参加・発表の推進
 - 2-④ 医療接遇の強化
 - 2-⑤ 室内の人材育成の推進
- 3、地域医療の推進
 - 3-① 科外への情報発信・PR活動
 - 3-② 地域住民が求める医療の提供
- 4、効率的運用
 - 4-① 時間の効率的な運用
 - 4-② タスクシフトを見据えた業務改革
 - 4-③ 病院経営を意識した取り組み

【令和4年度の評価】

- 1、医療放射線管理の取り組みとして、水晶体被ばくの評価をした。
- 2、医療機器の整備について、放射線治療装置の導入が決まった。
- 3、医療安全の強化においてスタッフ間の情報共有により医療事故防止に取り組めた。
- 4、院外のCTやMRIなどの予約情報について丁寧な情報発信に心掛けた。
- 5、院内ワクチン接種の協力とコロナ患者の入院の業務に全スタッフで取り組んだ。
- 6、コロナ禍で患者が減少しているが、ほとんどすべての部門で件数増加となった。
- 7、医療被ばく低減施設認定の取り組みで院内研修会を開催した。

【令和5年度の目標】

- 1、安全・安心で質の高い医療の提供
 - 1-① 放射線管理の強化と院内教育の充実

- 1-② 医療機器の有効利用と整備
- 1-③ がん治療・救急医療への積極的な関与と画像診断技術の更なる向上
- 2、人材のさらなる育成及び活用
 - 2-① 働き方改革を推進し、院内でのコミュニケーションや情報共有を強化する
 - 2-② 放射線学および放射線学の枠を超えた研究や学会発表から学問のレベルを高める
 - 2-③ 患者満足度と職員満足度の向上を目指す
- 3、地域医療の推進
 - 3-① 院内院外へつながりを広げ医療の提携の拡大を目指す
 - 3-② 院外医療施設への積極的な PR と正確な情報提供
- 4、効率的運用
 - 4-① タスクシフトを推進し、ムダのない効率的な時間づくりと人員配置をはかる
 - 4-② 使用物品の見直しや節約等の経費削減、コスト漏れに対する意識改革

リハビリテーション室

【活動】

- ①リハ室で可能なタスクシフトを検討し、他部門とともに業務の効率化に取り組む。
- ②感染状況に応じた適切な人員配置を行い、安全・安心なリハビリテーション提供を行う。
- ③心臓リハビリテーション指導士の資格取得支援を行う。
- ④都道府県臨床実習指導者講習会へ積極的に参加し、指導資格取得者をさらに増やす。
- ⑤言語聴覚士増員により小児言語聴覚療法の予約枠拡大ならびに、患者の安全な食事摂取を支援する。
- ⑥小児患者のリハビリテーション前診察をリハビリテーション科で行い、患者の利便性を図る。
- ⑦学会発表支援を行い、開催状況に応じた発表を行う。
- ⑧がんリハビリテーション指定研修に参加し、がんリハビリテーションの充実を図る
- ⑨リハビリテーション室内にて職員研修部を設立し、接遇向上、腰痛対策を図る。
- ⑩新しい電子カルテ導入に際し、リハカルテ、書類、地域包括ケア病棟のリハ単位管理など効率よく業務できるようなシステムにする。
- ⑪がん診療連携拠点病院事業に広報などの活動に積極的に協力する。
- ⑫認知症ラウンドに参加し、認知症ケア専門士を中心に認知症への理解を深める。
- ⑬目標設定等支援・管理料の算定件数を増やし、地域との連携を深める（目標件数 80 件／年、前年度 76 件）。
- ⑭専門・認定療法士が増え、それぞれの専門分野についての研修会を実施し、リハビリテーション室全体のレベルアップを図る。

【評価】

- ①看護部とともに口腔・鼻腔内吸引と気管内吸引のタスクシフトを検討し、リハビリテーションスタッフに対する研修システムを作成した。研修システムを教育研修部で確認して頂き、院内認定制度を開始した。令和4年度は口腔・鼻腔内吸引院内認定者3名、気管内吸引院内認定者1名を育成でき、看護師業務の一部をタスクシフトできた。
- ②感染状況に応じて、原則1病棟担当など適切な人員配置を行った。また、リハ職員感染対策基準を適宜見直し、個人防護具装着練習も行き安全・安心なリハビリテーション提供を行った。
- ③作業療法士に対して心臓リハビリテーション指導士の資格取得支援を行った。数年後の資格取得を目指し支援を継続する。
- ④都道府県臨床実習指導者講習会に5名参加し、指導資格取得者は10名に増えた。
- ⑤言語聴覚士を2名増員した。耳鼻咽喉科医師ならびに摂食・嚥下障害看護認定看護師と連携しVE（内視鏡嚥下機能検査）を実施し、患者の安全な食事摂取を支援した。
- ⑥小児患者のリハビリテーション前診察をリハビリテーション科で行うことで、毎日実施できるようになり予約枠は2倍に増加し患者の利便性が改善した。
- ⑦文献抄読会などを通じて学会発表支援を行うことで発表件数が増加した（令和4年度9件。令和3年度6件）。
- ⑧がんリハビリテーション指定研修に参加し、がんリハビリテーションを実施できるリハ職員を3名育成できた。これで、理学療法士6名、作業療法士3名、言語聴覚士2名が、がんリハビリテーションを実施できる体制となった。
- ⑨リハビリテーション室内にて職員研修部を設立した。リハ職員へのアンケートを行い、その結果を基に接遇向上や腰痛対策に向けた研修会を開催できた。
- ⑩新しい電子カルテ導入に際し、リハカルテ、書類、地域包括ケア病棟のリハ単位管理など効率よく業務できるようなシステムを目指した。部門システムと電子カルテが一本化され利便性は向上した。また、患者登録作業などは簡便化できた反面、リハ単位管理業務には時間を要す等など業務効率が低下した項目もある。
- ⑪がん診療連携拠点病院事業に、リハ職員2名が参加し広報、研修を担当し積極的に活動した。
- ⑫認知症ケア専門士の資格を1名取得できた。資格取得者が認知症ラウンドに参加し、認知症への理解を深めることができた。
- ⑬目標設定等支援・管理料の算定件数を増やすことができ、地域との連携を深めることにつながると思われる（令和4年度目標件数80件のところ88件算定。前年度76件）。
- ⑭認定理学療法士が3名増えた。それぞれの専門分野についての研修会を実施し、リハビリテーション室全体のレベルアップを図ることができた（令和4年度現在、認定理学療法士4名、専門理学療法士1名）。

【目標】

- ①アフターコロナにおいてもリハ前後の手指消毒などの標準予防策を厳守し安全な医療の提供を継続する（手指消毒ボトル使用量、1スタッフあたり平均2本/月以上使用を目標）
- ②がん診療について、がんリハチームを中心に知識・情報を共有・学習の場を設ける（年2回）
- ③がんリハの実績向上（令和5年度がんリハ目標単位数4,700単位 令和4年度は4,474単位）
- ④0、1レベルのインシデントレポートを50件/年以上提出する（令和4年度44件）
- ⑤各職員の個人目標を共有し、達成を支援する
- ⑥学会への参加や発表を支援し、個々のベースアップを目指す
- ⑦医療職として適切な接遇ができる人材を育成する
- ⑧リハ室内での勉強会等の充実を図る（各職種で年に1～2回実施）
- ⑨動画や事前サマリ作成を利用して、効率的なカンファレンス参加を目指す
- ⑩こども療育センターなど、他施設とのつながりを広げ小児リハビリの発展を目指す
- ⑪退院前訪問指導の再開にて地域スタッフと連携して在宅支援を強化する（コロナ禍前の半数を目標とする）
- ⑫小児カンファレンスを通じて、発達療育に関わる多職種の連携を深める
- ⑬職場環境や業務内容を整理し、効率化を図る
- ⑭同職種副担当制を推進し、効率的なリハビリテーションの提供を図る。代診しやすい環境とし、患者・職員満足度向上につなげる
- ⑮リハ同職種だけでなく理学、作業、言語聴覚士間でのタスクシェア、タスクシフトを推進しリハビリテーション室内の効率的な運用を目指す
- ⑯個人の業務量を把握し、適切な業務配分を行う
- ⑰都道府県臨床実習指導者講習会へ積極的に参加し、指導資格取得者をさらに増やす。

臨床工学技術室

【活動】

- ①透析センターにおける業務を円滑に実施した。
- ②病棟透析・急性血液浄化・PCPS等の業務における対応を円滑に実施した。
- ③感染病棟において、コロナ陽性透析患者の透析業務を実施した。
- ④稼働中の人工呼吸器・閉鎖式保育器の動作中点検を、毎日実施した。
- ⑤中央管理しているME機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器・経腸栄養ポンプ・電動式低圧吸引機）の管理を安定して行った。
- ⑥貸出システム（タッチパネル操作とQRコード読取り）を導入し、借用者による貸出登録方法に変更し、貸出業務の効率化とペーパーレス化を行った。

<p>⑦除細動器及びAEDの日常点検を行い、管理を強化した。</p> <p>⑧手術室に技士を派遣し、当日使用する麻酔器・電気メス・腹腔鏡等の点検を行った。</p> <p>⑨⑧に加え手術室業務として、術中回収式自己血輸血（セルセーバー）を円滑に実施した。</p> <p>⑩透析液水質確保加算に対応した透析液の管理を実施した。</p> <p>⑪看護師を対象に人工呼吸器・輸液ポンプ・除細動器・生体情報モニター等の勉強会を実施した。</p> <p>⑫ペースメーカー外来に参加しペースメーカーのチェック業務を行った。</p> <p>⑬ペースメーカーの遠隔モニタリング業務を円滑に実施した。</p> <p>⑭ペースメーカー植え込み手術の立ち合いを実施した。</p> <p>⑮ペースメーカー植え込み患者のMRI及び内視鏡検査前後でペースメーカーチェックを実施した。</p> <p>⑯その他院内にある様々な医療機器の修理やトラブル対応を行った。</p>
<p>【評価】</p> <p>① 上記活動を通じて、当該年度の目標はほぼ達成できた。今後も安全で効率的なME機器の運用に向け努力していきたい。</p> <p>② ペースメーカーに関する業務はかなり充実できたが、一方で手術室業務に関する新たな人材の育成が進んでいないため、今後の課題としていきたい。</p>
<p>【目標】</p> <p>①令和4年度の活動の継続と強化を図る。</p> <p>②手術室業務をさらに充実させるため、引続き人材の育成を行う。</p> <p>③臨床工学技術室の業務マニュアルを作成する。</p>

<h2>栄養管理室</h2>
<p>【活動】</p> <p>安全・安心で質の高い医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月調理室ラウンドを実施し衛生管理を徹底することで、安心して安全な食事を提供した。 ・毎月医療安全カンファレンスを実施し、インシデント・アクシデントの再発防止に努めた。 <p>人材の確保・育成及び活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に研修会に参加し、所属員全員の知識向上に努めた。

地域医療の推進

・退院カンファレンスへの参加、栄養管理情報提供書などを用いて地域施設との連携を深めた。

効率的運用

・個々に応じた食事内容を提案し、適切な栄養管理、栄養指導を実施した。

入院栄養食事指導料：708 件/年

外来栄養食事指導料：328 件/年

【評価】

- ・昨年度に引き続き、調理室ラウンドを実施し、衛生管理の維持に努めることができた。
- ・退院前カンファレンスに参画し、地域施設との連携を図った。
- ・給食管理マニュアルの見直し、新規作成を行い業務の効率化を図った。

【目標】

- ・未然インシデント（レベル0）を共有し、改善案を導きレベル1以上のインシデント発生を防止する。
- ・積極的に研修会に参加し、所属員全員の知識向上につなげる。
- ・退院カンファレンスへの参加、栄養情報提供書などを用いて地域施設との連携を深める。
- ・業務マニュアルを作成、調整することで業務を標準化・効率化できる仕組みづくりをし、業務改善のタスクシフトを図る。

歯科衛生室

【活動】

安心安全で質の高い医療の提供

・診療中等、適切なタイミングでの手指消毒を徹底することにより、感染対策を徹底することができた。診療室入口に自動手指消毒機で入室時に患者へも手指消毒を促した。

人材のさらなる育成及び活用

- ・年間を通して医療安全カンファレンスを定期的実施したことで協議内容の情報共有をすることができた。
- ・不定期に部署内での勉強会を実施した。

効率的運用

- ・歯科材料の注文システムの継続することで、使用頻度の少ない材料を明確にした。
- ・歯科材料の使用期限を定期的確認した。
- ・口腔ケアで使用する材料の持ち出しの減少させる為、口腔ケアオプションの加入を促した。

【評価】

- ・コロナ禍より、変化する環境にも手指消毒や環境整備等適切に対応が出来ていた。
- ・口腔ケアラウンドに介入される患者さんについての院内での情報共有は、ほぼ定着できた。退院や転院、自宅退院への情報提供については、平成4年度は口腔ケア依頼され全件数87件中、情報提供は7件（全体の8%）であった。
- ・口腔ケアに使用する口腔ケアオプションの加入率は87%と去年より11%アップすることができた。
- ・歯科材料の注文システムを継続することで、使用頻度の少ない歯科材料がより具体的に分かってきた為、今後も継続して注文が必要かを検討することができ、経費削減へつながった。
- ・歯科材料の使用期限を定期的に確認することで使用期限内に使い切るよう促せた。

【目標】

1) 安心安全で質の高い医療の提供

- ①インシデントやヒヤリハットの情報を共有し、安心安全な医療を提供する。
 - ・インシデントレポートの個人目標を達成する。
- ②癌に対する知識の自己研鑽に励み、情報を共有し他部署と連携する。
 - ・研修会へ年2回以上参加し、意識の充実を図る。

2) 人材のさらなる育成及び活用

- ①患者への丁寧な対応を心掛け、分かりやすい医療を提供する。
 - ・接遇スタンダードチェックを基本とした対応の実施
- ②部署内で助け合い、働きやすい環境になるよう取り組む。
 - ・定期的な有給の取得の実施
 - ・各自の業務に対して配慮を行う

3) 地域医療の推進

- ①地域とのつながりの充実を目指し、歯科衛生士としての取り組みを行う。
 - ・地域とのつながりを模索する。
 - ・退院時の入院患者や家族へ口腔ケアの指導を実施する。

3) 効率的運用

- ①各々の業務の見直し、効率の良い業務の仕組みを各自が検討し、対策する。
 - ・各自が部署内で担当している業務の見直し

薬剤部

【活動】

1. 安全・安心で質の高い医療の提供
 - ・処方監査におけるシステムの活用により、検査値を用いた用量チェックやアレルギー、重複、相互作用などの処方チェックがより確実に行えるようになった。
 - ・外来におけるハイリスク薬の適正使用推進の一環として、JACK 阻害薬の適正使用の運用ルールを作成し地域の薬局との運用を開始した。
 - ・画像鑑査システム等の導入により、より安全な調剤業務に取り組んだ。
 - ・医薬品の出荷調整や販売中止などが相次ぐ中で、必要な医薬品の確保に努めた。
2. 人材確保・育成および活用
 - ・新人薬剤師 1 名が就職し、新人のラダーに沿って教育・指導を行った。習得したスキルの評価表を新たに作成し活用した。
 - ・栄養療法の研修を 2 名が修了し、NST ラウンドのメンバーとして参加できるようになった。
 - ・職能団体や学会の認定取得に向けても各々前進した。
3. 地域医療の推進
 - ・JACK 阻害薬の適正使用のための薬薬連携を地域薬剤師会とともに進めた。
 - ・退院時の連携サマリーを積極的に活用し、切れ目のない薬学的ケアを提供できるよう協力し合った。
4. 効率的運用
 - ・電子カルテの更新に合わせて、オンライン上での処方監査を取り入れ、処方監査、疑義照会、記録の流れを効率化した。
 - ・抗がん薬のバイオシミラーへの切り替えを積極的に行い、医薬品コストの軽減に貢献した。

【評価】

前年度に引き続いて、メーカーによる医薬品の供給に関する問題がたびたび発生し、対応に大きな時間を費やした。

人員体制としては新人薬剤師 1 名増でスタートし、年間を通じて安定していたが、引き続き人員の確保が大きな課題である。

後半は 2 月の電子カルテ更新に向けた準備に追われたが、その中でよりよい処方チェックシステムの構築や、化学療法の登録レジメンや運用方法の見直しができ業務改善につながった。また、調剤機器等の IT 化も進み、調剤業務の効率化につながった。

年度目標についても、薬剤管理指導件数は目標未達であったが前年度より増加し、その他の業務指標については目標を概ね達成できた。

【目標】

1. 安全・安心で質の高い医療の提供
薬剤師の専門性を発揮し、安全安心な質の高い薬物治療を提供する。
医薬品の安全な使用と適正な管理を推進する。
2. 人材確保・育成および活用
個々の能力を尊重し、良好なコミュニケーションが行われる職場環境を推進する。
クリニカルラダーと教育研修を確立し、各人のスキルアップとチーム力の向上につなげる。
3. 地域医療の推進
地域の医療機関と積極的に連携を行い、患者中心の医療を実践する。
地域薬局との業務交流や研修を深め、地域全体で薬の適正使用を推進する。
4. 効率的運用
業務内容の見直し、タスクシェアの拡大、ICTの活用によりルーチン業務の効率化とレベルアップにつなげる。

看護部

【活動】

- 1 感染対策の徹底、がん看護臨床実践能力の強化、マニュアルに基づいた看護実践
- 2 ワークライフバランスの推進、業務改善、人材育成、目標管理・教育体制の充実
- 3 入院前支援の促進・退院支援の強化と充実、ベッドコントロールの強化、継続看護の実践、効果的な患者カンファレンス・多職種カンファレンスの充実
- 4 看護補助者との協働・業務改善、電子カルテ変更後の運用統一

【評価】

1. 各部署で、所属長および感染リンクナースを中心として手指消毒の使用量UPに向けた取り組みを実施。結果、毎月の使用量の平均化15回前後。個人使用量の差が極端である部署も多いことが課題である。
がん看護については緩和ケア認定看護師および緩和チームを中心として、研修会などを行った。がん拠点を取得できたことから、幅広い知識・技術の習得に向けた看護実践能力の充実を今後も継続していく。
インシデント事例や医療安全の視点から、事例がおこった時にマニュアルに戻って振り返る体制はできているが、マニュアル順守が出来ていない技術も多く、周知方法や対策後の確認方法などは今後の課題である。
2. 働き方改革委員会を中心に花丸（定時で帰る）企画は継続中。定時帰宅に向けて実施できる部署とできない部署がある。勤務状況の多様性から、夕方の勤務者が少なくなることにっては、多職種への協力依頼もしていくことが重要となる。

目標管理に関しては定着してきているが、各部署の評価に関する精度を標準化するための教育なども今後検討していく必要がある。

ラダー制度を取り入れ、ラダーの研修やeラーニング等を主に行った。学研サポートナーシングに変更後、必須研修の管理や教育の評価をどうしていくかも含めて教育担当者や教育委員会での検討が必要。

3. 入院前支援に関しては少しずつ実績を増やしている。外来からの連携などに課題もあるため、定期的に協議できる場を作っていく必要がある。

ベッドコントロールに関してはベッドコントローラーを中心に病院経営や各部署の業務負担も考えてコントロールしている。多職種の協力を得られないことに関しては病棟管理委員会などで協議し、課題解決に向けて今後も取り組んでいく。ベッドコントローラーの権限移譲に関して明文化していく。

4. 主任会を中心として看護補助者の業務マニュアル作成、看護補助者のラダー制度、業務の標準化、看護師との協働、タスクシフトなどを検討し、実施している。ラダー制度に関しては取り組みを開始したところなので、今後は、看護補助者の育成についても強化していく方向で指導的立場の看護補助者を増やしていく体制作りを目指す。

【目標】

- 1 看護職の倫理綱領に基づいた、安心・安全・安楽な質の高い看護の提供
- 2 生き生きと働き続けられる職場づくり、職員が働きたいと思える職場づくりの実践
- 3 多職種と連携・協働し、継続した看護を提供
- 4 看護業務の明確化とタスクシフト・タスクシェアの実施

総務企画課

【活動】

①中期経営計画の推進

- ・ 経常収支比率100以上を継続でき、黒字経営を継続できた。

②医療器械の効果的配置

- ・ 必要性や優先度を基準に医療機器機種選定委員会で審議し、補助金の活用を図った結果、当院の診療規模に応じた適切なスペック、数量の医療器械を導入できた（放射線医用画像情報システム 他）。

③施設設備の計画的補修と円滑な管理

- ・ 補修、改修の際は、将来の修理、改修の際まで見越して可能な限り汎用品等で対応し、適切な定期点検、日々点検により、不具合の早期発見に努め、経費を節減できた。

【評価】

新型コロナウイルス感染症に対しては、陽性患者の入院受入れや発熱外来などを継続した。患者数の減により、経営の健全性を示す経常収支比率は悪化したものの、経常収支比率100以上を継続できた。医業収支比率についても、患者数の減により悪化した。また、修学資金制度等により、引き続き看護師及び薬剤師の確保に努めた結果、経営改善と安定した医療サービスの提供に努めることができた。

【目標】

①中期経営計画の推進

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、経営悪化が懸念されるが、健全な病院経営を目指す。
- ・ 経費削減

②医療器械の効果的配置

- ・ 機種選定委員会などを開催し、必要性や優先度を基準に予算の範囲内及び各種補助金を活用し新設及び更新を行う。

③施設設備の計画的補修と円滑な管理

- ・ 経年劣化で修繕が必要な個所を洗い出し、計画的な修繕を行う。

医療サービス課

【目標】

- ① 2024年診療報酬改定への対応
 - ・施設基準に従った算定及び点数算定取得への取り組み
- ② 紹介受診重点医療機関認定への取り組み
 - ・地域のニーズに応え二次医療圏の中心病院としての役割を果たす
- ③ 情報システムの適切な整備・運用
 - ・電子カルテ更新後の有効活用・医療DXの取り組み
- ④ 未収金削減に向けた取り組み
 - ・委託弁護士法人との連携と委託件数の強化
- ⑤ 新型コロナウイルス対応に向けた準備・行動
 - ・ワクチン接種における適正事務の執行、発熱外来及びCOVID-19陽性患者入院における適正な請求、公費見直し後の対応

【評価】

2022年診療報酬改定においては引き続き過去最高となるDPC係数を獲得した。しかしながら、診療報酬改定により地域包括ケア病棟の入棟基準の厳格化が求められたため見直しを行った。今後、アフターコロナにおける病院経営とともに課題がある。

紹介重点医療機関申請については、二次医療圏における住民のニーズと当病院の在り方を検討した結果、申請を見送ることとした。今後も住民ニーズや市内クリニックの状況を見ながら病院の在り方を検討していく必要がある。

電子カルテ更新（システム入替え）に関してはベンダー、院内各部署と協議を行い、スムーズに更新することができた。運用にあたっては更新時に見えなかった諸問題が明らかになったため、引き続き問題の解決や効率化に向けて取り組む必要がある。

未収金回収に関しては委託弁護士法人との連携により、着実に成果をあげていると市監査からの評価を得た。

コロナ対応に関しては、発熱外来、ワクチン接種、オンライン面会、公費請求と限られた職員数のなかで、課全体の業務として協力をしながら行ってきた。

【目標】

- ① 2024年診療報酬改定への対応
 - ・プロジェクトチームによる点数算定取得及び既存算定基準の見直しへの取り組み
 - ・各種基準の見直し
- ② 情報システムの適切な整備・運用
 - ・電子カルテ更新後の有効活用、効率化・医療DXの取り組み
- ③ 未収金削減に向けた取り組み
 - ・委託弁護士法人との連携と委託件数の強化
- ④ 病院機能評価受審に向けての対応
 - ・各種マニュアルの整備

訪問看護ステーション つなぐ

【活動】

令和4年度 訪問診療

新規利用者 18 名・前年度からの継続利用者 2 名・のべ利用者数 53 名・
延べ訪問件数 110 件・在宅看取り 14 件

令和4年度 訪問看護

新規利用者 22 名・前年度からの継続利用者 8 名・のべ利用者数 140 名
延べ訪問件数 746 件
新規相談件数：63 件
在宅推進委員会 月 1 回第 3 火曜日開催
訪問診療・看護部会 毎週水曜日開催
訪問診療患者報告・新規訪問患者紹介・その他

【評価】

- ・病院併設型の訪問看護ステーションとして開設後、訪問診療と共に定着つつある。
在宅看取りの体制は維持できている。
- ・今後も患者、家族の意思を尊重し、安心して在宅療養ができるよう、他職種や地域の
医療・介護従事者との連携と協働をさらに強化していく。

【目標】

- 1、安全安心で質の高い医療の提供
→医療依存度が高い重症者（ターミナルを含む）の在宅療養生活を安心・安全に支える。
- 2、人材のさらなる育成及び活用
→互いに高め合い、働き続けたいと思える職場を作る。
- 3、つながりのある地域医療の推進
→利用者・家族を中心に、多職種連携を行い質の高い看護を提供する。

10 委員会活動

部長会		
委員長 事業管理者	開催数 12回	掌握する事項 ・病院運営の基本方針に関すること ・重要な施策に関すること ・企画推進に関すること
活動状況等 ・月1回開催 ・毎月の重症度、医療・看護必要度についての報告 ・毎月の診療収入等についての報告 ・毎月の月間運動テーマの決定 ・病院の運営について報告		

管理運営診療委員会		
委員長 事業管理者	開催数 13回	掌握する事項 ・病院管理運営上の基本方針策定及び審議に関すること ・診療業務の検討、連絡に関すること
活動状況等 ・毎月の重症度、医療・看護必要度についての報告 ・毎月の診療収入等についての報告 ・病院の運営について報告		

防災対策委員会		
委員長 事業管理者	開催数 12回	掌握する事項 災害に関すること、防災・避難訓練に関すること
活動状況等 救急蘇生災害医療部会の活動報告をもとに避難訓練、防災訓練（年2回、うち1回は休日夜間を想定した訓練）、原子力防災訓練について話し合い協議し方向性を決定する。		

救急蘇生災害医療部会		
委員長 関節外科部長	開催数 6回	掌握する事項 災害医療及び心肺蘇生法の普及とその意識の向上に関すること

<p>活動状況等</p> <p>隔月第2木曜日開催</p> <p>【救急部門】</p> <p>救急カート点検、チェックの実施、コードブルー検証会の実施</p> <p>【災害部門】</p> <p>災害対策マニュアルの改定、勉強会の開催（3回）、院内防災訓練、安否確認メール連絡訓練（2回）、消火訓練の実施</p>
--

DMA T		
委員長	開催数	掌握する事項
関節外科部長	11回	災害医療活動に関すること
<p>活動状況等</p> <p>毎月第2木曜日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DMA T隊員養成研修（看護師：2名） ・中部ブロックDMA T実動訓練（1チーム） ・技能維持訓練（看護師：2名、業務調整員：2名） ・大規模地震時医療活動訓練（1チーム） 		

医療安全対策委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
副院長	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療事故やインシデント事例の分析・評価・改善計画に関すること ・医療安全対策委員会での検討事項、改善計画をマニュアルに反映し職員全体への定期的な周知徹底に関すること ・医療安全対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し見直しに関すること ・新聞等から他施設の医療事故の情報を入手し、事故防止の検討に関すること ・医療事故防止のための職員の教育・研修に関すること
<p>活動状況等</p> <p>毎月第3月曜日開催</p> <p>医療機器、医薬品、インシデント・アクシデント事例、対策評価、院内ラウンド、患者相談、医事紛争に関する内容について報告、討議をおこなった。</p>		

リスクマネジメント部会		
委員長	開催数	掌握する事項
医療安全管理 室 室長補佐	12回	・インシデント・アクシデントの原因を究明し、職員の医療安全に対する意識向上と指導に関すること
活動状況等 毎月第2水曜日開催 インシデント・アクシデントを報告・協議した。 医療安全に係る動画を作成し、医療安全大会で発表した。 他部署の事故を防いだ気づきのレポート・他部署に事故を防いでもらった感謝のレポートを推奨し、優秀レポートを表彰した。		

医療安全推進会議		
委員長	開催数	掌握する事項
副院長	52回	医療安全対策に関わる取り組みの評価。タイムリーなインシデント・アクシデントの情報共有に関すること
活動状況等 毎週月曜日開催 インシデント・アクシデント事例の報告、看護、薬剤、検査、医療事務に関する内容の報告と取り組みについて討議をおこなった。		

医療機器管理委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
副院長	1回	MEセンター業務及び医療機器の安全かつ効果的な管理
活動状況等 『ME機器管理システム セルフ貸出登録機能の運用開始について』 『院内使用輸液ポンプメーカー統一に向けての切り替えについて』 上記2点について検討および承認を行った。		

病棟管理委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
関節外科部長	12回	病棟の管理運営に関し必要な事項を定める。
活動状況等 ・月1回開催 ・先月分の実績に基づき、平均在院日数・病床利用率についてや重要度、医療・看護必要度、在宅復帰率、リハビリ単位について等検討したり、病棟の抱えている問題・課題等について話し合いを行った。		

感染対策委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
腎臓内科部長	12回	感染対策に関する事項の調査・審議に関すること
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・月1回開催 ・感染対策マニュアルの作成と改定事項の決定 ・感染防止にかかる施策の提案 ・感染予防にかかる教育に関する報告 ・感染対策に関する方針やコスト面について決定 ・耐性菌や無菌材料から菌の検出状況、各種サーベイランス報告 ・抗菌薬（抗MRSA薬、カルバペネム系薬）の使用や届け出状況の報告 ・インフルエンザアウトブレイク時の方針と対策の決定 ・新型コロナウイルス・その他感染症に関する感染管理についての提案と決定 		

検体検査適正化委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
診療部長（内科系）	4回	検体検査の適正化に関すること
活動状況等 <p>日臨技臨床検査精度管理調査および是正処置について報告 福臨技臨床検査精度管理調査および是正処置について報告 医師会臨床検査精度管理調査および是正処置について報告 その他、検体検査等に係わる報告および協議を行った</p>		

血液製剤管理委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
副院長	6回	輸血用血液製剤の取扱いに関すること
活動状況等 <p>血液製剤の使用量、破棄量の報告 アルブミン/RCC比について報告 輸血後副作用件数についての報告 頻回血小板輸血患者における、「洗浄血小板」の使用についての検討 他</p>		

医療ガス安全委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
麻酔科部長	1回	医療ガス設備の取り扱い、安全維持管理に関すること。
活動状況等 病院内で使用している医療ガス設備（酸素、吸引、笑気、圧縮空気、窒素 等）の保守点検、日常点検について、酸素ボンベ使用時の取り扱い、安全維持管理について話し合いを行う。 医療ガス設備の不具合個所の修繕については計画を立てて委員会で協議する。		

労働安全衛生委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
事務局長	10回	院内衛生上の改善に関すること 職員の健康に関すること（健康診断、保持増進の指導等）
活動状況等 育休、育短、部分休業、病休、退職者等の報告 超過勤務時間について毎月検討し、改善の方策を議論 院内ラウンドを定期的を実施し、各部署の職場環境の点検を実施		

電子カルテ委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
小児科部長	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療情報トータルシステムの整備推進に関すること ・入院患者のカルテ管理に関すること ・病歴管理に関すること
活動状況等 毎月第2月曜日開催 診療報酬改定に伴う電子カルテシステム変更の対応を実施。 利用者の操作ログを調査し、不正な閲覧者がいないか監視。 診療録の記載内容を確認し、記載内容が充足されているか確認。		

クリティカルパス委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
脳神経外科部長	9回	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療の質の適正化に伴う標準的な治療計画の作成に関すること 2 治療計画の説明により、患者の満足度の向上に関すること 3 その他適正な医療プログラム作成に関すること

<p>活動状況等</p> <p>【活動内容】</p> <p>毎月第3水曜日に委員会を開催し、クリティカルパスに関する事項を報告・検討。</p> <p>【活動状況】</p> <p>2022年06月 新人看護職員向けパス研修会を開催（参加者 25名）</p> <p>2023年02月 電子カルテシステムにアウトカムマスターBOMを導入</p>
--

診療材料検討委員会		
<p>委員長</p> <p>小児科部長</p>	<p>開催数</p> <p>10回</p>	<p>掌握する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規採用診療材料に関すること ・診療材料の統合整理に関すること ・その他診療材料に関すること
<p>活動状況等</p> <p>毎月第1木曜日に回開催しており、新規診療材料導入についての審議、費用対効果の高い同種同効品への切り替えを行っている。</p>		

栄養管理委員会		
<p>委員長</p> <p>副院長</p>	<p>開催数</p> <p>12回</p>	<p>掌握する事項</p> <p>給食に係るサービス改善等に関すること</p>
<p>活動状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インシデント・アクシデント報告 ・調理室ラウンド実施、報告 ・食事アンケート調査実施、報告 ・その他栄養管理に関する事項についての報告 		

褥瘡サポート委員会		
<p>委員長</p> <p>皮膚科医師</p>	<p>開催数</p> <p>12回</p>	<p>掌握する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染褥瘡源の調査に関すること ・褥瘡サポートに関すること
<p>活動状況等</p> <p>毎月第4金曜日 16:45～開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月、①褥瘡の発生状況 ②マットの使用状況 ③褥瘡状態の報告を行い、発症患者抑制に向けて多職種と情報を共有し意見交換を行った。 		

栄養サポート委員会		
委員長 診療部長（外科系）	開催数 6回	掌握する事項 栄養サポートに関すること
活動状況等 NST 介入患者について各症例と栄養管理法に関する情報共有・意見交換を行った。		

在宅医療推進委員会		
委員長 腎臓内科医師	開催数 10回	掌握する事項 ・訪問診療の運営に関すること ・訪問看護の運営に関すること
活動状況等 毎月第3火曜日 16:45～開催 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の訪問診療の現状・件数など報告 ・毎月の訪問看護の現状・件数など報告 ・経営や運営等に関する問題について対応協議 ・診療報酬改定に伴う変更点など周知・報告 ・地域の現状や傾向について情報提供・情報共有 		

訪問診療・看護部会		
委員長 腎臓内科医師	開催数 48回	掌握する事項 訪問診療・訪問看護に関すること
活動状況等 毎週水曜日 8:45～開催 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療患者情報の共有 ・新規の訪問診療依頼患者の情報共有と協議 ・訪問看護利用者の情報共有と協議 ・新規の訪問看護依頼患者の情報共有と協議 ・訪問診療・看護の体制作りに対する協議・評価・再協議 ・その他（訪問看護のマニュアルに関する検討など） 		

救急室・外来運営委員会		
委員長 関節外科部長	開催数 10回	掌握する事項 救急室、外来の運営に関すること
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・救急科医不在時の対応について、救急室の運営体制について調整を図った。 ・ドクターヘリについて調整を行った。 ・救急診療マニュアルについて改定を行った。 		

HCU運営委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
消化器外科部長	1回	HCUの円滑・適正な管理運営に関すること
活動状況等 HCU入退室基準の見直しを行い、職員に周知した。 <ul style="list-style-type: none"> ・入退室基準の調整 ・手術後の患者さんの入室について事前予約を行うこと。 		

緩和ケア委員会（チーム会）		
委員長	開催数	掌握する事項
診療部長（外科系）	39回	生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOLを、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげる支援を通して向上させるアプローチを行う。
活動状況等 1.がん拠点診療連携拠点病院取得に向けた取組み 1) 緩和ケア外来を開設 日時：毎週水曜日 15:00～16:30 30分/人（予約制） ※身体は、15:00～16:00（2枠）、精神は、16:00～16:30（1枠） 場所：外科外来 対象者：当院通院中のがん患者さん、その家族。 2) 緩和ケアラウンドを開始 日時：毎週水曜日 16:45～ 栄養指導室集合（事前に患者カンファレンスを実施） 場所：隔週で本館・北館に分けラウンドを行う。 対象者：オピオイド使用中の患者かつチーム依頼があった患者 参加者：身体専門医師、精神専門医師、認定看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士、がん相談員、病棟リンクナース。 実績（令和3年7月～令和4年3月まで） 1) 緩和ケア外来 ：12回実施／受診者数：4人、累計18人 内訳）身体的苦痛の緩和：14人、精神的苦痛の緩和：4人		

詳細) 身体的苦痛の緩和: 疼痛コントロール、治療のドロップアウトフォロー、
疼痛コントロールに伴う単科医師のフォロー

精神的苦痛の緩和: 療養生活における精神的苦痛

- 2) 緩和ケアラウンド: 44回実施/ラウンド患者数 139人、オピオイド使用患者数 146人
苦痛分類による対応者数(延べ数): 身体的苦痛の緩和: 147人
精神的苦痛の緩和: 14人
社会的苦痛の緩和: 2人

緩和ケア介入依頼患者数: 4件/年

3) 緩和ケアの取り組みを普及し、連携し協働できる体制を整える

①緩和ケアマニュアルの改訂

- ・疼痛スケール見直し、麻薬自己管理マニュアル作成
- ・これからの過ごし方について~大切な人と寄り添うために~マニュアル作成

②緩和ケア教育の普及

- ・福井県緩和ケア研修会受講の推奨 講師として参加: 2名、修了者人数: 13名
参加職種と参加数: 医師6名、薬剤師4名、作業療法士1名、理学療法士1名
- ・福井県 ELNEC-J コアカリキュラム 看護師教育プログラム
- ・地域開放学習会 緩和ケア関連 医師・認定看護師が講師になり3回実施
- ・院内緩和ケアチーム主催勉強会 医師・認定看護師、外部講師にて3回実施
各病棟で勉強会依頼があり、緩和ケア認定看護師が講師として各病棟へ出張含む

2.活動状況等

- ・緩和ケアアンケート実施: 5月26日~6月9日 回収 429枚 回収率 92%
- ・緩和ケアチーム会内勉強会を開催
6月~翌年3月まで、毎月1回/名が自分の専門分野の講師になり勉強会を開催
- ・学会・研修会参加
 - 第26回日本緩和医療学会学術大会 3名
 - 第34回日本サイコオンコロジー学会 2名
 - 第31回日本緩和医療学会教育セミナー 4名
 - 第32回日本緩和医療学会教育セミナー 4名
 - 第3回東海・北陸支部学術大会 1名
 - 日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 2名
 - 福井県がん相談支援センター 相談員研修 2名
- ・資格取得
 - 2021年度がん相談支援センター 相談員研修(1)(2) 知識コース 2名
 - 2021年度がん相談支援センター 相談員研修(3) 1名

糖尿病診療委員会		
委員長 内分泌・代謝 内科部長	開催数 9回	掌握する事項 糖尿病診療の充実化を図ること
活動状況等 医師を中心とし、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、管理栄養士など他職種が協力し、糖尿病診療の充実化を目指し活動しています。 委員会のみでなく、学会参加なども行っております。コロナ禍で病棟ラウンド、糖尿病教室は中止しました。		

化学療法委員会		
委員長 消化器外科部 長	開催数 3回	掌握する事項 化学療法に関すること
活動状況等 定例報告として、調製件数、採用プロトコール数、薬剤部への疑義照会件数等について実績報告を行った。新規レジメンは年間で18件の申請がありすべて承認された。 令和4年度のトピックスとしては、抗がん剤のバイオシミラーへの切り替えについて、議論しながら実行した。また、外来化学療法室の移設を実行できた。電子カルテ更新に向け、各診療科と相談しながらレジメンを整理し、新システムへ移行することができた。		

医療器械購入機種選定委員会		
委員長 事業管理者	開催数 5回	掌握する事項 医療機器の選定に関すること
活動状況等 年5回（持ち回り審議含む）開催しており、導入目的、導入時期、費用対効果の有益性等を審議し、次年度導入すべき医療器械について、優先順位を決めている。 医療器械が故障した際には、緊急的に委員会を開催し、修理すべきか購入すべきかを審議している。		

CS・ES委員会		
委員長 循環器内科部 長	開催数 1回	掌握する事項 患者及び職員満足度並びにコミュニケーションの向上に関すること
活動状況等 CS部会及びES部会により1年間活動した内容を全職員に発表するための企画を立て、発表会を実施した		

CS部会		
委員長	開催数	掌握する事項
循環器内科部長	12回	患者サービスの向上に関すること
活動状況等 毎月第2木曜日 開催 3チーム構成（企画提案、接遇、アンケート）で活動 毎日の取り組み ・病院ボランティアへの支援・協力 毎週の取り組み ・ご意見箱回収と改善に向けた取り組み ※毎週木曜日：ご意見箱の意見書を回収し、該当部署へ回答依頼 患者さんからのご意見・各部署からの回答は患者相談室へ報告し、患者サポート 相談会議、医療安全対策委員会で報告する 毎月の取り組み ・院内掲示板ラウンド ・正面玄関置き傘の整理整頓 ・病院ボランティア活動報告 ・ご意見箱に寄せられた意見のフィードバック：メッセージボードへ掲示 ご意見箱に寄せられた意見：65件/年、各部署からの回答率：100% ご意見箱を2か所増設した 各月の取り組み ・6月～7月 七夕企画：七夕飾り、天体写真等の展示 ・9月～2月 職員接遇スタンダードチェック実施 ・9月～11月 秋の芸術作品展 ・10月 患者満足度調査実施 ▶外来患者対象) 10月3日(月)～10月7日(金) ▶入院患者対象) 10月11日(月)～11月4日(金) 集計後、日本機能医療評価機構 患者満足度/職員やりがい度活用支援および 2022年度ベンチマークへ参加 ・10月20日、11月14日、24日 医療接遇研修開催(受付事務対象) 講師：医療安全管理室室長補佐 岡田 貴子先生 ・10月3日～12月2日 医療接遇オンラインセミナー(全国自治体病院協議会主催) ・11月 病院ボランティア健康診断・インフルエンザ予防接種を実施 ・12月 院内クリスマス会開催 クリスマスツリー展示、院内装飾 各部署からメッセージ掲示、院長サンタによる小児科入院児の訪問		

<ul style="list-style-type: none"> ・12月 病院ボランティアさんへ記念品(名前詩)贈呈 ・2月～3月 雛飾り ・3月 「ご意見箱に寄せられた感謝/ご意見からの改善」の掲示と共に、 ～ありがたい気持ちを届けましょう～企画を実施、院内に満開の桜が咲いた <p>その他の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSだよりを年間14部発行（広報関係7件、接遇関係7件） ・病院ボランティアのお手伝い内容について再検討し、院内職員に周知
--

ES 部会		
委員長 小児科部長	開催数 9回	掌握する事項 職員満足度の向上に関する事
活動状況等 毎月第3火曜日に開催 3チーム（福利厚生アンケート、職員確保、業務改善）で構成 福利厚生に関するアンケート調査、ペーパーレス化の推奨、電子カルテ使い方説明会を実施した。		

聴き上手広め隊		
委員長 乳腺外科部長	開催数 12回	掌握する事項 コミュニケーション向上に関する事
活動状況等 イベントグループ ・ワールドカフェの実施 広報グループ ・広報誌の作成及び配布（年2回）		

倫理委員会		
委員長 副院長	開催数 16回	掌握する事項 医療職員の高い資質の高揚及び臨床研究の審査に関する事
活動状況等 臨床研究に係る必要な手続き等を行った。		

臓器移植チーム会		
委員長	開催数	掌握する事項
腎臓内科部長	2回	臓器移植の体制整備と啓発に関すること
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・院内マニュアルの読み合わせ ・リーフレットの配布、院内ポスターの掲示 ・臓器移植推進月間グリーンライトアップの実施 ・医師を対象とした臓器移植研修会への参加 		

薬事委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
診療部長（内科系）	10回	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用薬品に関すること ・採用薬品の統合整理に関すること ・その他薬事に関すること ・院内使用する後発薬剤採用に係る調査検討に関すること
活動状況等 <p>毎月第1月曜日に回開催しており、新規採用医薬品導入についての審議、費用対効果の高い同種同効品への切り替え及び後発医薬品採用率の月次報告を行っている。</p>		

DPC委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
事業管理者	4回	DPCに関すること
活動状況等 <p>DPC/PDPS コーディングテキストを用いて、適切なコーディングに向けた実務的な事例の報告と検討を行った。</p> <p>DPC データを活用し、当院の実績や医療の質の評価などの分析を行った。</p>		

広報委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
泌尿器科部長	12回	広報に係る年次計画の企画立案と情報の発信に関すること 病院フェスタの開催、運営に関すること 市立敦賀病院のホームページの充実、更新に関すること 市民公開講座の開催、運営に関すること

<p>活動状況等</p> <p>(1) 広報誌の発刊 当院広報誌の「きらめき」を年3回発行した。(6月、9月、1月)</p> <p>(2) ホームページの更新 随時各部署の情報更新</p> <p>(3) 市民公開講座の開催</p>

医療の質・経営改善推進室		
<p>委員長 医療の質・経営改善推進室 長</p>	<p>開催数 12回</p>	<p>掌握する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療の質の改善に関すること ・経営状況の情報収集、分析に関すること
<p>活動状況等</p> <p>適時調査の対応を行った。</p> <p>病床機能報告の作成及び報告を実施した。</p>		

認知症サポート部会		
<p>委員長 脳神経外科 部長</p>	<p>開催数 9回</p>	<p>掌握する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアに関すること ・認知症ラウンドに関すること
<p>活動状況等</p> <p>認知症ケア研修会を実施した。</p> <p>認知症ケアマニュアルの改訂を行った。</p> <p>認知症ケア加算1算定に向けた活動を行った。</p>		

臨床研修管理委員会		
<p>委員長 院長</p>	<p>開催数 1回</p>	<p>掌握する事項</p> <p>臨床研修プログラムに関すること</p>
<p>活動状況等</p> <p>臨床研修プログラム修了認定についての報告</p> <p>臨床研修プログラムについての報告</p> <p>臨床研修医予定者についての報告</p>		

心臓リハビリテーション運営委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
循環器内科部長	8回	心臓リハビリテーションの充実化を図ること
活動状況等 関係職種の配置・体制の調整 外来心臓リハビリテーション業務の実績確認 心臓カテーテル業務に関わるスタッフも不定期で実績や情報共有		

医療従事者修学資金貸与審査委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
院長	3回	修学資金貸与の審査に関すること
活動状況等 新規申請者について随時審査を実施。		

診療材料管理業務委託検討委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
小児科部長	1回	診療材料SPD委託の運用に関すること
活動状況等 令和4年度に契約満了となる診療材料SPD委託の運用について、各部署から意見を聞き仕様書に反映した。 院内のレイアウト変更に伴い12カ月の契約延長を行った 他施設におけるSPD契約について調査研究し、業務効率化と委託範囲について検討を行い、仕様書策定を行った。		

医薬品管理業務委託検討委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
診療部長 (内科系)	2回	医薬品SPD委託の運用に関すること
活動状況等 令和4年度に契約満了となる医薬品SPD委託の運用について、各部署から意見を聞き仕様書に反映した。 持ち込み機器の保守期限に合わせて9カ月の契約延長を行った。 他施設におけるSPD契約について調査研究し、業務効率化と委託範囲について検討を行い、仕様書策定を行った。		

地域包括ケア病棟運営委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
院長	14回	地域包括ケア病棟の運営に関すること
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回開催 ・毎月の稼働状況、転入時期、個別の症例の検討をとおして、病棟運営の検証を行う。 		

地域医療連携委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
腎臓内科部長	12回	1. 紹介、逆紹介に関する事 2. 入退院支援に関する事 3. 支援困難ケースに関する事
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第3水曜日に定期開催 ・紹介、逆紹介に関する報告 ・入退院支援に関する実績報告 ・支援困難ケースに関する情報共有・検討 		

がん診療連携拠点病院推進委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
消化器外科部長	9回	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院の指定に必要な企画立案に関すること ・その他拠点病院の指定に関し必要なこと
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院指定に必要な項目についての確認と整備 ・研修部会：院内・院外における研修会の企画、開催等 ・サロン連携部会：がん患者サロンの定期開催等 ・広報部会：ホームページでの広報、広報誌きらめきでの広報等 		

透析センター運営委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
腎臓内科部長	1回	透析業務及び透析センターの管理運営に関すること
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度透析用水水質検査結果、2022年度透析液水質管理計画について報告と検討、承認を行った。 		

医師事務作業補助室運営委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
副院長	10回	医師事務作業補助者に関すること
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助者に関して、人材育成・教育や他職種との協働、業務上の課題等について、報告と検討を行った。 ・各診療科の医師事務による定期的なブロック会の開催を導入した。 		

働き方改革委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
副院長	9回	医師の働き方改革に関すること
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・医師の勤務状況の把握 ・宿日直許可申請の検討、調査、申請 ・自己研鑽労働時間該当性判断基準の作成 ・タスクシフトタスクシェアの検討 ・特例水準に関する検討、手続き等 		

V 業務の概要

1 患者の状況

(1) 入院・外来別患者数

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院	患者数（人）	89,538	89,844	81,881
	対前年度比（%）	92.6	100.3	91.1
	開院日（日）	365	365	365
	一日平均（人）	245.3	246.1	224.3
	病床稼働率（%）	73.9	74.1	67.6
	平均在院日数（日）	16.8	15.1	15.2
外来	患者数（人）	152,630	165,986	157,784
	対前年度比（%）	91.0	108.8	95.1
	開院日（日）	243	242	243
	一日平均（人）	628.1	685.9	649.3
合計	患者数（人）	242,168	255,830	239,665
	対前年度比（%）	91.6	105.6	93.7

※診療報酬の基本診療料の施設基準等の別表第2に規定する入院患者も含む。

(2) 患者数の推移

①入院患者数

	病床数				患者延数（人）	対前年度比（%）	1日平均患者数（人）
	一般	感染	ドック	無菌			
平成26年度	323	2	6	1	94,618	95.2	259.2
平成27年度	323	2	6	1	94,759	100.1	258.9
平成28年度	323	2	6	1	95,693	101.0	262.2
平成29年度	323	2	6	1	97,710	102.1	267.7
平成30年度	323	2	6	1	93,442	95.6	256.0
令和元年度	323	2	6	1	96,742	103.5	264.3
令和2年度	323	2	6	1	89,538	92.6	245.3
令和3年度	323	2	6	1	89,844	100.3	246.1
令和4年度	323	2	6	1	81,881	91.1	224.3

②外来患者数

	患者延数（人）	対前年度比（%）	1日平均患者数（人）
平成26年度	175,061	98.8	717.5
平成27年度	169,961	97.1	699.4
平成28年度	169,454	99.7	697.3
平成29年度	170,464	100.6	698.6
平成30年度	170,696	100.1	699.6
令和元年度	167,654	98.2	698.6
令和2年度	152,630	91.0	628.1
令和3年度	165,986	108.8	685.9
令和4年度	157,784	95.1	649.3

(3) 診療科別患者数

	入院					外来				
	令和2年度(人)	令和3年度(人)	令和4年度(人)	対前年度比(%)		令和2年度(人)	令和3年度(人)	令和4年度(人)	対前年度比(%)	
内科	22,698	22,418	22,142	98.8		40,204	46,067	44,574	96.8	
神経内科	0	0	0	-		1,829	1,682	1,380	82.0	
消化器内科	9,195	9,433	8,590	91.1		6,822	7,230	7,701	106.5	
循環器内科	5,386	5,714	4,686	82.0		11,623	11,620	10,609	91.3	
小児科	1,591	1,860	1,693	91.0		5,624	10,133	10,069	99.4	
外科	14,419	11,868	11,298	95.2		11,079	10,001	7,715	77.1	
乳腺外科	114	1,143	1,216	106.4		358	2,909	3,389	116.5	
整形外科	16,058	16,856	12,985	77.0		16,880	16,881	14,240	84.4	
脳神経外科	9,741	11,234	10,429	92.8		6,559	6,880	7,305	106.2	
皮膚科	993	904	1,085	120.0		8,995	9,109	10,050	110.3	
形成外科	0	0	0	-		496	512	529	103.3	
泌尿器科	5,007	4,127	3,552	86.1		14,960	15,129	14,178	93.7	
産婦人科	3,586	3,489	3,327	95.4		4,721	4,964	4,840	97.5	
眼科	109	139	143	102.9		4,052	4,070	3,781	92.9	
耳鼻いんこう科	486	399	529	132.6		3,143	3,719	3,644	98.0	
放射線科	0	0	0	-		893	1,017	1,073	105.5	
神経科精神科	0	0	0	-		1,707	1,447	1,176	81.3	
麻酔科	0	0	0	-		1,594	1,551	1,218	78.5	
リハビリテーション科	0	0	0	-		4,021	3,580	3,091	86.3	
歯科口腔外科	155	260	206	79.2		7,070	7,485	7,222	96.5	
合計	89,538	89,844	81,881	91.1		152,630	165,986	157,784	95.1	

(4) 市町村別患者数

	令和2年度						令和3年度						令和4年度					
	外来		入院		合計		外来		入院		合計		外来		入院		合計	
	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)
敦賀市	124,593	81.6%	68,333	76.3%	192,926	79.7%	136,336	82.1%	68,211	75.9%	204,547	80.0%	129,030	81.8%	64,286	78.5%	193,316	80.7%
美浜町	14,792	9.7%	11,080	12.4%	25,872	10.7%	15,586	9.4%	9,492	10.6%	25,078	9.8%	15,552	9.9%	9,347	11.4%	24,899	10.4%
若狭町	8,491	5.6%	7,157	8.0%	15,648	6.5%	9,237	5.6%	7,374	8.2%	16,611	6.5%	8,760	5.6%	6,061	7.4%	14,821	6.2%
その他	2,046	1.3%	1,237	1.4%	3,283	1.4%	2,273	1.4%	3,329	3.7%	5,602	2.2%	2,147	1.4%	859	1.0%	3,006	1.3%
県外	2,708	1.8%	1,731	1.9%	4,439	1.8%	2,554	1.5%	1,438	1.6%	3,992	1.6%	2,295	1.5%	1,328	1.6%	3,623	1.5%
合計	152,630	100.0%	89,538	100.0%	242,168	100.0%	165,986	100.0%	89,844	100.0%	255,830	100.0%	157,784	100.0%	81,881	100.0%	239,665	100.0%

県内

(5) 月別患者数

令和4年度

入院

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合 (%)
内科	1,933	1,792	1,589	1,614	1,735	1,724	2,054	1,939	1,921	2,179	1,862	1,800	22,142	60.7	26.9
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
消化器内科	678	564	697	767	861	820	782	694	787	770	525	645	8,590	23.5	10.5
循環器内科	399	382	443	517	416	250	305	345	363	437	383	446	4,686	12.8	5.7
小児科	147	125	187	242	177	142	155	95	74	164	96	89	1,693	4.6	2.1
外科	1,106	987	1,006	1,004	812	650	856	896	974	1,141	855	1,011	11,298	31.0	13.8
乳腺外科	80	68	152	124	125	83	61	88	127	72	128	108	1,216	3.3	1.5
整形外科	1,302	1,348	1,120	1,235	887	893	1,194	1,084	1,081	1,035	901	905	12,985	35.6	15.9
脳神経外科	810	916	938	844	689	710	1,018	862	780	951	863	1,048	10,429	28.6	12.7
皮膚科	105	76	114	74	126	126	97	109	92	51	21	94	1,085	3.0	1.3
形成外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
泌尿器科	318	355	324	448	243	122	287	311	274	226	273	371	3,552	9.7	4.3
産婦人科	220	232	280	323	354	272	253	181	285	269	280	378	3,327	9.1	4.1
眼科	9	12	18	14	4	20	14	10	8	14	6	14	143	0.4	0.2
耳鼻いんこう科	15	39	36	39	70	34	22	53	50	45	43	83	529	1.4	0.6
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
神経科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
歯科	24	22	25	21	15	10	14	16	17	12	14	16	206	0.6	0.2
合計	7,146	6,918	6,929	7,266	6,514	5,856	7,112	6,683	6,833	7,366	6,250	7,008	81,881	224.3	100.0

外来

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合 (%)
内科	4,346	4,061	3,706	4,431	4,226	3,582	3,499	3,485	3,705	3,397	2,786	3,350	44,574	183.4	28.2
神経内科	112	100	154	103	128	118	112	111	121	95	86	140	1,380	5.7	0.9
消化器内科	639	592	750	635	656	664	622	664	734	607	486	652	7,701	31.7	4.9
循環器内科	916	851	1,079	889	876	900	892	847	931	819	737	872	10,609	43.7	6.7
小児科	923	1,016	868	1,276	918	883	902	838	833	555	507	550	10,069	41.4	6.4
外科	603	628	762	609	625	661	672	697	670	565	550	673	7,715	31.7	4.9
乳腺外科	246	293	272	289	289	300	296	310	290	253	234	317	3,389	13.9	2.1
整形外科	1,284	1,260	1,276	1,185	1,145	1,117	1,145	1,243	1,227	1,153	949	1,256	14,240	58.6	9.0
脳神経外科	620	579	634	569	622	595	638	635	658	558	522	675	7,305	30.1	4.6
皮膚科	797	835	895	913	947	908	831	810	889	758	681	786	10,050	41.4	6.4
形成外科	42	39	50	39	68	31	46	55	45	36	28	50	529	2.2	0.3
泌尿器科	1,272	1,150	1,309	1,159	1,285	1,205	1,190	1,165	1,285	1,101	913	1,144	14,178	58.3	9.0
産婦人科	388	395	470	360	374	415	427	407	409	342	338	515	4,840	19.9	3.1
眼科	321	342	348	328	300	326	321	329	310	264	264	328	3,781	15.6	2.4
耳鼻いんこう科	323	259	319	301	325	289	286	336	341	283	257	325	3,644	15.0	2.3
放射線科	99	103	93	99	66	79	94	110	88	69	73	100	1,073	4.4	0.7
神経科精神科	129	139	91	100	103	99	103	87	95	113	46	71	1,176	4.8	0.7
麻酔科	91	106	100	109	109	103	109	89	103	100	93	106	1,218	5.0	0.8
リハビリテーション科	225	274	264	249	301	309	290	259	282	291	155	192	3,091	12.7	2.0
歯科口腔外科	561	612	663	621	622	580	595	636	613	583	469	667	7,222	29.7	4.6
合計	13,937	13,634	14,103	14,264	13,985	13,164	13,070	13,113	13,629	11,942	10,174	12,769	157,784	646.7	100.0

(6) 救急患者の取扱状況
令和2年度

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	222	263	282	308	417	292	266	251	275	270	215	249	3,310
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	5	11	12	8	8	11	6	6	5	9	7	7	95
循環器内科	16	13	17	14	9	20	29	14	13	22	19	11	197
小児科	31	38	42	63	67	53	68	57	38	48	45	45	595
外科	10	34	25	39	27	42	34	26	35	38	32	36	378
整形外科	50	104	117	121	100	121	117	97	111	97	89	89	1,213
脳神経外科	76	64	74	75	58	72	88	76	77	67	65	73	865
皮膚科	18	61	64	87	81	74	60	44	35	39	42	36	641
泌尿器科	8	30	21	22	22	13	24	20	27	31	26	22	266
産婦人科	23	21	33	25	14	21	25	24	33	25	26	24	294
眼科	4	1	2	4	1	4	3	0	3	4	5	3	34
耳鼻いんこう科	9	16	24	25	20	22	13	23	25	24	23	20	244
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	1	0	1	0	2	0	1	0	2	0	0	2	9
救急科	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	1	5
合計	473	656	714	791	826	747	734	638	679	676	594	618	8,146
入院患者数(再掲)	115	139	161	144	147	130	148	110	171	147	135	132	1,679
救急車台数(台)	128	146	170	169	204	176	175	160	201	197	161	157	2,044

令和3年度

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	256	338	304	367	352	305	287	253	302	278	253	269	3,564
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	11	9	17	6	13	3	7	9	17	18	14	4	128
循環器内科	20	18	10	12	7	13	12	9	18	22	11	13	165
小児科	44	67	82	155	108	60	53	60	71	52	62	46	860
外科	39	41	24	31	43	22	36	49	57	36	34	34	446
乳腺外科	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
整形外科	74	122	110	122	111	109	98	155	133	97	89	101	1,321
脳神経外科	65	89	87	93	53	75	89	90	85	91	74	76	967
皮膚科	46	60	68	109	79	73	71	47	52	40	33	42	720
泌尿器科	13	31	21	25	28	25	24	13	30	30	24	18	282
産婦人科	43	42	34	38	25	38	32	38	32	32	19	27	400
眼科	3	2	1	2	1	5	3	3	3	3	1	0	27
耳鼻いんこう科	23	21	22	22	12	14	29	19	26	23	12	22	245
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3
歯科口腔外科	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	6
救急科	0	0	1	3	11	1	5	1	0	0	2	1	25
合計	638	842	781	985	844	743	747	746	829	722	630	655	9,162
入院患者数（再掲）	160	140	156	172	159	149	144	147	158	153	128	126	1,792
救急車台数（台）	153	187	209	210	194	187	182	211	200	203	179	188	2,303

令和4年度

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	281	326	286	343	349	281	281	278	282	286	116	131	3,240
神経内科	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	4
消化器内科	10	7	7	5	6	8	5	2	12	4	13	9	88
循環器内科	12	14	18	10	8	7	10	9	13	17	11	17	146
小児科	71	72	56	101	74	65	108	79	86	63	66	42	883
外科	18	17	29	17	13	32	36	27	28	18	26	15	276
乳腺外科	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1	2	8
整形外科	82	125	89	86	66	68	113	84	91	70	42	55	971
脳神経外科	55	69	61	57	52	61	79	66	65	63	29	43	700
皮膚科	51	75	63	90	86	84	67	43	59	42	21	24	705
泌尿器科	29	29	16	28	24	26	23	21	28	17	13	30	284
産婦人科	11	7	18	12	9	8	6	16	14	9	3	2	115
眼科	4	6	4	3	4	2	2	1	2	0	4	0	32
耳鼻いんこう科	23	25	17	14	11	14	15	20	13	17	11	9	189
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4
救急科	63	53	90	81	54	57	75	59	75	76	151	243	1,077
合計	711	826	754	849	756	713	821	707	773	683	508	623	8,724
入院患者数(再掲)	114	130	125	111	101	122	140	120	155	110	75	69	1,372
救急車台数(台)	183	200	196	205	169	178	213	222	200	178	153	191	2,288

(7) 患者搬送の状況

単位：件

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		周産期医療 関係搬送数		周産期医療 関係搬送数		周産期医療 関係搬送数
市内	5		7		4	
県内	82	4	85	9	75	11
石川県	0		2		2	
愛知県	0		0		1	
滋賀県	0		2		0	
京都府	0		1		1	
大阪府	1		2		3	
兵庫県	1		0		0	
合計	89	4	99	9	86	11

2 人間ドックの状況

単位：件、円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
2年度	1日ドック	14	0	16	18	34	52	48	44	26	34	13	25	324
	2日ドック	1	0	1	1	1	0	0	1	1	4	2	8	20
	脳ドック単独	0	0	0	3	6	2	3	5	5	1	3	3	31
	オプション検査	29	0	64	67	64	50	64	27	40	39	34	67	545
	けんぽ一般	39	0	151	168	141	152	172	124	119	108	157	165	1,496
	けんぽ付加	3	0	5	5	0	7	9	10	3	18	6	7	73
	乳がん	2	0	18	18	6	18	25	19	8	11	11	29	165
	子宮がん	0	0	18	17	8			14	9	12	8	20	106
	子宮がん(20～40歳)	4	0	7	4	3	1	1	1	1	3	3	1	29
	肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	92	0	280	301	263	282	322	245	212	230	237	325	2,789
	金額	1,526,426	0	4,001,664	4,513,863	4,625,672	5,549,741	6,073,640	5,337,886	4,003,879	4,484,245	3,946,855	6,120,125	50,183,996
	3年度	1日ドック	14	28	52	27	33	34	34	33	21	20	22	16
2日ドック		1	1	2	1	3	1	1	2	1	4	5	5	1
脳ドック単独		2	1			9	3	3	4	8	3	8	7	1
オプション検査		26	41	60	40	45	36	38	47	45	80	45	46	41
けんぽ一般		129	129	148	160	153	139	129	137	136	116	121	126	129
けんぽ付加		2	3	0	0	1	2	6	7	1	4	9	9	3
乳がん		10	20	11	18	13	20	20	10	18	5	14	12	20
子宮がん		5	18	10	17	19	19	22	10	19	6	13	12	18
子宮がん(20～40歳)		5	3	3	4	3	1	5	4	3	1	4	2	3
肝炎		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計件数		194	244	286	267	279	255	258	254	252	239	241	235	3,004
金額		3,417,559	4,167,061	6,081,392	4,966,171	5,439,486	4,775,032	5,178,366	4,984,983	4,301,733	4,154,436	4,288,263	3,991,767	55,746,249
4年度		1日ドック	16	35	30	33	42	42	39	34	20	22	24	14
	2日ドック	3	2	2	2	0	0	0	3	4	5	5	4	30
	脳ドック単独	1	2	4	3	7	1	4	1	3	8	0	8	42
	オプション検査	28	68	51	59	69	44	45	58	80	45	45	50	642
	けんぽ一般	90	132	173	147	136	159	152	125	114	121	139	128	1,616
	けんぽ付加	4	5	6	1	3	6	8	4	4	9	6	6	62
	乳がん	9	15	19	14	12	15	16	19	9	14	14	17	173
	子宮がん	9	15	20	11	14	13	19	17	3	13	13	12	159
	子宮がん(20～40歳)	1	2	6	2	2	1	1	2	14	4	4	1	39
	肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	161	276	311	272	285	281	283	263	251	241	250	240	3,114
	金額	3,239,405	4,780,035	5,359,726	4,737,405	5,055,423	5,610,187	5,341,302	4,501,938	4,154,436	4,288,263	4,718,762	3,911,584	55,698,466

3 中央手術室業務の状況

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
内 科	34	30	21
神 経 内 科			
消 化 器 内 科			
循 環 器 内 科			
小 児 科	0	0	0
外 科	550	568	407
整 形 外 科	381	352	356
脳 神 経 外 科	44	62	70
皮 膚 科	9	52	65
泌 尿 器 科	290	244	147
産 婦 人 科	98	93	116
眼 科	58	72	71
耳 鼻 い ん こ う 科	13	5	42
放 射 線 科	0	0	0
神 経 科 精 神 科	0	0	0
麻 酔 科	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0
歯 科 口 腔 外 科	51	87	83
合 計	1,588	1,565	1,378

4 種類別麻酔件数

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
全 身 麻 酔	810	853	753
腰 椎 麻 酔 ・ 硬 膜 外 麻 酔	348	279	237
局 所 麻 酔	386	394	366
そ の 他	40	39	22
合 計	1,584	1,565	1,378

5 内視鏡検査件数

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
食 道 ・ 胃 ・ 十 二 指 腸	3,335	3,632	3,443
膵 ・ 胆 道	166	178	147
大 腸	1,011	1,054	935
気 管 支	109	110	90
合 計	4,621	4,974	4,615

6 周産期医療の状況

(1) 月別出産等の状況

令和2年度

単位：件

()内休日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
経膈分娩	16(7)	19(6)	17(5)	17(3)	15(4)	16(4)	18(5)	14(5)	17(8)	20(8)	11(7)	17(5)	197(67)
帝王切開	9(0)	3(0)	8(1)	5(1)	2(0)	7(1)	4(0)	1(0)	5(0)	5(0)	7(2)	5(0)	61(5)
計	25(7)	22(6)	25(6)	22(4)	17(4)	23(5)	22(5)	15(5)	22(8)	25(8)	18(9)	22(5)	258(72)

令和3年度

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
経膈分娩	28(11)	15(8)	29(4)	20(5)	16(11)	16(4)	24(6)	15(4)	22(3)	23(11)	14(3)	15(2)	237(72)
帝王切開	3(1)	6(1)	5(0)	3(0)	5(2)	3(1)	4(1)	4(1)	3(0)	4(1)	0(0)	5(0)	45(8)
計	31(12)	21(9)	34(4)	23(5)	21(13)	19(5)	28(7)	19(5)	25(3)	27(12)	14(3)	20(2)	282(80)

令和4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	経膈分娩	10(2)	13(3)	18(7)	15(4)	18(5)	20(10)	18(3)	15(5)	10(3)	17(6)	11(2)	177(52)
	帝王切開	5(0)	7(0)	4(1)	6(1)	7(0)	6(1)	3(0)	4(0)	1(1)	4(1)	6(0)	59(6)
	計	15(2)	20(3)	22(8)	21(5)	25(5)	26(11)	21(3)	19(5)	11(4)	21(7)	17(3)	236(58)
深夜等	経膈分娩	2(0)	1(0)	8(2)	3(0)	4(1)	9(3)	9(0)	7(2)	4(1)	10(3)	4(2)	65(15)
	帝王切開	1(0)	5(0)	0(0)	1(1)	2(0)	1(1)	0(0)	2(0)	0(0)	1(0)	2(1)	16(3)
	計	3(0)	5(0)	8(2)	4(1)	6(1)	10(4)	0(0)	9(2)	4(1)	11(3)	6(3)	71(18)

時間内：平日 8:30～17:00

時間外：平日 6:00～ 8:30、17:00～22:00

深夜等：平日22:00～ 6:00、土曜日、日曜日、祝日

(2) 助産師外来の状況 (延件数)

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
令和3年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和4年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 母乳育児外来の状況 (延件数)

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	39	43	61	59	43	38	51	57	44	39	13	39	526
令和3年度	44	42	33	46	27	29	35	56	37	28	22	37	436
令和4年度	37	39	38	39	29	33	33	46	18	28	25	42	407

(4) 新生児聴覚検査実施状況 (延件数)

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	24	21	25	22	17	22	22	15	22	25	17	20	252
令和3年度	31	21	34	23	21	19	29	18	25	27	13	20	281
令和4年度	37	20	21	21	25	26	21	19	9	21	17	18	255

7 薬剤室業務の状況

(1) 調剤業務の状況

単位：件

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
調 剤 数	外 来	9,018	10,512	11,553
	入 院	87,990	90,001	81,227
	合 計	97,008	100,513	92,780
処 方 箋 枚 数	外 来	3,710	4,525	5,279
	入 院	27,327	27,788	27,075
	合 計	31,037	32,313	32,354

(2) 服薬指導の状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
服薬指導患者数（1入院1名）	960	888	1,314
服薬指導延回数（算定件数）	1,812	1,614	2,614

(3) 注射剤調製の状況

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
外 来 注 射（化 学 療 法）	1,625	1,785	1,432
外来注射（レミケード注他抗リウマチ薬）	110	100	64
入 院 注 射（化 学 療 法）	406	519	497
入院注射（レミケード注他抗リウマチ薬）	8	1	5

(4) 後発医薬品採用率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
採 用 率（%）	23.4	24.9	27.2
当院採用の後発医薬品数	312	333	363
当院採用の全医薬品数	1,331	1,336	1,334

採用率（%）＝当院採用の後発医薬品数／当院採用の全医薬品数

8 人工透析の状況

単位：人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
多 人 数 用 装 置	13,541	13,196	13,436
単 身 用 装 置	380	232	232
合 計	13,921	13,428	13,668

令和4年度末現在

患者数（定期） 90人

多人数用装置設置台数 22台（透析センター）

単身用装置設置台数 3台（透析センター1台、MEセンター 1台、HCU 1台）

アフェレシスマニタ 3台（MEセンター 2台、HCU 1台）

9 放射線科（室）の状況

（1）撮影の状況

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般撮影	31,022	33,075	30,190
尿路撮影（DIP）	0	1	0
透視撮影	1,121	1,072	939
血管造影撮影	572	559	336
CT（2台）	13,513	14,782	13,372
MRI（1台）	3,651	3,796	3,610
超音波診断	4,914	5,461	5,479
RI	581	534	571
放射線治療	588	769	913
骨密度	940	1,069	832
マンモグラフィ	1,665	1,993	1,911
合計	58,567	63,111	58,153

（2）紹介患者の取り組み

単位：件

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
紹介患者データ取り込み	3,186	3,677	3,447
当院データコピー	2,348	2,737	2,612
合計	5,534	6,414	6,059

（3）血管撮影検査の状況

単位：件

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
脳神経外科	87	94	53
循環器科	295	333	205
放射線科	133	102	76
その他の診療科	57	30	2
合計	572	559	336

（4）MRI検査の状況

単位：件

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
院内件数	3,333	3,472	3,289
院外件数	318	324	321
合計	3,651	3,796	3,610
頭頸部・脊椎件数	2,633	2,811	2,414
体部・他件数	1,018	985	1,196
合計	3,651	3,796	3,610

（5）CT検査の状況(令和2年度より320列CTの件数をCT①としています)

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
MDC T（CT室①）	8,319	8,900	8,536
MDC T（CT室②）	5,197	5,972	4,836
合計	13,516	14,872	13,372
院外件数	360	421	386
合計	13,513	14,872	13,372

(6) 核医学検査の状況

単位：件

		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
脳神経系	脳血流	139	151	147	169	177	199
	脳血流（負荷）	2		0		1	
	脳	10		22		21	
	脳槽	0		0		0	
	シャントフロー	0		0		0	
循環器系	心筋血流（同期）	0	179	1	150	2	144
	心筋脂肪酸代謝	1		0		5	
	心筋交感神経	30		31		23	
	急性心筋梗塞	2		5		0	
	代謝＋血流同時	50		18		12	
	負荷心筋（運動）	5		4		1	
	負荷心筋（薬剤）	90		91		101	
	心プール	0		0		0	
	四肢血流（上肢）	0		0		0	
	四肢血流（下肢）	1		0		0	
	静脈血栓	0		0		0	
	循環血漿流量	0		0		0	
呼吸器系	肺血流	1	2	1	2	0	0
	肺換気	1		1		0	
	静脈血栓	0		0		0	
消化器系	肝	0	3	0	0	0	3
	胆道	0		0		0	
	唾液腺	0		0		1	
	メッケル憩室	0		0		1	
	蛋白漏出試験	2		0		0	
	異所性胃粘膜	2		0		1	
	胃排泄能試験	0		0		0	
	門脈循環短絡	0		0		0	
消化管出血	3	3	0				
内分泌系	甲状腺	3	7	6	8	12	17
	副甲状腺	4		2		5	
腎尿路系	レノグラム	19	30	3	16	2	9
	レノグラム（負荷）	6		12		2	
	腎	4		1		3	
	副腎	1		0		2	
	精巣	0		0		0	
全身検索系	骨	179	206	166	190	177	199
	腫瘍・炎症	26		23		21	
	骨髄	1		0		0	
	リンパ節	0		1		1	
	筋血流	0		0		0	
合計		582		535		571	

(7) 放射線治療の状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
新患数（人）	26	28	38
延治療件数（件）	576	588	913

(8) マンモグラフィーの状況

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ドック	303	391	407
外科	711	984	972
検診	651	618	532
合計	1,665	1,993	1,911

(9) 骨密度検査の状況

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延件数	940	1,069	832

(10) エコー検査の状況

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
頸部	478	602	725
頸部血管	466	473	342
乳腺	1,169	1,280	1,239
腹部	2,288	2,382	2,489
その他 (四肢/生検/血管等)	513	724	684
合計	4,914	5,461	5,479

(11) 透視検査の状況

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ドッグ、健診外科胃透視	208	260	273
外科系	348	174	164
内科系(消化器科)	201	222	178
内科系(呼吸器科)	96	112	108
胸部、IVH挿入	2	17	14
腎尿路系	57	116	138
整形領域	23	34	34
その他	186	137	30
合計	1,121	1,072	939

(12) 血管造影の状況

単位：件

循環器内科 (3) 血管撮影検査の状況とは件数が異なります

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
冠動脈造影	215	242	128
冠動脈ステント留置術	91	88	63
心筋灼熱術	0	0	0
下肢動脈	7	7	5
体外式ペースメーカー	10	18	9
その他	7	0	0
合計	330	355	205

脳神経外科

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
頭部血管造影	59	62	33
経皮的脳血管内手術 (脳動脈瘤)	11	17	9
経皮的脳血管内手術 (脳腫瘍)	2	0	0
経皮的脳血管内手術 (脳動静脈奇形)	3	4	1
経皮的血栓回収術	6	6	7
頸動脈ステント留置術	6	5	3
合計	87	94	53

放射線科

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
肝動脈塞栓術	70	54	24
経皮的肝胆管 ステント挿入術	13	6	1
経皮的胆管 ドレナージ術	22	11	10
経皮的肝膿瘍 ドレナージ術	12	7	2
シャント拡張術	13	21	33
その他	3	3	6
合計	133	102	76

10 臨床検査の状況

(1) 各種検査件数

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
病 理 検 査	5,461	5,653	5,588
細 菌 検 査	8,104	11,012	12,950
生 化 学 ・ 免 疫 検 査	68,504	70,286	69,395
血 液 検 査	63,150	65,268	62,361
一 般 検 査 (検 尿 ・ 検 便)	42,844	45,374	43,698
そ の 他 (院 内 検 査)	46,795	55,411	58,447
輸 血 検 査	3,020	2,800	3,097
生 理 学 的 検 査	26,843	28,463	26,005
そ の 他 (外 部 委 託 検 査)	13,038	13,369	12,390
合 計	277,759	297,636	293,931

(2) 生理機能検査件数

単位：件

単位：件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
12 誘 導 心 電 図 検 査	12,021	11,922	11,483
3 分 間 心 電 図	138	199	94
マ ス タ ー 負 荷 心 電 図	322	499	331
ト レ ッ ド ミ ル 検 査	4	5	8
ホ ル タ ー 心 電 図	253	260	216
心 臓 超 音 波	3,381	3,701	3,024
そ の 他 循 環 器 領 域 超 音 波 検 査	98	114	72
経 食 道 心 臓 超 音 波	3	16	8
脳 波 検 査	152	159	137
神 経 伝 導 検 査	186	186	159
聴 性 脳 幹 反 応	13	20	10
ス パ イ ロ メ ト リ ー	1,598	1,575	1,443
可 逆 性 試 験	132	132	77
精 密 肺 機 能 検 査	110	143	72
ABI/PWV	610	618	449
CVR-R	64	76	57
心 臓 カ テ ー テ ル	303	332	203
OD テ ス ト	78	106	152
終 夜 睡 眠 ポ リ グ ラ フ ィ (簡 易)	28	42	33
終 夜 睡 眠 ポ リ グ ラ フ ィ	21	22	11
聴 力 (検 査 室 で 施 行)	2,283	2,243	2,333
耳 鼻 咽 喉 科 依 頼 聴 力 検 査	817	1,012	694
自 動 ABR (新 生 児 聴 力 検 査)	228	260	210
残 尿 超 音 波 検 査	3,731	4,553	4,454
尿 素 呼 気 試 験 (UBT)	141	125	135
小 腸 通 過 性 試 験 (バ テ ン シ ー)	5	0	2
カ プ セ ル 内 視 鏡	5	7	5
そ の 他 生 理 機 能 検 査	102	136	133
合 計	26,827	28,463	26,005

(3) 血液製剤使用量（単位数）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
赤血球	1,846	1,522	1,782
血小板	1,610	1,000	2,150
新鮮凍結血漿	282	118	134
自己血	4	4	0
アルブミン	3,175	3,029	5,804
合計	6,917	5,673	9,870

11 リハビリテーションの状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
理学療法【単位】	52,643	51,579	52,551
作業療法【単位】	28,001	34,017	28,249
言語聴覚療法【単位】	10,325	10,180	10,819
摂食機能療法（30分未満）【件数】	656	295	683
摂食機能療法（30分以上）【件数】	1,876	1,626	2,970
合計	93,501	97,697	95,272

1 2 患者給食及び栄養指導の状況

単位：食

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般食	100,692	106,287	99,556
特別食	104,258	97,601	82,928
特別食割合	51.1%	50.9%	47.9%
経管栄養食	7,020	7,701	8,973
合計	211,970	211,589	191,457

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
栄養指導 (件)	入院指導	540	1,138	708
	外来指導	175	249	328
	集団指導	0	0	0
	N S T	315	486	136
	合計	1,030	1,873	1,172

1 3 死亡患者数及び病理解剖件数

	死亡患者数 (人)			病理解剖件数 (件)			病理解剖検査率 (%)		
		男	女		男	女		男	女
平成21年度	252	156	96	12	9	3	4.8	5.8	3.1
平成22年度	226	142	84	10	8	2	4.4	5.6	2.4
平成23年度	212	118	94	4	2	2	1.9	1.7	2.1
平成24年度	222	129	93	10	4	6	4.5	3.1	6.5
平成25年度	204	126	78	4	3	1	2.0	2.4	1.3
平成26年度	236	145	91	12	6	6	5.1	4.1	6.6
平成27年度	292	173	119	3	2	1	1.0	1.2	0.8
平成28年度	285	163	122	11	8	3	3.9	4.9	2.5
平成29年度	300	178	122	2	2	0	0.7	1.1	0.0
平成30年度	270	175	95	10	9	1	3.7	5.1	1.1
令和元年度	301	185	116	10	9	1	3.3	4.9	0.9
令和2年度	333	201	132	7	5	2	2.1	2.5	1.5
令和3年度	337	196	141	5	4	1	1.5	2.0	0.7
令和4年度	326	195	131	7	5	2	2.1	2.6	1.5

14 患者相談の状況

(1) 相談受付状況

単位:件

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
患者相談室 相談件数	359	395	381
社会福祉士 面談	3121	2948	3008

(2) ご意見及び要望の状況

単位:件

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ご意見・要望件数	96	97	84

※R2まで「苦情」と表記していたがR3より「ご意見」へ変更

(3) 患者相談内容別件数

単位:件

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①診療に関すること	212	190	179
②療養生活に関すること	54	62	47
③職員の対応に関すること	15	63	36
④医療費に関すること	4	10	11
⑤設備・システムに関すること	10	13	18
⑥制度について	26	24	33
⑦その他	38	33	57
合計	359	395	381

(4) 入院説明・案内の状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院説明をした患者数(人)	4,574	4,181	3,812
全入院に対する割合(%)	90.6	75.4	78.9
病棟案内をした患者数(人)	1,746	1,808	1,669
全入院に対する割合(%)	34.6	32.6	34.5

(5) ボランティア活動状況

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
活動延べ人数(人)	393	463	420
活動日数(日)	175	237	226

令和4年度

- ・活動人数 12名
- ・活動時間 午前8時～午後12時
- ・活動場所 市立敦賀病院1階受付フロアー

<活動内容>

- ・新規患者受付の案内
- ・再診受付機の案内
- ・自動精算機の案内
- ・再診受付機・自動精算機の除菌清掃
- ・子ども連れの方への受診の手伝い
- ・車椅子の整備(空気入れ等)
- ・各科外来、検査室への案内(歩行可能な患者さん対象)
- ・正面玄関フロア、病院前バス停の清掃
- ・エレベータ昇降時の見守り、案内
- ・入院時の病棟への案内

15 地域医療連携の状況

(1) 紹介及び逆紹介の状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
全診療情報提供書受理数	5,677	6,777	6,483
紹介患者(初診) A	3,001	3,560	3,515
初診料算定患者 B	11,272	15,387	16,820
救急車搬送患者(初診のみ) C	1,090	1,192	1,183
外来時間外患者(初診のみ) D	3,058	3,483	3,590
逆紹介数(診療情報料算定) E	4,781	5,290	5,244
紹介率(%) ※1	42.1	33.2	29.2
逆紹介率(%) ※2	67.1	49.4	43.5

※1 紹介率(%) = $[A / \{B - (C + D)\}] * 100$

※2 逆紹介率(%) = $[E / \{B - (C + D)\}] * 100$

(2) 開放型病床 (20床) の状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用医師数(実人数)	202(24)	189(25)	182(27)
利用患者数(実人数)	6844(502)	6653(507)	6,412
利用率(%)(*3)	93.8	91.1	87.9

(*3) 利用率= ((開放型病床利用延べ入院患者数) / (開放型病床数×365日))

(3) 地域包括ケア病棟の状況

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
地域包括ケア病棟(71床)	延日数(日)	21,094		
	利用率	82.5%		

(4) 退院支援の状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
退院支援介入人数(年間)	1,733	1,699	1,341
退院支援人数(月平均)	270	268	238
退院支援算定数	481	387	425
退院前カンファレンス(回)	404	466	358

(5) 地域連携パスの状況

単位:人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
大腿頸部骨骨折連携パス	0	0	0
脳卒中地域連携パス	26	10	8
急性心筋梗塞・狭心症連携パス	0	0	2

(6) ふくいメディカルネット運用件数

単位:件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
二州地区閲覧病院	206(41)	153(21)	107(6)
その他地区閲覧病院	3(0)	4(0)	1(0)
開示病院	282(124)	315(118)	286(127)
合計	491(165)	472(139)	394(133)

()は当院の同意取得件数

1.6 医療安全の状況

(1) インシデント・アクシデントレポートの提出状況

単位:枚

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ドレーン・チューブ	121	120	134
医療機器等	42	73	78
検査	309	359	326
治療・処置	74	165	135
転倒・転落	226	229	173
薬剤	676	839	926
輸血	18	13	7
療養上の世話	230	419	365
その他	360	411	496
合計	2,056	2,628	2,640

17 院内がん登録の状況（令和4年1月～12月）

（1）部位別院内がん登録状況

単位：件

部位	総数	治療開始後	初発	性別		治療前・ステージ別					治療の有無					
				男	女	I	II	III	IV	その他	該当せず	治療終了後	外科的	体腔的	内視鏡的	
全部位	501	59	442	286	215	39	125	61	55	111	25	26	59	87	29	53
口唇・咽頭	5	1	4	2	3	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	0
食道	9	0	9	8	1	1	2	1	1	4	0	0	0	0	0	1
胃	51	4	47	37	14	0	22	1	8	13	3	0	4	6	4	16
結腸	50	5	45	26	24	6	5	9	12	10	3	0	5	6	17	10
直腸・肛門	24	4	20	16	8	2	4	1	4	6	3	0	4	1	6	5
肝臓	16	5	11	12	4	0	3	2	2	4	0	0	5	0	0	0
胆嚢・胆管	13	1	12	8	5	0	3	0	4	4	1	0	1	0	1	0
膵臓	23	2	21	14	9	0	2	1	1	17	0	0	2	0	0	0
鼻腔・中耳・副鼻腔	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
喉頭	2	0	2	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
肺・気管支	58	7	51	42	16	0	13	5	8	25	0	0	7	0	0	0
骨・軟部組織	2	0	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚	16	1	15	4	12	2	9	2	0	0	2	0	1	12	0	0
乳房	80	11	69	1	79	10	23	30	3	1	2	0	11	54	0	0
子宮頸部	8	1	7	0	8	4	0	0	1	0	2	0	1	3	0	0
子宮体部	5	1	4	0	5	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0
卵巣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前立腺	50	6	44	50	0	0	21	5	3	14	1	0	6	0	0	0
腎	7	2	5	6	1	0	2	0	1	2	0	0	2	0	1	0
腎盂・尿管	4	0	4	3	1	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0
膀胱	28	3	25	23	5	14	5	1	2	2	1	0	3	0	0	20
脳神経	11	0	11	4	7	0	0	0	0	0	0	11	0	1	0	0
甲狀腺	7	3	4	2	5	0	2	0	1	0	1	0	3	1	0	0
リンパ腫・骨髄腫	11	1	10	8	3	0	2	0	2	3	0	3	1	0	0	0
白血病	3	0	3	2	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
骨髄増殖性疾患	8	0	8	7	1	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0
原発部位不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	9	1	8	8	1	0	3	1	1	2	1	0	1	2	0	1

※院内がん登録は、当院初発がん患者を対象としており、性別、入院の有無、ステージ別及び治療の有無については、初発がん患者の内訳となっている。

(2) 経緯別院内がん登録の状況

単位：件

来院経路	登録数
自 主 的 受 診	117
他 施 設 か ら の 紹 介	239
自施設での他疾患経過観察中	145
そ の 他	0
不 明	0
合 計	501

発見経緯	登録数
がん検診・健康診断・人間ドック	53
他疾患の経過観察中の偶然発見	196
剖 検 発 見 (A i を 含 む)	0
そ の 他	213
不 明	39
合 計	501

症例区分	登録数
診 断 の み	81
自施設診断・自施設初回治療開始	303
自施設診断・自施設初回治療継続	1
他施設診断・自施設初回治療開始	44
他施設診断・自施設初回治療継続	7
初 回 治 療 終 了 後	59
そ の 他	6
合 計	501

1 8 COVID対応（令和2年～令和5年）

COVID-19入院実績（令和2年4月～令和5年3月）

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和2年度	7	2	3	6	6	0	2	3	4	9	5	2	49
令和3年度	16	10	6	16	47	23	6	0	0	21	23	25	193
令和4年度	19	16	3	23	57	16	9	55	36	48	7	1	290
												総数	532

発熱外来実績（令和2年11月～令和5年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和2年度								33	44	50	54	56	237
令和3年度	168	112	88	192	253	131	94	101	82	194	128	212	1,755
令和4年度	232	224	166	387	460	274	277	289	267	159	159	125	3,019
												総数	5,011

PCRドライブスルー（行政検査）実績（令和2年8月～令和5年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和2年度					10	8	18	86	68	103	230	48	571
令和3年度	330	79	33	249	817	223	90	31	0	740	1040	836	4,468
令和4年度	268	447	128	561	15	3	0	0	0	0	0	0	1,422
												総数	6,461

オンライン面会実績（令和2年6月～令和5年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和2年度			30	17	22	24	27	29	20	39	24	32	264
令和3年度	34	14	27	19	26	45	31	42	0	15	22	47	322
令和4年度	56	47	39	32	30	34	35	36	41	29	31	10	420
												総数	1,006

新型コロナウイルスワクチン接種実績（令和3年3月～R5年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和2年度												420	420
令和3年度	1016	888	1644	2351	1986	2353	1836	651	929	576	1173	1585	16,988
令和4年度	993	197	230	723	1019	824	475	1063	1339	314	69	44	7,290
												総数	24,698

VI D P Cの概要

1 D P C係数の状況

(令和5年4月時点)

係数	内訳	係数	
機能評価係数I	急性期一般入院料 4	0.0218	
	診療録管理体制加算	0.0031	
	医師事務作業補助体制加算 1 (15 : 1)	0.0365	
	急性期看護補助体制加算 (25 : 1) 5割以上	0.0610	
	看護職員夜間配置加算 (16 : 1)	0.0178	
	医療安全対策加算 1	0.0030	
	医療安全対策地域連携加算 1	0.0017	
	感染対策向上加算 (1 感染対策向上加算 1)	0.0247	
	感染対策向上加算 (1 指導強化加算)	0.0010	
	後発医薬品使用体制加算 (2 後発医薬品使用体制加算 2)	0.0013	
	検体検査管理加算IV	0.0130	
	データ提出加算 2	0.0052	
	地域医療体制確保加算	0.0216	
		小計	0.2117
機能評価係数II	保険診療係数	0.01762	
	効率性係数	0.01864	
	複雑性係数	0.01289	
	カバー率係数	0.01274	
	地域医療係数		0.03003
		体制評価係数	0.01015
		定量評価係数 (小児)	0.00909
		定量評価係数 (小児以外)	0.01079
	救急医療係数		0.01443
		小計	0.1063
基礎係数	D P C 標準病院群	1.0395	
医療機関別係数		1.3575	

VII 研究業績

1 診療部

内科

(論文)

1. Bronchiolitis Obliterans Syndrome after Hematopoietic Stem Cell Transplant Diagnosed Using Ultrathin Bronchoscopy.
Sato M, Waseda Y, Sonoda T, Tanizawa A, Itoh H, Kobayashi M, Takemura T, Ishizuka T.
Am J Respir Crit Care Med. 2022 Jul 1;206(1):e1-e3.
2. Successful treatment with lenvatinib in a patient with thymic carcinoma presenting with cardiac tamponade: a case report and review of literature.
Nakashima K, Azuma T, Ohta R, Fujii Y, Sato M, Igarashi K, Kadowaki M, Umeda Y, Waseda Y, Anzai M, Kobayashi M, Ishizuka T.
Anticancer Drugs. 2022 Sep 1;33(8):761-764.

(学会発表)

1. 進行非小細胞肺癌患者に対する PD-1 抗体治療における ¹⁸F-FLT PET を用いた早期治療効果予測
佐藤譲之、梅田幸寛、島田昭和、園田智明、森川美羽、安斎正樹、早稲田優子、門脇麻衣子、辻川哲也、岡沢秀彦、石塚全
第 62 回日本呼吸器学会学術講演会

腎臓内科

(学会発表)

1. RPGN に対する免疫抑制下で、診断後 1 年以内に発生し急速な経過をたどった小細胞肺癌の一例
松田 優治, 小林 元夫, 清水 和朗
第 52 回 (令和 4 年度) 日本腎臓学会西部学術大会 2022 年 10 月 熊本
2. MPO-ANCA 陽性急速進行性糸球体腎炎治療中にマラコプラキアを発症した 1 例
谷 圭馬, 松田 優治, 小林 元夫, 清水 和朗, 五十嵐 一誠, 高橋 秀房, 太田 肇, 原田 憲一
第 248 回日本内科学会北陸地方会 2022 年 9 月 富山

内分泌代謝内科

(論文)

- 1, Satoru Tsunemine, Hiromi Nakagawa, Yutaka Suzuki, Yota Murakami
The chromatin remodeler RSC prevents ectopic CENP-A propagation into pericentromeric heterochromatin at the chromatin boundary. *Nucleic Acids Res.* 2022 Oct 28; 50(19): 10914-10928

(学会発表)

- 1, ペムブロリズマブ投与中に発症した GAD 抗体陽性劇症 1 型糖尿病の 1 例
大野 幸太、横山 拓也、林 萌乃果、嶋田 彩保子、中川 浩実
第 96 回 日本糖尿病学会中部地方会, 2022 年 11 月, 富山市

消化器内科

(学会発表)

- 1, 退形成性膵癌の一例
大野幸太、清水吉晃、川根太郎、熊井達男、
原田憲一、太田肇、米島學
第 133 回消化器病学会北陸支部例会, 2022 年 6 月, 福井県
- 2, 肺癌術後副腎転移再発に対し強度変調放射線治療 (IMRT) を施行し、経過観察中に発熱を契機として診断された転移性小腸腫瘍の一例
堀内裕介、熊井達男、川根太郎、清水吉晃、
原田憲一、太田肇、米島學
第 247 回内科学会北陸支部例会, 2026 年 6 月, 石川県
- 3, 胆管ステント逸脱乳頭貫通の 1 例
大森優樹、清水吉晃、川根太郎、熊井達男、原田憲一、太田肇
第 118 回消化器内視鏡学会北陸支部例会, 2022 年 6 月, 福井県
- 4, 膵頭部脂肪置換を背景に生じた進行膵体部癌の 1 例
大森優樹、清水吉晃、川根太郎、熊井達男、原田憲一、太田肇
第 134 回消化器病学会北陸支部例会, 2022 年 10 月, 石川県
- 5, 大腸イレウスを契機に診断された進行胃癌の 1 例
川根太郎、清水吉晃、熊井達男、林泰生、原田憲一、太田肇
第 119 回消化器内視鏡学会北陸支部例会, 2021 年 11 月, 石川県

循環器内科

(学会発表)

- 1, 急性冠症候群における脂質管理状況について
岡部佳孝 深川浩史 三田村 康仁
日本循環器学会 第 160 回東海・第 145 回北陸合同地方会, 202 年月, 金沢市
- 2, Decreased renal MIBG washout rate is predictive of warse prognosis in cardiac disease
Yosihitaka Okabe, Hirofumi Fukagawa, Yasuhito Mitamura
第 87 回日本循環器学会, 2023 年 3 月, 福岡

小児科

(学会発表)

- 1, 弟の発達遅延を契機に診断された Aicardi-Goutieres 症候群 (AGS) の兄弟例
福岡 諒、安藤 徹、萩原悠紀、田村知史 福井大学小児科 安富素子
第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2022 年 6 月, 福井
- 2, Multisystem Inflammatory Syndrome in Children (MIS-C) との鑑別を要した川崎病
ショック症候群 (KDSS) の 1 例
福井大学小児科 中野優也、山田健太、鈴木孝二、安富素子、大嶋勇成 市立敦賀
病院小児科 田村知史 杉田玄白記念公立小浜病院 佐野正太郎、原 慶和
第 337 回日本小児科学会北陸地方会、2023 年 3 月, 富山

外科

(学会発表)

- 1, 乳房擬似ファントムを使用した圧迫圧の違いによる圧力分布から画質向上への検討
山田起三子
第 122 回日本外科学会定期学術集会, 2022 年 4 月, 熊本
- 2, 切除不能大腸癌に対する FTD/TPI+Bevacizumab 療法の検討
眞柄里衣
第 84 回日本臨床外科学会総会, 2022 年 4 月, 福岡
- 3, 切除不能大腸癌に対する FTD/TPI+Bevacizumab 療法の検討
眞柄里衣
第 133 回日本消化器病学会北陸支部例会, 2022 年 6 月 福井

乳腺外科

(学会発表)

- 1, 乳房全摘における一次縫合創への局所陰圧閉鎖療法の有効性
市立敦賀病院乳腺外科 横井 繁周、矢尾 祥子、福井大学第一外科 前田 浩幸、
五井 孝憲
第 47 回日本外科系連合学会, 2022 年 6 月, 岩手
- 2, GLS (global longitudinal strain) 計測の実用性の検討
市立敦賀病院乳腺外科 矢尾 祥子、横井 繁周、医療技術部検査室 坊 直美、河野 裕
樹、外科 上藤 聖子 福井大学第一外科 前田 浩幸、五井 孝憲
第 40 回日本乳癌学会, 2022 年 6 月, 神奈川
- 3, Pembrolizumab が有効だった Triple Negative 乳癌脳転移の 1 例
Yoshitaka Aoki, Noriko Seishima, Harue Mizokami, Eiji Kobayashi,
市立敦賀病院乳腺外科 横井 繁周、矢尾 祥子、 福井大学第一外科 前田 浩幸、五
井 孝憲
第 19 回日本乳癌学会中部地方会, 2022 年 9 月, 愛知
- 4, 治療方針の決定に苦慮した腺筋上皮腫の 1 例
市立敦賀病院乳腺外科 矢尾 祥子、横井 繁周 福井大学第一外科 前田 浩幸、五井
孝憲、金沢大学 人体病理学 原田 憲一
第 19 回日本乳癌学会中部地方会, 2022 年 9 月, 愛知

整形外科

(論文)

- 1, 田尻和八, 柳下信一, 山本崇史, 清水貴樹, 石原由基. 8 本の指の再接着後に近位指節
間関節の変形性関節症を 20 年追跡した 1 例. 整形外科 2022 ; 73 : 769-773
田尻和八, 柳下信一, 山本崇史, 清水貴樹, 石原由基

(学会発表)

- 1, 起因菌が同定されなかった化膿性脊椎炎の治療成績
井上啓、五之治行雄、山内大輔、木谷聡、岩永健志、奥規博第
第 45 回日本骨・関節感染症学会, 2021 年 7 月, 金沢
- 2, 内側円板状半月板損傷に対して手術を施行した 5 例
藤枝司、中瀬順介、吉水陸人、金山智之、梁取祐介、土屋弘行
第 139 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2022 年 10 月, 大阪
- 3, 経舟状骨月状骨脱臼を伴った舟状骨粉碎骨折に対して遊離血管付き骨移植を行った 1
例
藤枝司、山内大輔
第 49 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2022 年 11 月

- 4, Cup 突出のない Iliopsoas impingement の検討
片岡大往、加畑多文、楫野良知、井上大輔、山室裕紀、谷中惇、今武蔵、土屋弘行第
第 50 回日本股関節学会
- 4, Iliopsoas impingement 大腿骨側のリスク因子、治療法の検討
片岡大往、加畑多文、楫野良知、井上大輔、山室裕紀、谷中惇、今武蔵、土屋弘行
第 53 回日本人工関節学会

脳神経外科

(講演)

- 1, Perimesencephalic SAH 1 例
木村智輝、細田哲也、新井良和
第 247 回福井脳・神経疾患談話会, 2022 年 8 月, WEB
- 2, 極めて小さい破裂脳動脈瘤に行ったコイル塞栓術
山田慎太郎、細田哲也、新井良和
第 14 回福井脳神経外科歳末研究会, 2022 年 12 月, 福井

皮膚科

(論文)

1. Sekine S, Iino S, Nishimura K, Okamura S, Kasamatsu H, Oyama N, Hirai K, Hasegawa M. A case of refractory hypertrophic lupus erythematosus on the face whose irreversible skin fibrosis was treated by local full - thickness skin graft under disease control with a combined use of topical and systemic immunosuppressants, and hydroxychloroquine. *Journal of Cutaneous Immunology and Allergy*. 2023; 6: 63-65.
2. Hasegawa T, Oyama N, Kasamatsu H, Chino T, Taga M, Hasegawa M. Intertriginous erythema associated with enfortumab vedotin, a nectin-4-targeting antibody-drug conjugate, in a case with metastatic urothelial cancer: Immunohistochemical evidence for molecular-targeted eruption. *J Dermatol*. 2022; 49: e453-e454.
3. Iino S, Baba N, Hasegawa T, Kasamatsu H, Oyama N, Tokunaga T, Hasegawa M. Retrospective evaluation of the utility of two-step surgery for facial basal cell carcinoma and squamous cell carcinoma. *Front Surg*. 2022; 9: 915731.
4. Utsunomiya A, Chino T, Kasamatsu H, Hasegawa T, Utsunomiya N, Luong VH, Matsushita T, Sasaki Y, Ogura D, Niwa SI, Oyama N, Hasegawa M. The compound LG283 inhibits bleomycin-induced skin fibrosis via antagonizing TGF- β signaling. *Arthritis Res Ther*. 2022; 24: 94.

(学会発表)

- 1, A Rare Case of Fatal Panniculitis Caused by Occult Pancreatic Neuroendocrine Tumor
Hiroshi Kasamatsu, Noritaka Oyama, Minoru Hasegawa, Yohei Oku, Genki Inoue, Makiko Kimura, Masataka Kanno, Takumi Kawakami, Hajime Ohta, Manabu Yoneshima
第 121 回日本皮膚科学会総会, 2023 年 6 月, 京都府
- 2, Antifibrotic effects of a calpain inhibitor ALLN on bleomycin-induced systemic sclerosis model via antagonizing TGF- β /Smad signaling pathway
Hiroshi Kasamatsu, Takenao Chino, Takumi Hasegawa, Natsuko Utsunomiya, Akira Utsunomiya, Noritaka Oyama, Masami Yamada, Minoru Hasegawa.
51th Annual Meeting of the European Society for Dermatological Research (ESDR),
2022 年 9 月, アムステルダム オランダ
- 3, Blockade of calpain enzymatic activity exerts anti-fibrotic effects in bleomycin-induced systemic sclerosis model mice
Hiroshi Kasamatsu, Takenao Chino, Takumi Hasegawa, Natsuko Utsunomiya, Akira Utsunomiya, Noritaka Oyama, Masami Yamada, Minoru Hasegawa.
47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology (JSID),
2022 年 12 月, 長崎県
- 4, 皮下異物としての不整脈デバイス
笠松宏至、岡村咲由莉
第 138 回福井県皮膚科医会, 2023 年 3 月, 福井市
- 5, Phialemoniopsis cornearis による深在性皮膚真菌症の 1 例
岡村咲由莉、笠松宏至
日本皮膚科学会北陸地方会第 475 回例会 福井県分科会, 2022 年 9 月, 福井県
- 6, 発症後急速に拡大し、生検後に自然消退傾向にある Wells 症候群疑いの 1 例
岡村咲由莉、飯野史郎、関根史織、馬場夏希、坂井秀彰、尾山徳孝、長谷川稔
第 86 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2022 年 11 月, WEB
- 7, 発症後急速に拡大し、生検後に自然消退した好酸球性蜂窩織炎 (Wells 症候群) の 1 例
岡村咲由莉、飯野史郎、関根史織、馬場夏希、坂井秀彰、尾山徳孝、長谷川稔
第 4 回日本アレルギー学会北陸地方会
福井県分科会, 2022 年 9 月, 福井県, 2022 年 11 月, WEB
- 8, 高齢で診断し得た食事依存性運動誘発アナフィラキシーの 1 例
岡村咲由莉、笠松宏至、長谷川稔
第 86 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2023 年 3 月, 石川

(講演)

- 1, 市立敦賀病院におけるネイリンの使用経験からの考察
笠松宏至
爪白癬治療セミナー in 福井, 2022 年 7 月, 福井市

- 2, 全身性強皮症におけるカルパイン阻害剤の有用性の検討
笠松宏至
第 11 回皮膚科最新医療研究会, 2022 年 9 月, 東京都
- 3, 乾癬治療の変遷と最新動向
笠松宏至
福井県薬剤師会学術講演会, 2022 年 9 月, 福井市
- 4, 座長
笠松宏至
オンラインで” あおっさ” JAK ミーティング, 2022 年 11 月, 福井市
- 5, 病院皮膚科から見たコレクチム軟膏の使いどころ～成人・小児例から紐解く～
笠松宏至
これからのアトピー性皮膚炎診療を考える会, 2022 年 12 月, 福井市
- 6, アトピー性皮膚炎の病態と治療方法～当院におけるリンヴォックの使用経験～
笠松宏至
リンヴォック アトピー性皮膚炎 WEB セミナー, 2023 年 2 月, 福井市
- 7, 座長
笠松宏至
嶺南 Dermatology Seminar, 2023 年 3 月, 福井市
8. 帯状ほう疹とは?
笠松宏至
おじゃまっテレワイド&ニュース特集コーナー「健康いちばん」、2023 年 5 月 FBC 福井

産婦人科

(学会発表)

- 1, Hyperreactio Luteinalis を合併した双胎妊娠の一例
道倉絵里奈、秋元宏輝、山崎洋、高橋仁、田中政彰
第 30 回福井産婦人科腫瘍研究会, 2022 年 6 月, WEB

病理診断科

(論文)

- 1, Akihiro Shioya, Shintaro Terahata, Takahiko Nakajima, Toshiko Kakiuchi, Motona Kumagai, Jia Han, Sohsume Yamada. Recurrence of gastric adenocarcinoma of fundic-gland mucosa type with black spots after endoscopic submucosal dissection and oral proton pump inhibitor discontinuation. Pathology International. 2022; 72(8) 430-432.

(学会発表)

- 1, 神経細胞性分化を伴う小脳上衣腫の1例
中田聡子、中嶋隆彦、垣内寿枝子、寺畑信太郎、濱田秀雄、増岡徹、廣瀬隆則
第40回日本脳腫瘍病理学会，2022年5月，埼玉県
- 2, 当院における呼吸器領域のROSEの現状
酒野香織、水口敬司、嶋口智恵、下田 翼、藤田一希、森 龍也、林 万葉、岡室茉理恵、伊藤歩美、垣内寿枝子、阪口真希、吉村かおり、中田聡子、池田博子
第39回石川県臨床細胞学会学術集会，2022年6月，石川県
- 3, 当科における温存乳房内再発に対する手術症例の検討
野崎善成、林沙貴、清原薫、垣内寿枝子、中嶋隆彦、寺畑信太郎、瀧鈴佳
第30回日本乳癌学会学術総会，2022年6月，神奈川県
- 4, 耳下腺 Warthin 腫瘍に合併した Diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) の1例
福田弘幸、山城真磯、杉口祐恵、三井由紀子、西田秀昭、垣内寿枝子、中嶋隆彦、寺畑信太郎
第63回日本臨床細胞学会総会（春期大会），2022年6月，東京都
- 5, 眼窩内 signet-ring cell/histiocytoid carcinoma の一例
阪口真希、垣内寿枝子、伊藤歩美、吉村かおり、中田聡子、野島孝之、前田大地、池田博子
第33回北陸病理集談会，2022年10月，石川県
- 6, ブルーリ潰瘍の一例
中嶋隆彦、寺畑信太郎、垣内寿枝子、中田聡子
第33回北陸病理集談会，2022年10月，石川県
- 7, 経過が追えた BA/CMPT（細気管支腺腫/線毛性粘液結節性乳頭状腫瘍）の一例
斎藤祐己、小林知博、寺田華奈子、米田憲秀、井上大、奥田実穂、小坂一斗、小林聡、蒲田敏文、垣内寿枝子、池田博子、斎藤大輔、松本勲
日本医学放射線学会 第172回中部地方会，2023年2月，三重県

救急

(学会発表)

- 1, 後腹膜血腫?虚血症状だけでない正中弓状靭帯症候群の合併症
大野幸太、山田直樹、河野久美子、林泰生、川野貴久、森田浩史、林寛之
第 50 回 日本救急医学会総会・学術集会, 2022 年 10 月, WEB

2 医療支援部

(学会発表)

- 1, 退院後の生活を見据えて医療処置を継続する患者、家族を支援すること
中者香奈、林泰生、荒木隆一、佐藤友美、中根奈見子
第 22 回 北陸 PEG・在宅栄養研究会, 2022 年 5 月, WEB

(講演)

- 1, いちから始める地域連携
荒木隆一
磯子地区薬薬連携を進める会, 2022 年 7 月, WEB
- 2, 地域医療における薬剤師の使命と役割
荒木隆一
静岡医薬品安全性研究会, 2022 年 11 月, 静岡県
- 3, トレーシングレポートで連携の質向上
荒木隆一
福井県病院薬剤師会研修会 r, 2022 年 10 月, WEB
- 4, 2025 年と 2040 年 2つのミライを見据えた医療連携を考える
荒木隆一
宮城県病院薬剤師会, 2021 年 10 月, WEB
- 5, 2040 年に向けて薬剤師の求められる役割
荒木隆一
愛媛県病院薬剤師会研修会, 2022 年 9 月, WEB
- 6, 2040 年を見据えた地域医療連携
荒木隆一
広島県病院薬剤師会研修会, 2022 年 8 月, WEB
- 6, 薬剤師同士の連携をベースに地域医療に貢献する
荒木隆一
岐阜県病院薬剤師会研修会, 2023 年 2 月, WEB

3 医療技術部

放射線室

(学会発表)

- 1, 変形性膝関節症例に対する長尺 FPD の使用経験
蓮本享佑
令和 4 年度 OA エキスパートセミナー, 2022 年 7 月, 福井市
- 2, comparison of signal drop and positional difference between FSE T2-FLAIR
and PROPELLER T2-FLAIR during body motion
田泉 智明
第 50 回日本磁気共鳴医学会大会, 2022 年 9 月, 名古屋市
- 3, 今年の振り返り
田泉 智明
第 2 回放射線安全研修会, 2022 年 11 月, 院内

検査室

(論文)

1. 河野裕樹, 坊直美, 川端直樹, 清水和朗, 林泰生, 米島學. タスク・シフト/シェアを
目した臨床検査技師によるカプセル内視鏡検査の一元管理と一次読影 —当院のカプセ
ル内視鏡導入から現在に至るまでの軌跡と運用が奏功した症例—. 医学検査
2022;71:443-449.
河野裕樹, 坊直美, 川端直樹, 清水和朗, 林泰生, 米島學
2. 山本茉里, 福井直希, 後藤直樹, 東正浩, 藤本 一満. JSCC 処方および IFCC 処方自家調
製試薬によるアルカリ性ホスファターゼ活性測定 —令和元年度日臨技近畿支部臨床
化学実技研修会に参加して—. 医学検査 2022;71:719-724.
東正浩
3. 五十嵐隆夫, 進藤静生, 家永信彦, 原錬太郎, 豊田茂, 西村真一郎, 大成滋, 高崎好生, 宮河
真一郎, 山下祐二, 宇加江進, 角田修, 佐藤雅久, 後藤泰浩, 安藤徹, 川端直樹, 中田修二.
新しいノロウイルス抗原検査キット『クイックナビ™ —ノロ 3』の評価. 医学と薬学
2022;79:1063-1070.
安藤徹, 川端直樹

(著書)

1. 川端直樹. 学会レビュー第 60 回日臨技近畿支部医学検査学会. Medical Technology
2022;50 : 546..
川端直樹

(講演会)

- 1, 心エコーハンズオンセミナー実技
河野裕樹
第 71 回日本医学検査学会, 2022 年 5 月, 大阪府
- 2, 心エコー実技講師
河野裕樹
第 142 回日本循環器学会 北陸地方会, 2022 年 7 月, 大阪府
- 3, 血圧脈波検査を勉強しましょう～改定されたガイドラインを踏まえて～
河野裕樹
大臨技 生理検査部門定期講習会, 2022 年 7 月, WEB
- 4, 心エコー実技講師
河野裕樹, 坊直美
京臨技 超音波検査研修会, 2022 年 10 月, 京都府
- 5, これだけは知ってほしい! 検体採取の基礎知識
川端直樹
福井県看護協会 感染管理リーダー育成フォローアップ研修, 2022 年 10 月, WEB
- 6, 症例から学ぶ、心エコー図検査の活かし方
河野裕樹
第 5 回北陸超音波研究会, 2023 年 3 月, WEB

リハビリテーション室

(学会発表)

- 1, がん患者における急な機能低下に対し目標を再考することでQOL向上を図った一例
藤田栄 森田圭
第 26 回福井県理学療法学会, 2022 年 5 月, WEB
- 2, 当院リハビリテーション室の人材育成が職員の個人目標に影響したか?
増井正清、高井悦子
第 59 回日本リハビリテーション学会, 2022 年 6 月, 福井市
- 3, 多量下血により高度貧血を呈した腹部大動脈瘤-十二指腸瘻に対し、保存的治療・理学療法を実施した 1 例
森田圭 大澤拓実 大角拓也 高城理子
第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2022 年 6 月, WEB
- 4, 外来心リハ患者の 情報共有方法の変更を行った取り組みについて
大澤拓実 高木隆幸 森田圭
第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2022 年 6 月, WEB
- 5, 心肺運動負荷試験における漸増運動時間とプロトコルに関する検討
高木隆幸
第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2022 年 6 月, WEB

- 6, 福井県における糖尿病対策推進と理学療法士の関わり
増井正清
第8回日本糖尿病理学療法学会, 2022年9月, WEB
- 7, 当院リハビリテーション室職員における個人目標設定に関するカツモデルを用いた検討
増井正清、道野将也
第60回全国自治体病院学会 in 那覇, 2022年11月, 那覇市
- 8, 理学療法中に自殺企図をカミングアウトされた症例に対する初動対応と危機介入
森田圭 大澤拓実 大角拓也 高城理子
第60回全国自治体病院学会 in 那覇, 2022年11月, 那覇市
- 9, 逆さキツネ検査における認知症スクリーニングとしての有用性の検討
道野将也、増井正清
第60回全国自治体病院学会 in 那覇, 2022年11月, 那覇市

(講演会)

- 1, 運動療法
増井正清
第23期福井糖尿病療養指導担当者教育講習会, 2023年1月, 福井市
- 2, 理学療法士からみた糖尿病チーム医療
増井正清
Dia mond Seminar in 嶺南, 2022年10月, WEB
- 3, 摂臨床実習における学生評価
土田尚治
令和5年第1回臨床実習指導者講習会都道府県講習会, 2022年10月, 美浜町
- 4, 災害時の通信、衛星電話の使用方法
西田拓司
第1回 Fukui Logistics Advanced Training, 2023年1月, 福井市
- 5, 心不全管理は難しいのか?～わたしたちが出来ることは何か?～
高木隆幸
地域開放学習会, 2023年1月, 敦賀市

薬剤部

(学会発表)

- 1, 前立腺生検における感染予防抗菌薬の使用状況調査
舘山いづみ、新谷智則、岡田昌裕、佐藤友美
近畿薬剤師合同学術大会, 2023年2月, 京都

4 看護部

(学会発表)

- 1, 看護補助者の感染に対する認識と今後の教育の必要性

小堀和美

第 37 回 日本環境感染学会・学術集会, 2022 年 6 月, 横浜

- 2, 働き盛りのがん終末期患者の就労支援

砂原里子

第 27 回 日本緩和医療学会・学術大会, 2022 年 7 月, 神戸

令和4年度剖検一覧

剖検番号	性別	依頼科	主治医	臨床診断	病理診断	執刀医	CPC実施日	CPC会場	
1	13779	F	消内	清水 吉晃	誤嚥性肺炎 上部消化管イレウス(進行 胃癌疑い) DIC疑い	二重癌 1.胃癌 2.胆嚢癌術後	清水 吉晃	2022/6/24	金沢大学人体病理学教室
2	13785	M	内科	中川 浩実	尿路上皮癌多発転移 劇症1型糖尿病	二重癌 1.右腎盂尿管癌 2.膀胱癌	中川 浩実	2022/9/16	金沢大学人体病理学教室
3	13786	M	内科	近澤 亮	血球貪食症候群疑い 悪性リンパ腫疑い 胃腸炎	重症熱性血小板症候群(SFTS)	近澤 亮	2022/9/27	金沢大学人体病理学教室
4	13796	M	消内	清水 吉晃	播種性血管内凝固 急性腎不全	多重癌 1.膀胱癌 2.直腸癌 3.前立腺癌 4.肺腺癌	清水 吉晃	2023/2/22	金沢大学人体病理学教室
5	13801	M	内科	中川 浩実	誤嚥性肺炎 肺小細胞癌	多重癌 1.肺癌 2.肝癌	中川 浩実	2023/3/22	金沢大学人体病理学教室 市立敦賀病院(オンラインで 実施)
6	13802	F	乳外	横井 繁周 矢尾 祥子	右乳癌 肝転移	右乳癌	横井 繁周 矢尾 祥子	2023/3/16	市立敦賀病院
7	13805	M	内科	中嶋 康貴	肉腫型悪性中皮種	肉腫型悪性中皮種	中嶋 康貴	2023/3/28	金沢大学人体病理学教室

令和4年度 臨床病理検討会(CPC)一覧

+A2	開催日	開催場所	症例	臨床診断名	病理診断名	発表者	参加人数
1	2022年6月24日 金曜日	金沢大学人体病理学教室	70代男性	肺腺癌、傍腫瘍性神経症候群	肺癌	臨床医 中嶋 康貴 病理医 吉村 かおり	8名
2	2022年6月24日 金曜日	金沢大学人体病理学教室	80代女性	誤嚥性肺炎、上部消化管イレウス(進行胃癌疑い)	二重癌(胃癌、胆嚢癌術後)	臨床医 清水 吉晃 病理医 佐々木 素子	6名
3	2022年9月16日 金曜日	金沢大学人体病理学教室	80代男性	尿路上皮癌多発転移、劇症型1型糖尿病	二重癌(右腎盂尿管癌、膀胱癌)	臨床医 中川 浩実 病理医 佐々木 素子	5名
4	2022年9月27日 火曜日	金沢大学人体病理学教室	70代男性	血球貪食症候群疑い、悪性リンパ腫疑い	重症熱性血小板症候群(SFTS)	臨床医 近澤 亮 病理医 佐々木 素子	6名
5	2023年2月22日 水曜日	金沢大学人体病理学教室	60代男性	播種性血管内凝固、急性腎不全	多重癌(膀胱癌、直腸癌、前立腺癌、肺腺癌)	臨床医 清水 吉晃 病理医 佐々木 素子	5名
6	2023年3月16日 木曜日	市立敦賀病院	80代女性	右乳癌、肝転移	右乳癌	臨床医 横井 繁周 病理医 矢尾 祥子 佐藤 保則	13名
7	2023年3月22日 水曜日	金沢大学人体病理学教室	80代女性	誤嚥性肺炎、肺小細胞癌	多重癌(肺癌、肝癌)	臨床医 中川 浩実 病理医 吉村 かおり	3名
8	2023年3月28日 火曜日	金沢大学人体病理学教室	80男性	肉腫型悪性中皮種	肉腫型悪性中皮種	臨床医 中嶋 康貴 病理医 佐々木 素子	8名

VIII 臨床研修プログラム概要

<令和4年度 市立敦賀病院臨床研修プログラム概要と実績>

1. プログラムの名称

市立敦賀病院臨床研修プログラム

2. プログラムの目的と特徴

プライマリー・ケアを中心に、医師として必要な基本的診療能力（態度、技能、知識）を身に付け、患者とのコミュニケーションやチーム医療など医療人としての人格を涵養することがこの研修プログラムの目的です。

当院の卒後臨床研修は、協力型（金沢大学附属病院、福井大学医学部附属病院）および基幹型臨床研修病院として、病院群を形成し連携をとりながら研修を行います。また、地域医療における療養型病院、診療所などの研修をはじめとして、本院で行う各診療科のプログラムの一部を担うため、豊富な研修協力施設を設けています。

なお、当院の協力型研修は、金沢大学附属病院および福井大学医学部附属病院と各々たすきがけ方式を採用していますので、研修のコース選択によっては両大学病院の研修プログラムと全く同じか一部重複するところがあります。

3. 研修方式および研修内容

当院、敦賀温泉病院、つるが生協診療所などにおいて研修を行う。

(1) オリエンテーション

研修開始直後の数日間はオリエンテーションを行います。研修を円滑に実施できるよう、カルテの記載、インフォームド・コンセント、医療事故、院内感染、チーム医療、保険医療など、医療を行うために必要な事項を学びます。

(2) 基本科目研修

基本科目研修では、内科6ヶ月、救急3ヶ月（うち1ヶ月麻酔科可）、外科1ヶ月、小児科1ヶ月、産婦人科1ヶ月、精神科1ヶ月、地域医療1ヶ月の研修を行います。

①内科研修では、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、透析の内科領域の到達目標を達成できるようローテート研修します。

②救急研修では、救急初期診療の実践訓練を主体とします。全ての救急患者に対して、電話連絡の時点からの情報収集、患者や家族、救急隊へのアドバイスを含めて、救急室における初期診療全般に関して、救急・内科・麻酔科医師等の監督・指導のもとに実践します。また、ローテーション中に心肺蘇生のミニ訓練コース、外傷初期診療のミニ訓練コースを受講していただきます。

救急研修内で1ヶ月研修可で麻酔科研修では、麻酔科医療を適切に行うために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。

- ・患者の全身状態の把握の仕方と患者との接し方を会得する。
- ・呼吸、循環、代謝などの全身管理学の基本を手術麻酔管理を通じて身に付ける。
- ・手術室での研修を基本として、重症患者管理、救急蘇生、救急処置が速やかに行える技術を修得する。
- ・疼痛を中心とした神経管理・除痛、調整、回復蘇生の技術を外来、手術室、病室において研修する。

③外科研修では、外科的疾患に対する診断法・手術手技・術後管理の基本と外科的救急疾患へのプライマリ・ケアが修得できるよう研修します。

④小児科研修では、小児医療を適切に行うために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。

- ・小児および小児期の疾患の特性を学び、小児の診療の特性を学ぶ。

- ・ 検診などを通して発育、発達についての知識を深める。
 - ・ 年齢による検査値や薬用量の違いを知る。
 - ・ 母親など保護者との信頼関係の確立とコミュニケーションの保持に努める。
- ⑤産婦人科研修では、一般患者全般を診るために必要な産科婦人科診療を体験し学びます。具体的には、妊娠に関連する症状や異常、婦人科疾患による諸症状を、他の異常と見誤らない能力と知識を身につけます。
- ⑥精神科研修では、精神疾患に対する診断、治療、予防についての健全な臨床的判断とそれに必要な知識を修得します。
- ⑦地域医療では、「かかりつけ医」として必要な技能と判断力のうち最低限度のものを身につけることを研修します。

(3) 選択科目研修

選択科目研修は、それまでの研修で不十分であった部分を補ったり、将来の進路に合わせて研修医の自由選択により、本院の次の診療科等から選択して研修を行います。

内科（消化器、循環器、血液、アレルギー・膠原病、感染症、神経、脳血管障害、内分泌代謝、腎・透析・高血圧、呼吸器）、小児科、呼吸器外科、消化器外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、神経科精神科、救急・麻酔科・地域保健（二州健康福祉センター・福井県赤十字血液センター）

4. 研修協力病院・施設

地域の研修協力病院や研修協力施設と連携をとりながら効果的な研修を行います。これらの病院や施設には特色あるプログラムが用意されています。

- ・ 協力型臨床研修病院
 - 医療法人積善会 猪原病院（精神科）
 - 福井大学医学部附属病院救急部（救急）
 - 福井県立病院救急部（救急）
 - 金沢大学附属病院（内科）
 - 医療法人 敦賀温泉病院（精神科）
- ・ 臨床研修協力施設
 - 医療法人保仁会 泉ヶ丘病院（地域医療）
 - 美浜町東部診療所（地域医療）
 - 福井県医療生活協同組合つるが生協診療所（地域医療）
 - 福井県二州健康福祉センター（地域保健）
 - 福井県赤十字血液センター（地域保健）

5. 研修指導体制

研修の管理責任者は市立敦賀病院事業管理者であり、病院長のもとに研修管理委員会を置き、研修の計画から修了認定までを管理します。また研修期間中、プログラムおよび研修医の指導・管理を担当するプログラム責任者、研修医を直接指導し評価を行う研修指導医を置きます。

(1) 研修管理委員会

研修管理委員会は、事業管理者、病院長、プログラム責任者、各診療科研修実施責任者および臨床研修協力病院、地域保健・医療を含めた研修協力施設の代表者および事務責任者で組織し、臨床研修プログラムおよび研修医の管理、評価等を行います。

(2) プログラム責任者（臨床研修センター長 米島 學）

プログラム責任者は、研修プログラム全体を統括し、全研修期間を通して研修医の指導・管理を行います。また各診療科および各臨床研修協力病院に研修実施責任者を置き、当該診療科等の研修期間中プログラムを管理し、研修医の指導・管理を行います。

(3) 研修指導医

指導医は、研修プログラムに基づき直接研修医を指導し、研修医に対する評価を行います。

指導医は臨床経験7年以上の指導医講習会受講済者で、プライマリ・ケアを中心とした指導を行える十分な能力を有する者とし、診療科長の推薦により病院長が任命します。なお、研修協力病院および研修協力施設の指導医はその病院または施設の長に委ねます。

(4) 臨床研修の評価と修了認定

- ①指導医は担当する診療科での研修期間中、研修目標の到達状況を適宜把握し、研修実施責任者に報告します。
- ②各診療科の研修実施責任者は、当該研修期間が終了したとき、研修医の目標到達状況をプログラム責任者および研修管理委員会に報告します。
- ③研修管理委員会は、研修終了時に、勤務記録、行動目標や経験目標の到達度などで総合的な評価を行います。病院長は、研修管理委員会が臨床研修を修了したと認めるときは臨床研修修了証書を交付します。また、臨床研修を修了したと認めないときは、その理由を文書で研修医に通知します。

6. 研修医の募集人員および選抜方法

基幹型研修プログラムを全国に公開し、マッチング方式により全国から募集します。大学病院との協力型研修の場合は、全国公募はありません。応募の窓口は臨床研修センターとします。

(1) 募集人員

6名

(2) 選抜方法

研修医の選抜は、書類審査および面接により行います。面接は夏季休暇期間中に複数回実施します。出願書類、選抜期日など詳細は決定次第発表します。

(3) 選考結果通知

医師臨床研修マッチングの結果により決定し、速やかに本人に通知します。

7. 処遇

処遇については以下のとおりです。なお、研修協力病院における処遇は、当該病院の定めるところによります。

身分	フルタイム会計年度任用職員職員
給与	1年次 468,255円(令和3年4月1日現在) 2年次 490,575円(令和3年4月1日現在) (医師手当を含む。)
その他手当 賞与	超過勤務手当、宿日直手当等 1年次 計 834,690円(令和3年4月1日現在) 2年次 計 1,256,900円(令和3年4月1日現在)
勤務時間	8時30分～17時15分
休日・休暇	土・日曜日、祝日、夏期休暇、年次休暇、特別休暇等 (正規職員に準ずる。)
宿舎	あり
社会保険等	社会保険、厚生年金、労災保険、雇用保険適用
医師賠償責任保険	施設として加入
その他	学会、研修会の旅費および負担金の支給あり

8. 臨床研修ローテーション表

- ・1年次 基本研修科目(基本パターン)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科			救急			内科			外科	小児科	産婦人科

*必修科目は、内科6ヶ月、救急3ヵ月（うち1ヶ月麻酔科可）、外科、小児科、産婦人科、精神科の中から3科目を各1ヶ月とし、研修を行っていない科目については2年次に1ヶ月研修

*外科は外科、整形外科、脳神経外科等より全身を管理する科目を研修医の希望により選択可

*内科研修時に4週以上の一般外来を研修（2年次でも可）

*内科又は外科研修時に在宅医療（訪問診療）を研修（2年次でも可）

・2年次 必修科目および選択科目（基本パターン）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域医療	精神科	選択科目									

*1年次に研修を行っていない必修科目（外科、小児科、産婦人科、精神科）1ヶ月

*選択科目のうち9ヶ月以上は、市立敦賀病院における研修とする。

*2年次に1週間、福井県赤十字血液センター研修を行う。

< 初期研修医の採用状況 >

年度	定員 (基幹型)	採用数 (協力型含む)	出身大学
平成16年度	4	1	福井大学
平成17年度	4	4	福井大学(3)、金沢大学
平成18年度	4	3	福井大学(3)
平成19年度	6	2	福井大学、兵庫医科大学
平成20年度	6	6	福井大学(2)、金沢大学、山梨大学 昭和大学、慶應義塾大学
平成21年度	6	3	金沢大学、関西医科大学、広島大学
平成22年度	6	6	福井大学、金沢大学、東京大学 滋賀医科大学(2)、島根大学
平成23年度	6	8	金沢大学(2)、北海道大学、高知大学 大阪市立大学、熊本大学、佐賀大学、三重大学
平成24年度	6	4	金沢大学、高知大学、三重大学 関西医科大学
平成25年度	6	5	福井大学、金沢大学、新潟大学、 大阪医科大学、関西医科大学
平成26年度	6	5	福井大学(2)、金沢大学、 旭川医科大学、大阪市立大学
平成27年度	6	3	福井大学(2)、大阪市立大学
平成28年度	6	5	福井大学(2)、京都府立大学、 近畿大学、旭川医科大学
平成29年度	6	3	山口大学、大阪市立大学、信州大学
平成30年度	6	3	福井大学、金沢大学、近畿大学
平成31年度	6	7	福井大学(6)、金沢大学
令和2年度	6	2	福井大学(2)
令和3年度	6	5	福井大学(4)、金沢大学(1)
令和4年度	6	2	福井大学(2)
令和5年度	6	5	福井大学(5)

研修施設認定一覧表

令和5年4月現在

認定番号	名 称	有効期限
801	日本内科学会教育病院	R7. 3. 31
0774	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	R6. 3. 31
20005	日本消化器病学会認定施設	R6. 12. 31
20029	日本消化器内視鏡学会指導施設	R5. 11. 30
200301022	日本腎臓学会研修施設	R6. 3. 31
841	日本肝臓学会認定施設	R6. 3. 31
00102	日本呼吸器学会認定施設	R6. 3. 31
18007	日本消化器外科学会専門医修練施設	R6. 12. 31
180005	日本外科学会外科専門医制度修練施設	R5. 12. 31
01-000056	N S T 稼動施設	R6. 3. 31
2813	マンモグラフィ検診施設	R5. 9. 30
0006	日本整形外科学会研修施設	-
-	日本脳神経外科学会専門医制度関連施設	-
891	日本脳卒中学会認定研修教育病院	R5. 12. 31
-	一次脳卒中センター（PSC）	R6. 3. 31
86046436	日本泌尿器科学会専門医教育施設	R8. 3. 31
3053	日本眼科学会専門医制度研修施設	R5. 9. 30
-	日本産婦人科学会専門研修連携施設	-
PC20005	日本周産期・新生児医学会暫定研修施設（補完研修施設）	R8. 3. 31
675	日本麻酔科学会麻酔科認定病院	R6. 3. 31
2015019	日本ペインクリニック学会指定研修施設	R7. 3. 31
0832	日本臨床細胞学会施設	R5. 3. 31
1013	日本透析医学会認定施設	R7. 3. 31
3042	日本口腔外科学会准研修施設	R8. 9. 30
修-584	日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関	R6. 3. 31
4058-01	日本乳腺学会関連施設	R5. 12. 31
-	地域包括医療、ケア認定施設	-

新専門医制度 基幹・連携施設領域別一覧表

令和5年4月現在

<基幹施設>

領域	連携施設及び特別連携施設の名称
内科	金沢大学附属病院
	福井大学医学部附属病院
	福井県済生会病院
	国立病院機構敦賀医療センター
	美浜町東部診療所
総合診療	金沢大学附属病院
	公立穴水総合病院
	社会医療法人財団董仙会恵寿ローレルクリニック
	金沢医科大学病院
	石川県立中央病院
	公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院
	新潟県厚生農業協同組合連合会上越総合病院
	珠洲市総合病院
	市立輪島病院
	市立輪島病院舳倉診療所
	公立宇出津総合病院
	公立穴水総合病院兜診療所
	公立能登総合病院
	社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院
	国民健康保険志雄病院
	公立羽咋病院
	津幡町国民健康保険直営河北中央病院
	独立行政法人国立病院機構金沢医療センター
	金沢市立病院
	公立松任石川中央病院
	公立つるぎ病院
	独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
	石川県済生会金沢病院
	国家公務員共済組合連合会北陸病院
	金沢赤十字病院
	医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
	金沢医療生活協同組合けんろく診療所
	紺谷内科婦人科クリニック
	国民健康保険小松市民病院
	国民健康保険能美市立病院
	医療法人社団和楽仁芳珠記念病院
	公益社団法人石川勤労者医療協会寺井病院
	加賀市医療センター
	富山医療生協協同組合富山協立病院
	富山医療生活協同組合水橋診療所
	福井県医療生活協同組合光陽生協病院
	福井県医療生活協同組合光陽生協クリニック
	つるが生協診療所

領域	基幹施設の名称
内科	金沢大学附属病院
	福井大学医学部附属病院
	金沢医科大学病院
	福井県立病院
	福井県済生会病院
	岐阜県総合医療センター
小児科	福井大学医学部附属病院
	福井県立病院
外科	福井大学医学部附属病院
整形外科	金沢大学附属病院
脳神経外科	福井大学医学部附属病院
皮膚科	金沢大学附属病院
泌尿器科	福井大学医学部附属病院
産婦人科	金沢大学附属病院
	福井県立病院
放射線科	金沢大学附属病院
	福井県立病院
麻酔科	福井大学医学部附属病院
救急科	福井大学医学部附属病院
	福井県立病院
病理	金沢大学附属病院
総合診療	福井大学医学部附属病院
	杉田玄白記念公立小浜病院

参 考 资 料

市立敦賀病院の患者権利章典

患者さんは、人間としての尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は患者さんと医療従事者との互いの信頼関係の上に成り立つものであり、患者さんに主体的に参加していただくことが必要です。

当院では、このような考え方にに基づき、ここに「市立敦賀病院の患者権利章典」を制定します。

患者さんの権利

1 良質な医療を公平に受ける権利

社会的な地位、信条、障害の有無などに関わらず、良質な医療を公平に受ける権利があります。

2 個人の人格が尊重される権利

個人の人格、価値観などが尊重され、医療従事者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

3 個人の情報やプライバシーが守られる権利

診療に関する個人情報やプライバシーは厳正に保護される権利があります。

4 病気、検査、薬、治療方法などについて、十分な説明、情報提供を受ける権利

自分が受ける治療や検査の効果や危険性、薬の効果や副作用、他の治療方法の有無などについて、理解できるまで十分な説明を受ける権利があります。

5 治療方法などを自らの意思で選択する権利

十分な説明、情報提供を受けた上で、自分の治療計画を立てる過程に参加し、治療法などを自らの意思で選択する権利があります。その際、別の医療機関の意見（セカンド・オピニオン）を聞きたいというご希望も尊重します。

6 自分が受けている医療について知る権利

自分が受けている医療について不明なことがあれば、医療従事者に質問することができ、自分の診療記録の開示を求める権利があります。

患者さんにしていただきたいこと

7 医療に関する説明に対し、十分理解できるまで質問してください

納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについては、十分理解できるまで質問してください。

8 自身の健康に関する情報を正確に提供してください

良質な医療を実現するために、医療従事者に対し、患者さん自身の健康に関する情報（家族歴、既往歴、アレルギーの有無など）をできるだけ正確に提供してください。

9 必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください

治療効果の向上のために、医療従事者とともに病気を治していくという姿勢で、必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください。

10 他の患者さんが適切な治療を受けられるように配慮してください

患者さんは通常の社会生活にはない制約を受けざるを得ない場合もあります。病院の規則などを守り、他の患者さんの治療や病院職員による業務などに支障を与えないよう配慮してください。

市立敦賀病院 職業倫理規程

医学及び医療は、病める人の治療はもとより人々の健康の維持・増進を図るものであり、すべての職員が病院理念及び基本方針に基づき、意欲と誇りをもってその使命を果たすことを目的として、次のとおり職業倫理に関する規程を定める。

- 1 職員は、質の高い医療の提供を目指し、知識と技術の習得に努めます。
- 2 職員は、患者さんの人権及び人格を尊重し、良心をもって医療を提供します。
- 3 職員は、互いの尊敬と理解のもと、協力して医療を提供します。
- 4 職員は、公務員としての責任を自覚し、医療の公共性を重んじ、医療を通じ社会の発展に貢献するとともに、法規範の遵守及び法秩序の形成に努めます。
- 5 職員は、より質の高い医療の提供のため、自己の心身健康の保持増進に努めます。

医療事故防止のための8カ条

- 第1条 医療従事者は、医療事故はいつでも起こりうるものであるという「危機意識」を常に持ち業務にあたる。
- 第2条 患者さん最優先の医療を徹底し、患者さん本位の医療を実践する。
- 第3条 業務にあたっては基本的事項の遵守と確認、再確認を徹底する。
- 第4条 患者さんとのコミュニケーションには十分配慮し、患者さんや家族への説明は、その内容が十分理解されるよう心がける。
- 第5条 診療に関する諸記録は正確かつ丁寧に記載するとともに、相互チェックを実施する。
- 第6条 自己の健康管理には十分留意し、万全の体制で業務にあたる。
- 第7条 職員の具体的、実践的な教育・研修を実施する。
- 第8条 病院管理者、所属長が率先して医療事故防止に対する意識改革を実践する。

病院年報編集委員会

編集委員長 新井 良和

編集委員 竹内 一雄 高橋 秀房

山岸 茂樹 小堀 和美

増井 正清 上野 建吾

永田 恵美

森田 定善 竹内 裕哉

市立敦賀病院年報（令和4年度）

令和6年3月発行

編集 病院年報編集委員会

発行 市立敦賀病院

〒914-8502 福井県敦賀市三島町1-6-60

TEL (0770)22-3611 FAX (0770)22-6702

